

粕屋町男女共同参画に関する意識調査 報 告 書

令和元年 12 月

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の性格	1
4. 回答者の属性	2
5. 調査結果利用上の注意	4

II 調査結果

第1章 男女平等に関する意識について

1. 男女の地位の平等感	5
2. 性別役割分担意識	18
3. 子どもの育て方について	20
4. 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること	24

第2章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担の状況	26
2. ワーク・ライフ・バランスの希望と現実	35
3. 男性の育児休業・介護休業取得について	38
4. 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと	41

第3章 地域活動について

1. 地域づくりにかかわる活動への参加状況	43
2. 地域づくりにかかわる活動に参加していない理由	45
3. 役職、公職への就任や立候補を依頼された場合の対応	47
4. 役職、公職への就任や立候補を断る理由	49
5. 住んでいる地域での状況	51
6. 地域活動で女性の積極的な参画を進めるために必要なこと	53
7. 災害に備えるために必要なこと	55

第4章 職業について

1. 女性が職業をもつことについての考え方	57
2. 女性が職業をもち続けられない方がよいと思う理由	60
3. 女性が職業をもち続けるために必要なこと	62

第5章 セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

1. 妊娠や性に関する考え方	65
2. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について	67
(1) セクハラの実験、見聞き	67
(2) セクハラを受けた場所	68
(3) セクハラを受けたときの対応	69
3. 暴力の認知	70
4. 配偶者・パートナーからの暴力について	76
(1) ここ3年間の配偶者・パートナーからの暴力の実験	76
(2) 相談先	81
(3) 相談しなかった理由	83
5. 暴力相談窓口の認知	84
6. セクハラや暴力をなくすために必要なこと	86

第6章 男女共同参画社会の実現について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知	88
2. 男女共同参画社会を実現するために行政が今後力を入れること	90

調査結果のまとめ	92
----------	----

参考資料

使用した調査票	99
---------	----

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は「粕屋町男女共同参画基本計画（後期計画）」の策定にあたり、町民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の内容

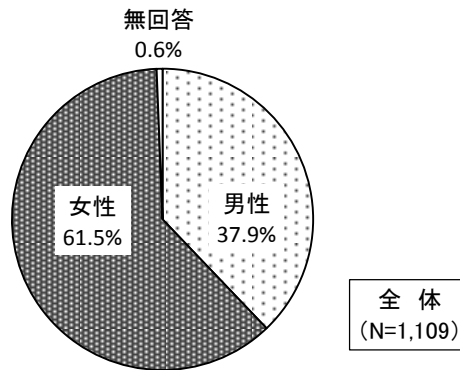
- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 地域活動について
- (4) 職業について
- (5) セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

3. 調査の性格

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| (1) 調査地域 | 粕屋町内全域 |
| (2) 調査対象者 | 粕屋町内に居住する満20歳から79歳までの男女
3,000サンプル |
| (3) 有効回収数 | 1,109人（有効回収率37.0%） |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳による無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 平成31年4月19日（金）～令和元年5月15日（水） |
| (7) 調査企画 | 粕屋町協働のまちづくり課 |
| (8) 調査の実施 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 |
| (9) 分析の監修と
まとめ | 倉富史枝（特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所理事） |

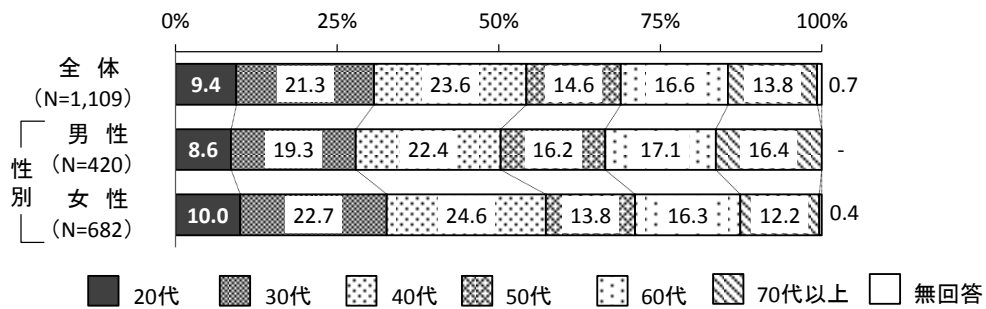
4. 回答者の属性

◎性別



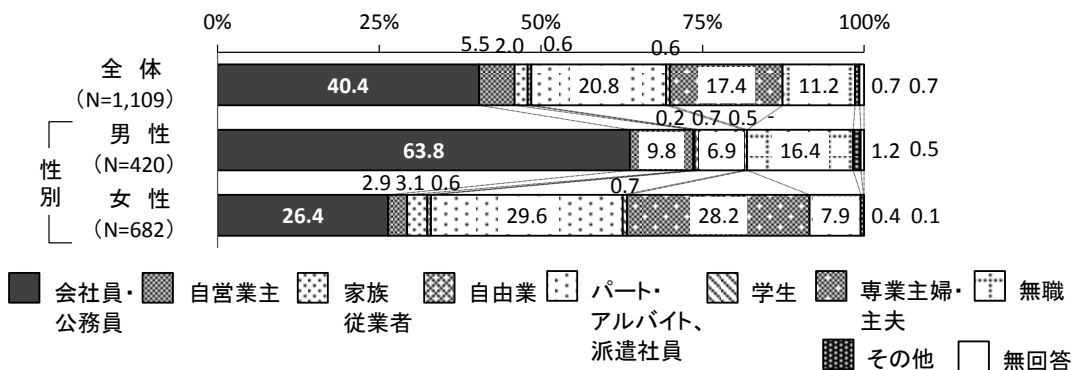
回答者の性別は「男性」が37.9%、「女性」が61.5%と女性の回答が2割ほど多い。

◎年代



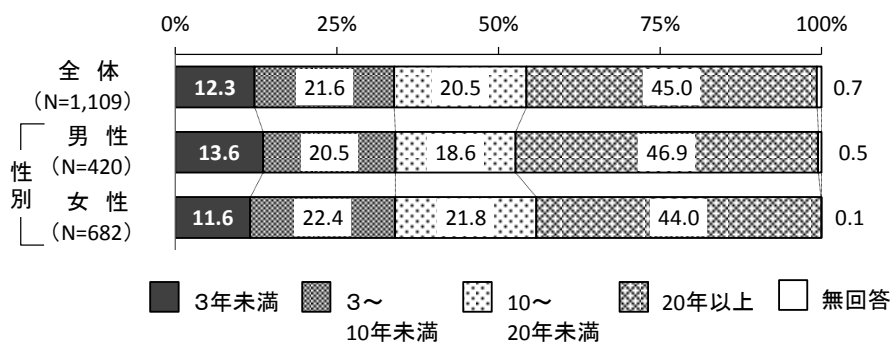
回答者の年代は「40代」が23.6%で最も多い。次いで「30代」が21.3%、「60代」が16.6%、「50代」が14.6%、「70代以上」が13.8%、「20代」が9.4%となっている。男性は『50代以上』の割合が7.4ポイント女性よりも高く、反対に女性は『40代以下』の割合が7ポイント高い。

◎職業



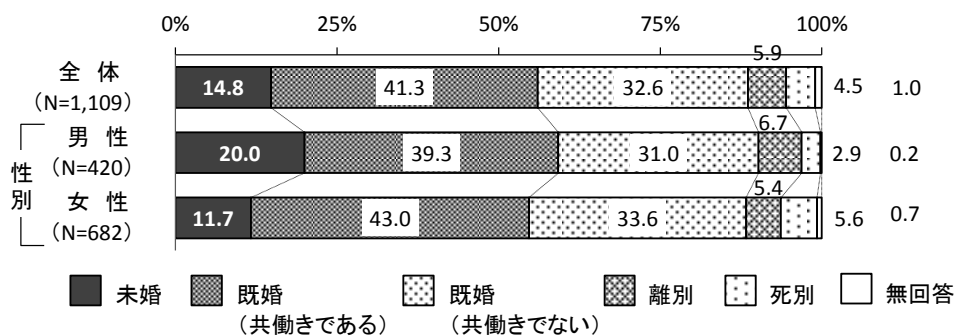
回答者の職業は、男性は「会社員・公務員」が63.8%と最も高く、女性は「パート・アルバイト、派遣社員」(29.6%)と「専業主婦」(28.2%)が各々約3割、「会社員・公務員」(26.4%)が2割半ばとなっている。

◎居住年数



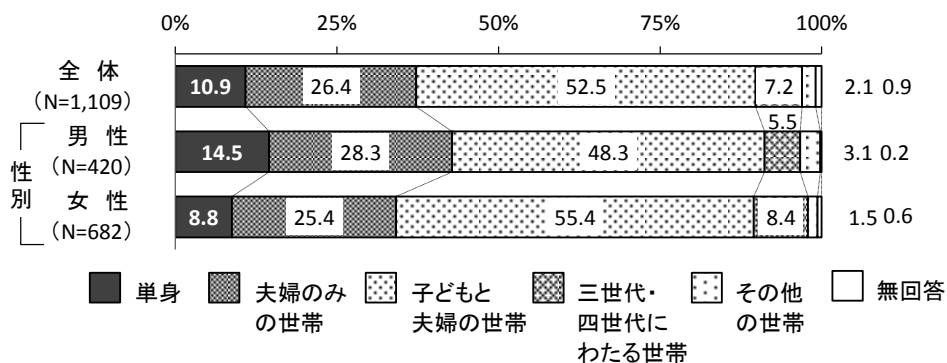
回答者の居住年数は、男女とも「20年以上」が4割半ばで最も多いが、「3年未満」も1割台と比較的が多い。

◎配偶関係



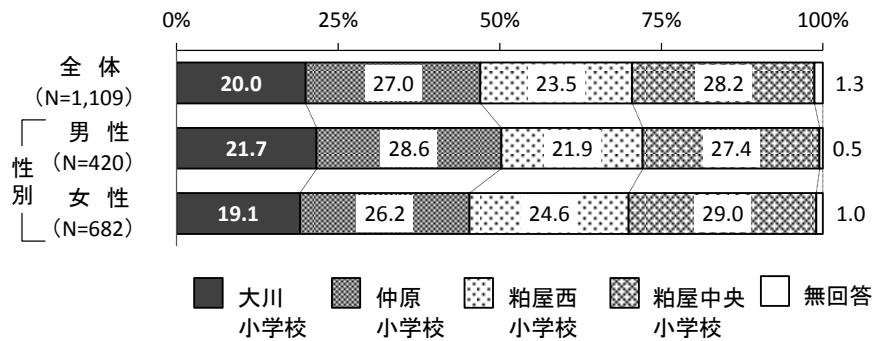
回答者の配偶関係は、「未婚」は男性の方が8.3ポイント、「既婚」は女性の方が6.3ポイント多い。また、男女とも既婚者のうち共働きである世帯の方が共働きでない世帯よりも多い。

◎家族形態



回答者の家族形態は、「子どもと夫婦の世帯」いわゆる二世帯世帯が約半数を占め、「夫婦のみの世帯」が2割半ばとなっている。

◎居住地区



回答者の居住地区は「大川小学校」が 20.0%、「仲原小学校」が 27.0%、「粕屋西小学校」が 23.5%、「粕屋中央小学校」が 28.2%である。

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○-○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

粕屋町 「男女共同参画社会に関する意識調査」平成26年8月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」平成26年12月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施

内閣府 「男女間における暴力に関する調査」平成29年12月実施

II 調查結果

II 調査結果

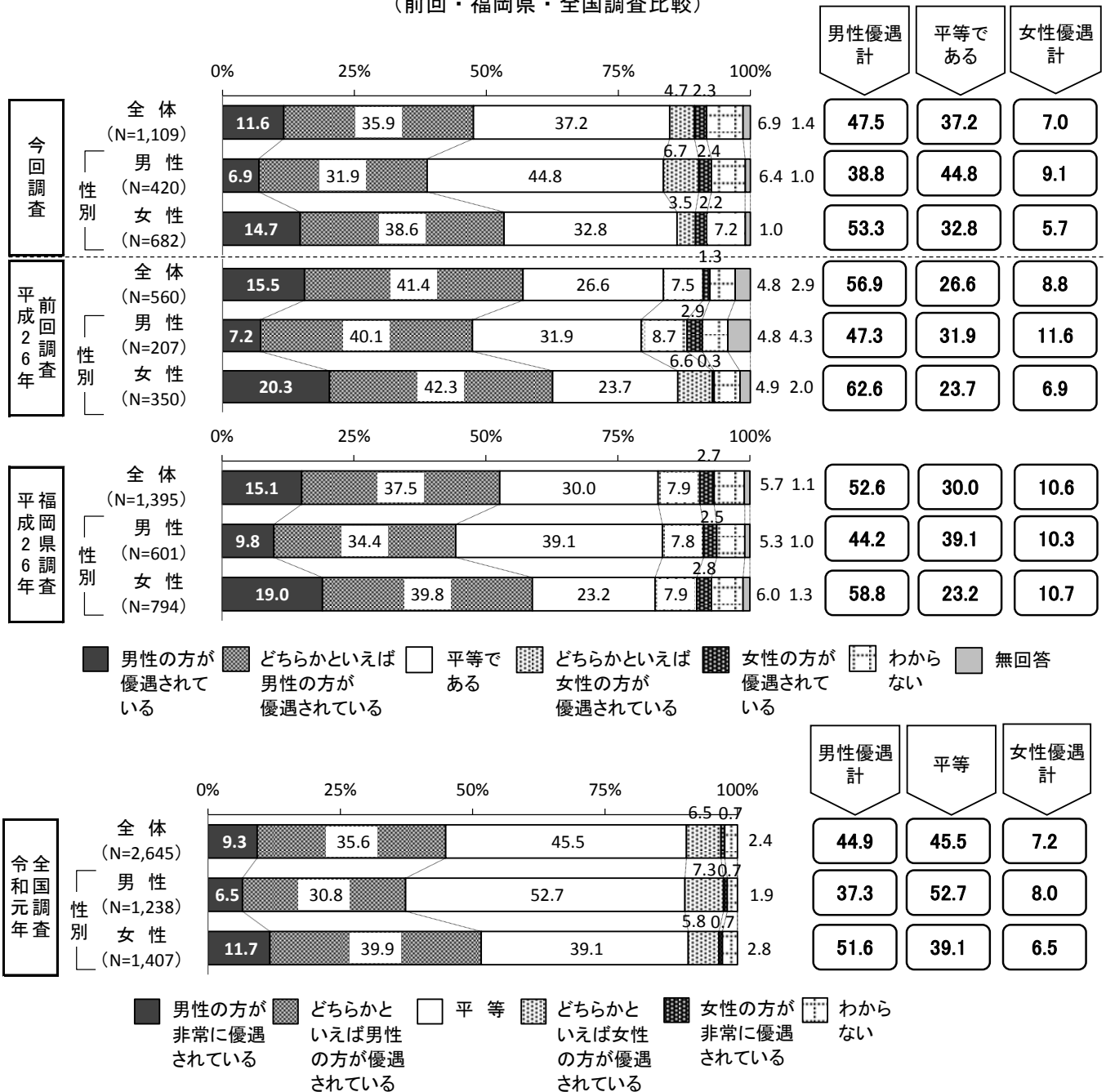
第1章 男女平等に関する意識について

1. 男女の地位の平等感

問1. あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 次の(ア)から(ク)のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

(ア) 家庭生活で

図表1-1 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別]
 (前回・福岡県・全国調査比較)



「家庭生活」における男女の地位について、「平等である」は37.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は35.9%となっている。どちらかといえば男性優遇に「男性の方が優遇されている」(11.6%)を合わせた『男性優遇』は47.5%と5割弱となっている。「女性の方が優遇されている」(2.3%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(4.7%)を合わせた『女性優遇』は7.0%と1割に満たない。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は53.3%に対し、男性は38.8%と女性の方が14.5ポイント高く、男性の「平等である」は44.8%に対し、女性は32.8%と男性の方が12ポイント高くなるなど、女性は「家庭生活」では男性の方が優遇されていると感じているが、男性は女性が感じるほど自身が優遇されていると感じておらず、平等であると感じているようである。

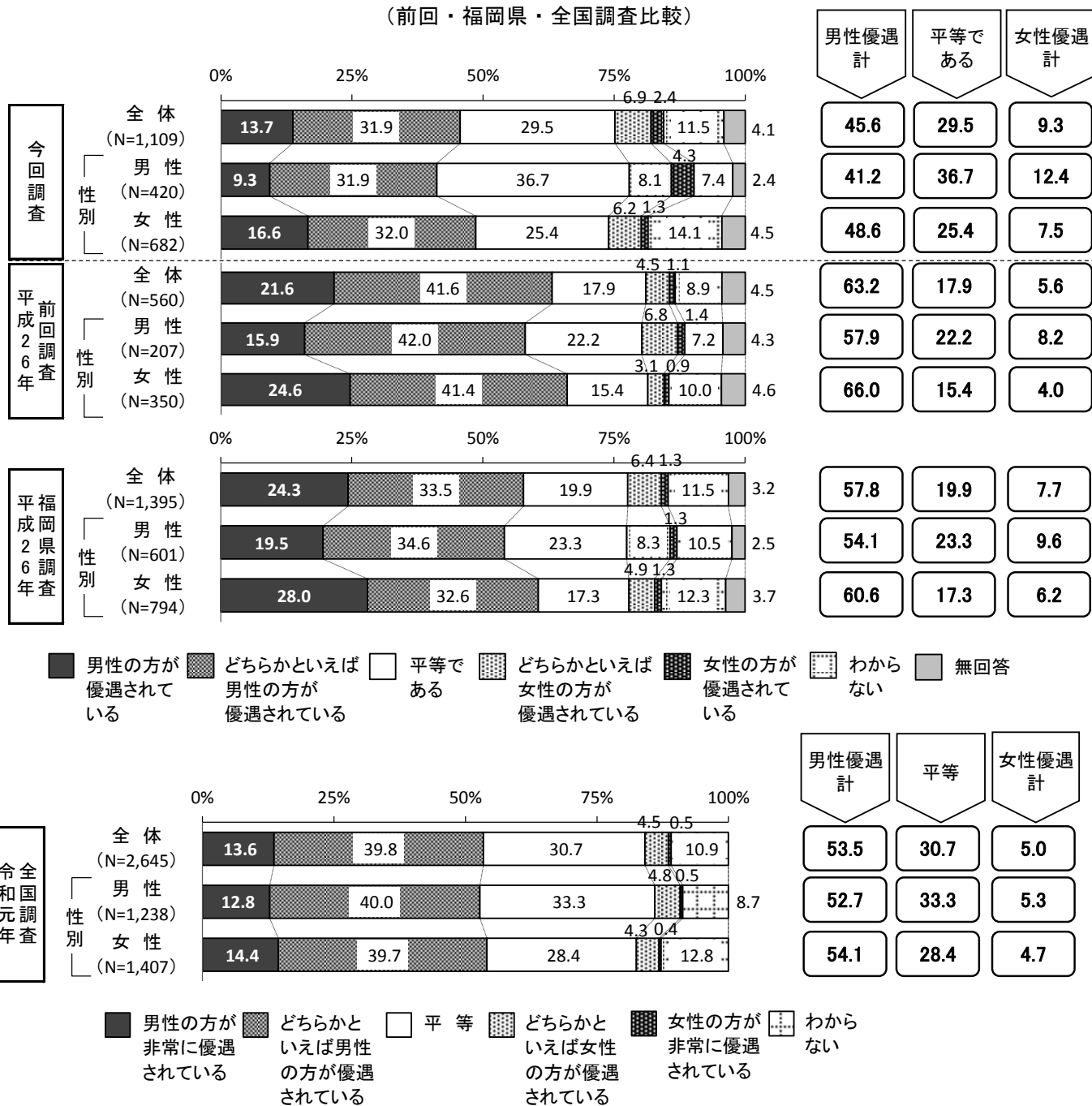
平成26年8月に実施された「男女共同参画社会に関する意識調査」(以下、前回調査という)と比べると、男女とも『男性優遇』が9ポイント前後減少、『女性優遇』もやや減少し、「平等である」の割合が約9～13ポイント増えるなど、前回調査よりも家庭生活での不平等感は弱くなっている。

平成26年12月に実施された「福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、福岡県調査という)と比べると、「平等である」の割合は男女とも約6～10ポイント高く、『男性優遇』は約5ポイント低いなど今回調査の方が男女とも平等感が高い。

令和元年9月に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、今回調査の方が男女とも「平等である」の割合は約6～8ポイント低く、平等感も男女とも低い。

(イ) 職場で

図表 1-2 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「職場」における男女の地位については、『男性優遇』は 45.6%、「平等である」は 29.5%となっている。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は 48.6%であるのに対し、男性は 41.2%と女性の方が 7.4ポイント上回っている。男性は「平等である」が 36.7%であるのに対し、女性は 25.4%と男性の方が 11.3ポイント上回り、また『女性優遇』も男性が 12.4%と女性 (7.5%) を 4.9ポイント上回るなど、性別による違いがみられる。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』は 17ポイント前後減少し、「平等である」が 10~14.5ポイント増加するなど、今回調査の方が職場での不平等感は低くなっている。

第1章 男女平等に関する意識について

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が今回調査の方が約12～13ポイント低く、「平等である」が約8～13ポイント高いなど今回調査の方が男女とも平等感が高い。

全国調査と比べると、全国調査では『男性優遇』の割合は男女とも5割を超えているが、今回調査では男女とも『男性優遇』が4割台と低く、『女性優遇』が男性では7.1ポイント高いなど男性においては、全国ほど職場では『男性優遇』と感じられていないようである。

職業・職種別でみると、女性の家族従業者で『男性優遇』が57.2%と5割を超えており、また会社員・公務員でも49.4%と約5割と高くなっている。

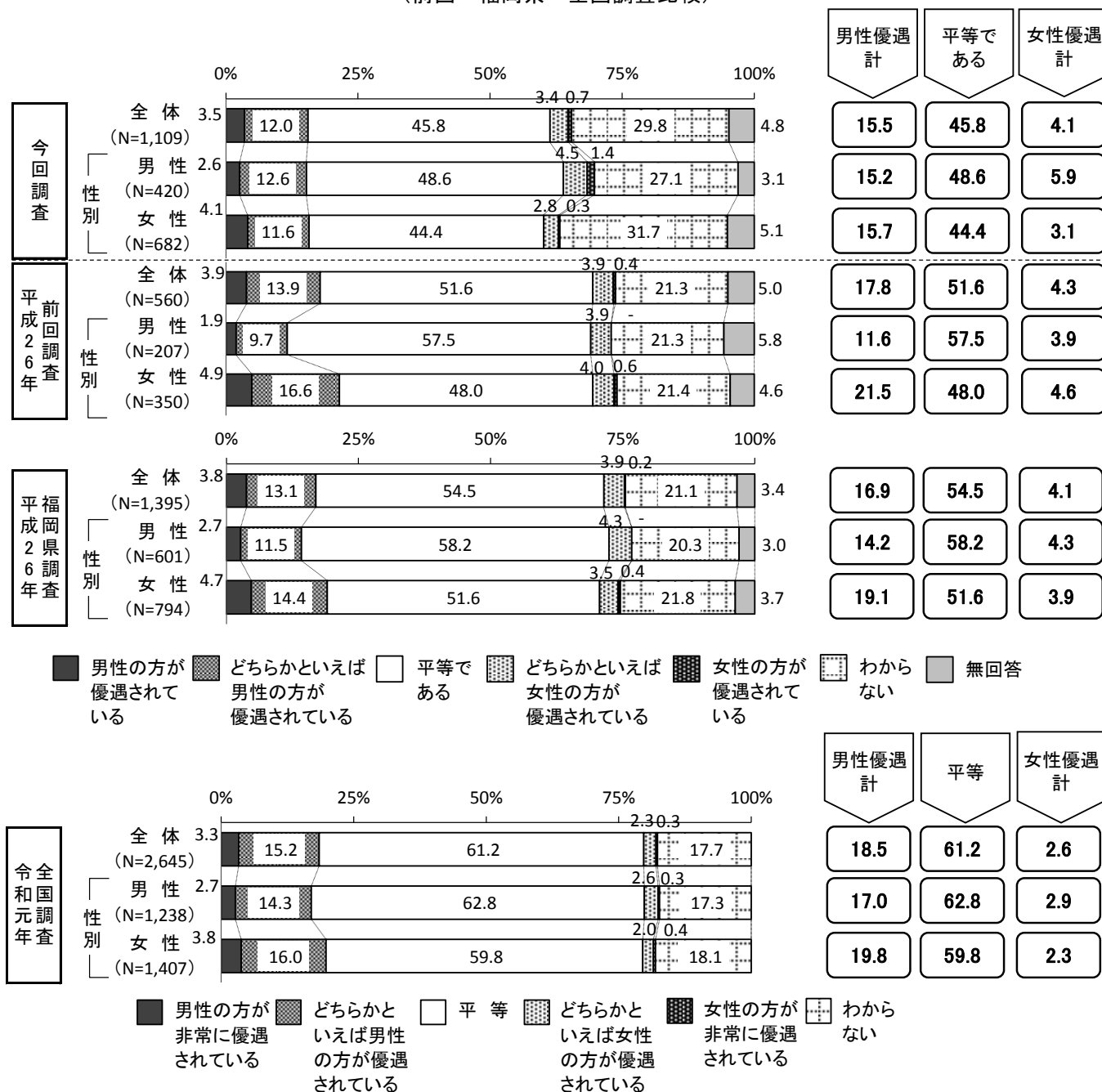
図表1-3 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業・職種別]

(%)

	標本数	男性が優遇	どちらか一方が優え	平等である	どちらか一方が優え	女性が優遇	わからない	無回答	男性優遇	女性優遇	
全体	1,109 100.0	152 13.7	354 31.9	327 29.5	76 6.9	27 2.4	127 11.5	46 4.1	506 45.6	103 9.3	
職業・職種別	男性:会社員・公務員	268	7.8	34.7	40.3	10.4	4.5	1.5	0.7	42.5	14.9
	男性:自営業主	41	12.2	26.8	39.0	-	4.9	14.6	2.4	39.0	4.9
	男性:家族従業者	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	男性:自由業	3	-	33.3	66.7	-	-	-	-	33.3	-
	男性:パート・アルバイト、派遣社員	29	17.2	17.2	44.8	10.3	10.3	-	-	34.4	20.6
	男性:学生	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-
	男性:専業主夫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:無職	69	11.6	31.9	13.0	4.3	1.4	27.5	10.1	43.5	5.7
	男性:その他	5	-	20.0	80.0	-	-	-	-	20.0	-
	女性:会社員・公務員	180	20.0	29.4	33.3	10.0	2.2	4.4	0.6	49.4	12.2
	女性:自営業主	20	10.0	35.0	30.0	10.0	-	-	15.0	45.0	10.0
	女性:家族従業者	21	14.3	42.9	28.6	-	-	14.3	-	57.2	-
	女性:自由業	4	50.0	50.0	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性:パート・アルバイト、派遣社員	202	15.3	25.2	42.1	9.4	1.5	5.4	1.0	40.5	10.9
	女性:学生	5	-	60.0	-	-	-	40.0	-	60.0	-
	女性:専業主婦	192	15.6	38.5	6.8	1.6	0.5	29.7	7.3	54.1	2.1
女性:無職	54	14.8	35.2	3.7	-	1.9	25.9	18.5	50.0	1.9	
女性:その他	3	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	
無回答	10	10.0	30.0	-	-	-	10.0	50.0	40.0	-	

(ウ) 学校教育の場で

図表 1-4 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「学校教育の場」における男女の地位については、「平等である」が45.8%と全ての分野の中で最も高くなっている。一方で「わからない」も29.8%と8分野中最も高く、学校教育の場は平等であるという認識はあるものの、実態は把握しにくい様子が見られる。

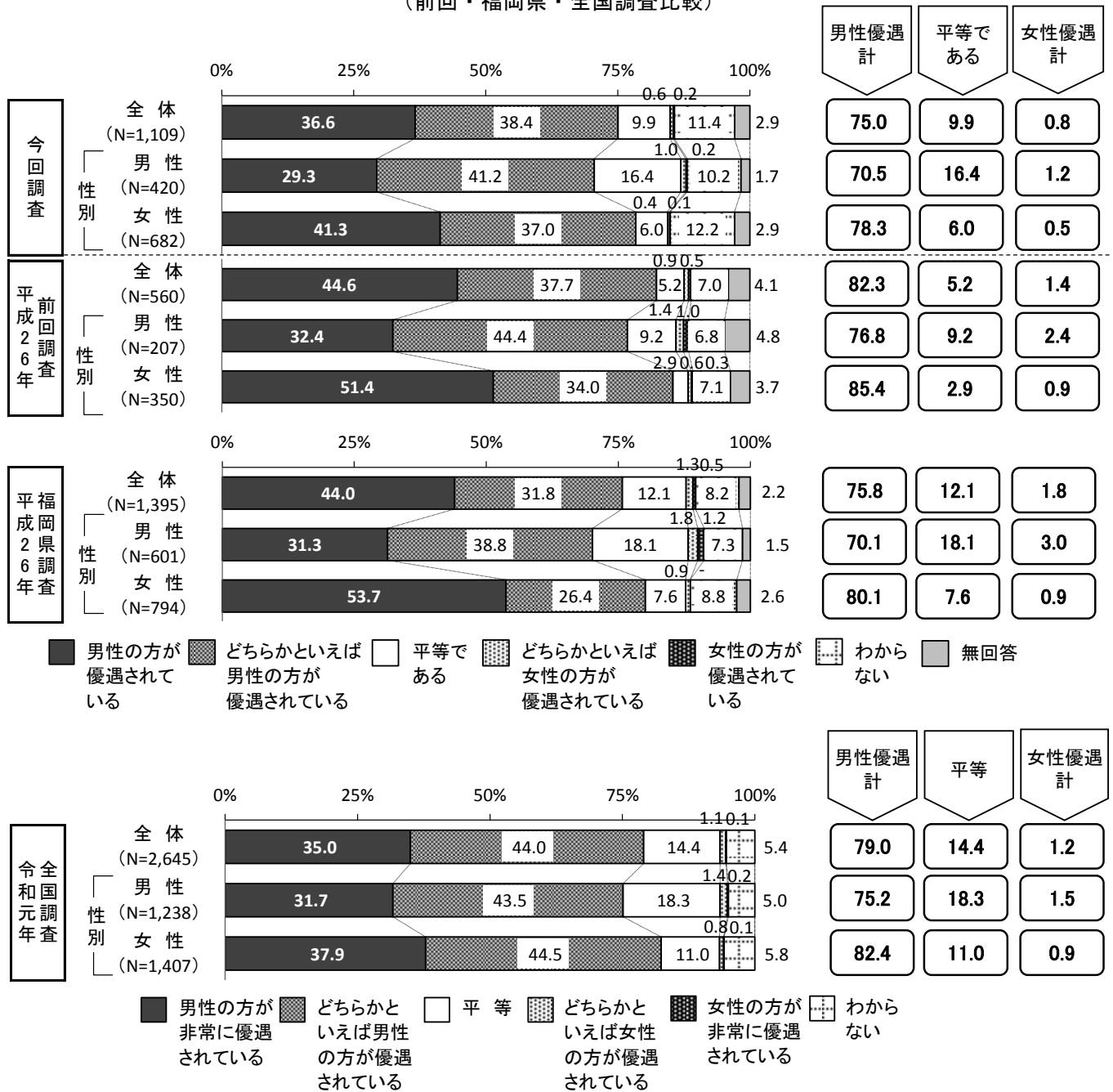
前回調査と比べると、男女とも「平等である」が約4～9ポイント減り、「わからない」が約6～10ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、男女とも「平等である」は今回調査の方が約7～10ポイント低い。

全国調査と比べても「平等である」は今回調査の方が男女とも15ポイント前後低くなっている。

(エ) 政治の場で

図表1-5 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「政治の場」における男女の地位については、『男性優遇』は75.0%と8分野中2番目に高く、「平等である」は9.9%と最も低いなど、男性が優遇されていると強く認識されている分野である。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は78.3%と8分野中最も高いが、男性は70.5%と7.8ポイントの差がある。また、「平等である」は女性では6.0%と1割に満たないが、男性は16.4%と10.4ポイントの差があり、女性は男性の方が優遇されていると強く認識していることがわかる。

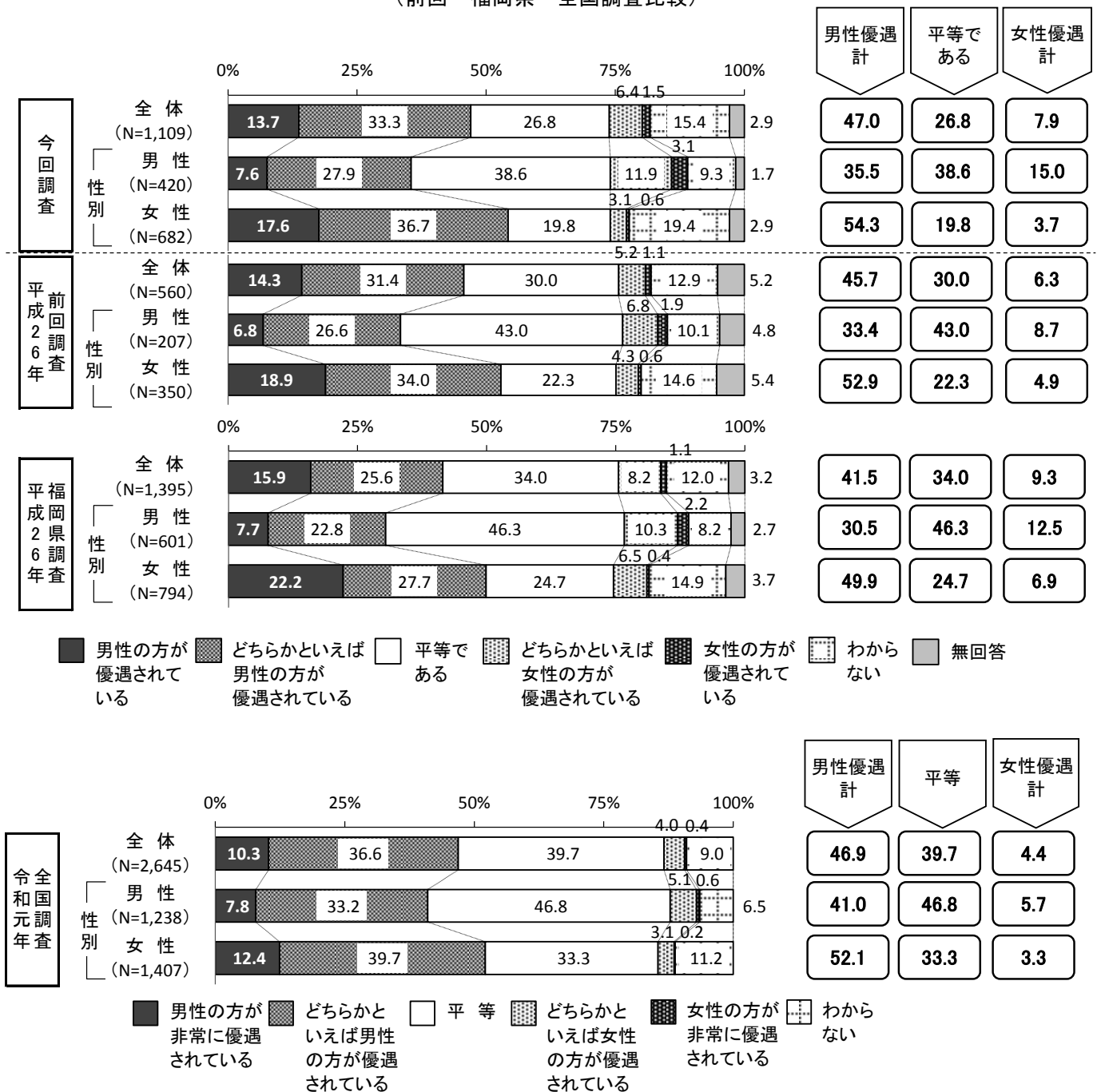
前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が約6～7ポイント低く、「平等である」が約3～7ポイント高くなっており、今回調査の方が不平等感はやや弱くなっている。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』『平等である』の割合に大差はみられない。

全国調査と比べると、男女とも『男性優遇』『平等である』は今回調査の方が低く、「わからない」が高くなっている。

(オ) 法律や制度のうえで

図表1-6 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



第1章 男女平等に関する意識について-----

「法律や制度のうえ」における男女の地位については、『男性優遇』は 47.0%、「平等である」が 26.8%となっている。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は 54.3%と 5割を超えているが、男性は 35.5%と 18.8ポイント差、「平等である」は女性が 19.8%に対し、男性は 38.6%と 18.8ポイント差など男女差が大きく、認識の違いが明らかとなっている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合はやや高く、「平等である」はやや低くなっている。

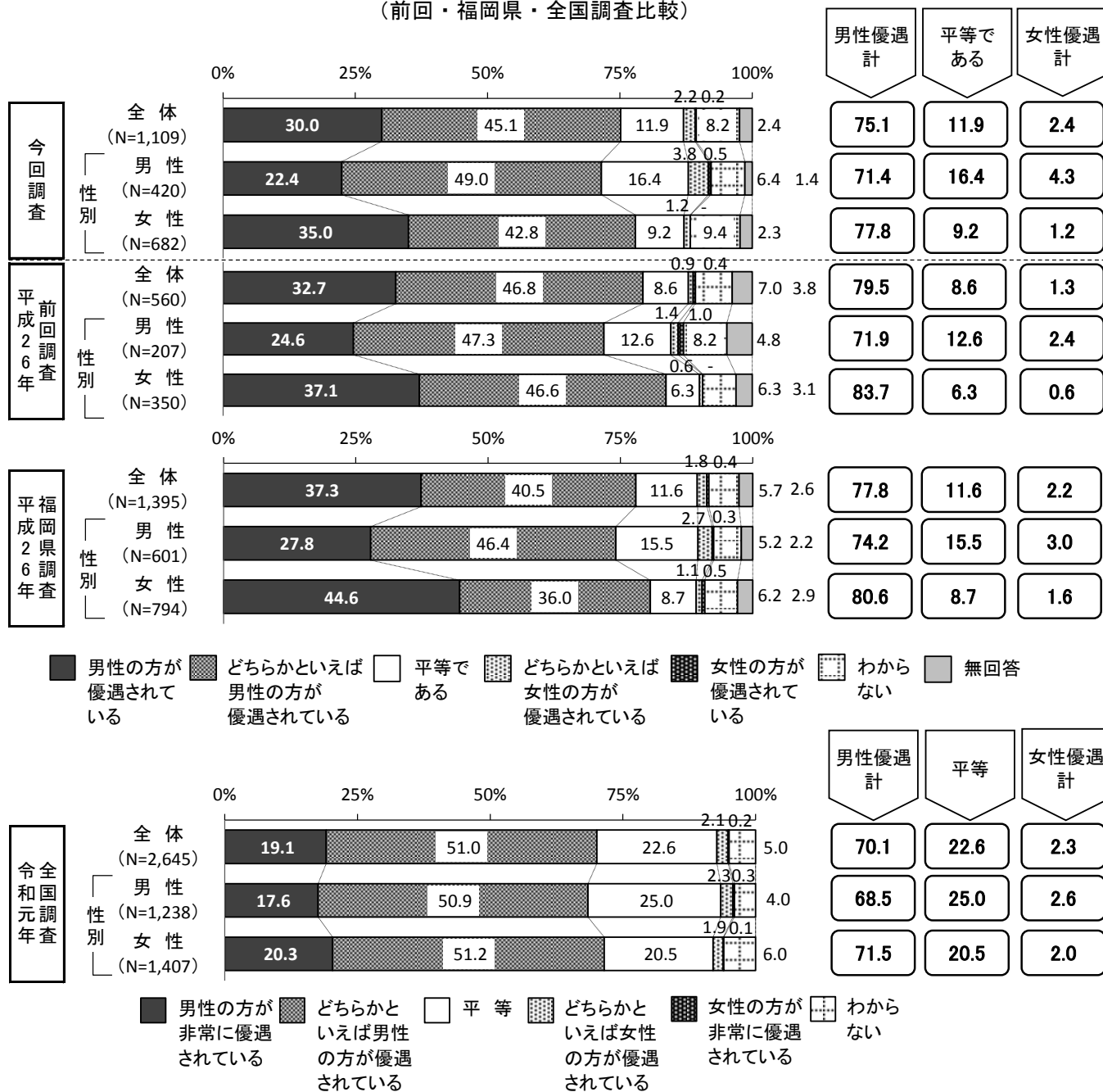
福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合は今回調査の方が約 4～5ポイント高く、「平等である」は約 5～8ポイント低くなっており、今回調査の方が不平等感は強い。

全国調査と比べると、男女とも「平等である」の割合は今回調査の方が約 8～14ポイント低く、不平等感は強い。

(カ) 社会通念、慣習、しきたりなどで

図表 1-7 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別]

(前回・福岡県・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」における男女の地位については、『男性優遇』は 75.1%と 8分野中最も高く、「平等である」は 11.9%と低く、「政治の場」と同様に男性優遇との認識が強い分野である。

性別で見ると、『男性優遇』は女性で 77.8%、男性でも 71.4%となっており、男女ともに社会通念や慣習、しきたりなどについては男性が優遇されているとの認識が強いことがわかる。

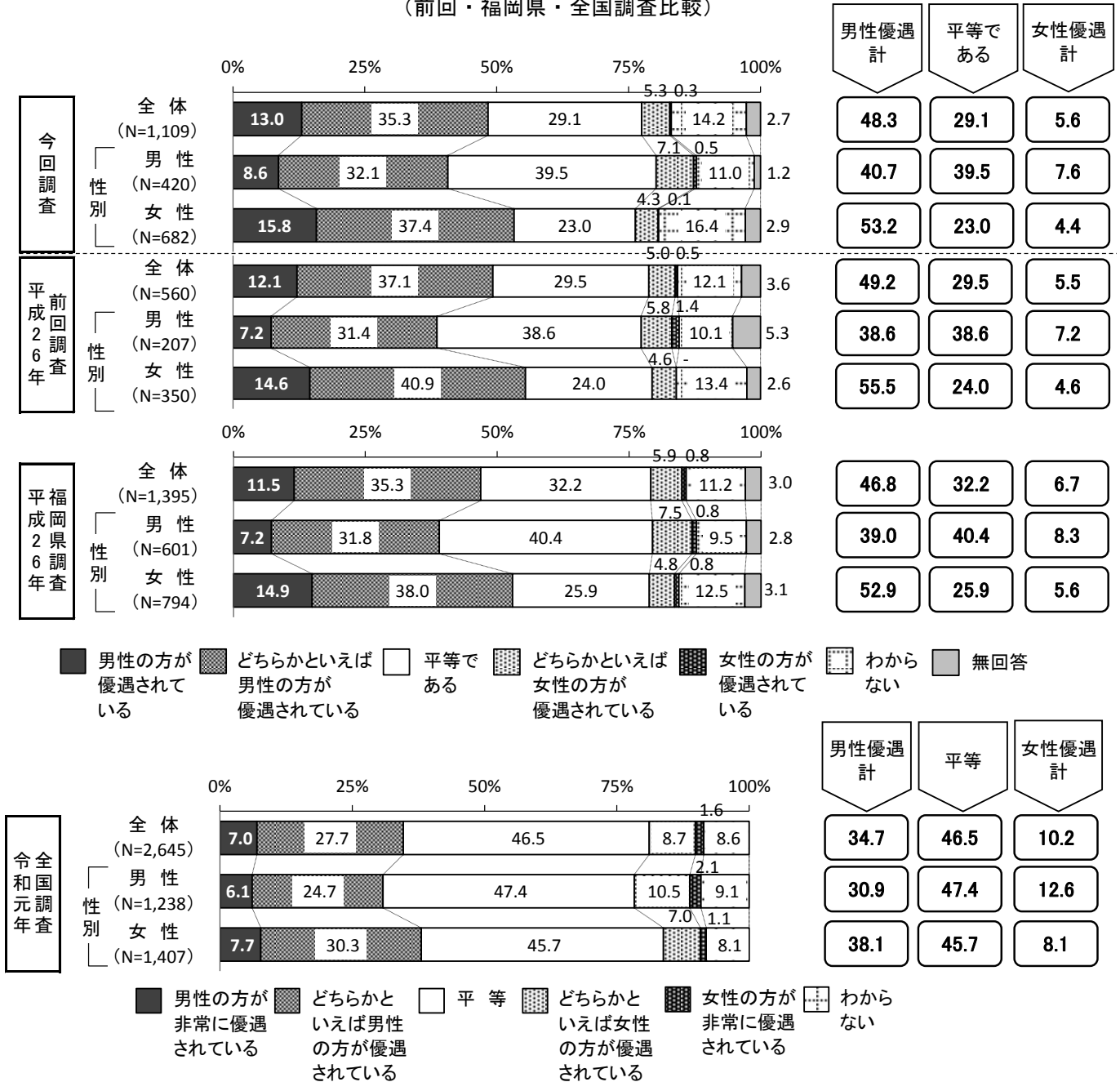
前回調査と比べると、女性の『男性優遇』の割合は 5.9 ポイント減少し、「平等である」は男女ともやや増えている。前回調査よりもやや不平等感は弱くなっている。

福岡県調査と比べると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が『男性優遇』の割合は女性で6.3ポイント高く、「平等である」は男女とも約9～11ポイント低いなど全国に比べて男性優遇の認識は強い。

(キ) 地域活動・社会活動の場で

図表1-8 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



※全国調査は「自治会やPTAなどの地域活動の場」

「地域活動・社会活動の場」における男女の地位については、『男性優遇』は48.3%、「平等である」は29.1%となっている。

性別でみると、女性は『男性優遇』が53.2%であるのに対し、男性は40.7%と12.5ポイントの差がある。また、「平等である」は女性が23.0%であるのに対し、男性は39.5%と16.5ポイント差など男女の認識の差は大きい。

前回調査と比べると、男女とも大差はみられない。

福岡県調査と比べると、男女とも大差はみられない。

全国調査（「自治会やPTAなどの地域活動の場」）と比べると、男女とも「平等である」は約8～23ポイント今回調査の方が低く、『男性優遇』は約10～15ポイント高いなど、地域活動や社会活動の場での不平等感は全国調査よりも強い。

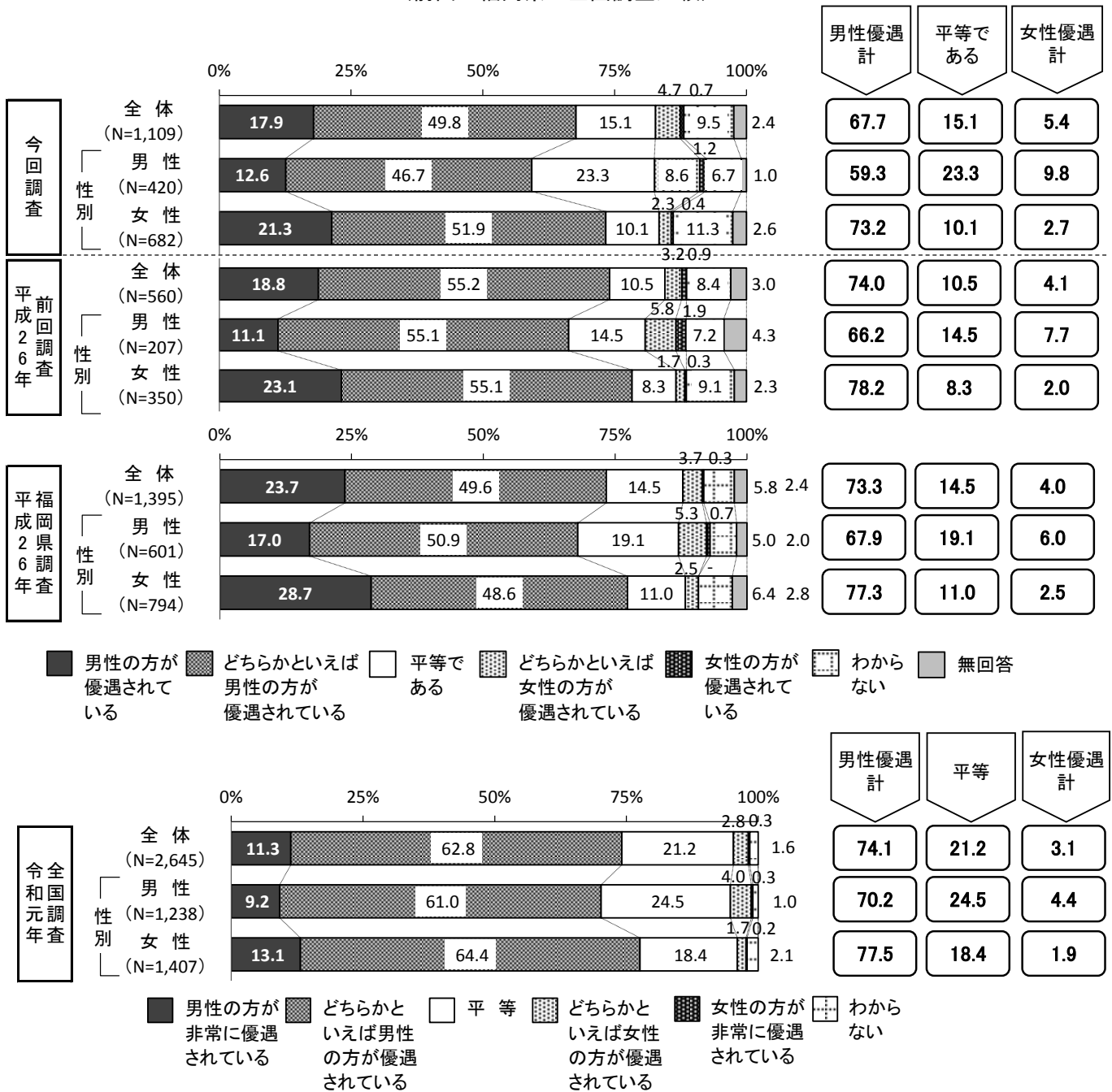
年代別でみると、『男性優遇』は女性の40代で70.2%と最も高く、50代でも60.6%と高率である。また、男性では50代と60代で『男性優遇』が5割を超えており、実際に地域活動を行うような年代では不平等感が強く認識されている。

図表1-9 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年代別]

		標本数	男性優遇	男性優遇より優越	平等である	男性優遇より劣越	女性優遇	わからない	無回答	男性優遇	女性優遇
全体		1,109 100.0	144 13.0	392 35.3	323 29.1	59 5.3	3 0.3	158 14.2	30 2.7	536 48.3	62 5.6
年代別	男性:20代	36	5.6	25.0	50.0	2.8	-	16.7	-	30.6	2.8
	男性:30代	81	3.7	29.6	39.5	11.1	2.5	13.6	-	33.3	13.6
	男性:40代	94	8.5	30.9	43.6	6.4	-	10.6	-	39.4	6.4
	男性:50代	68	11.8	38.2	29.4	7.4	-	13.2	-	50.0	7.4
	男性:60代	72	13.9	37.5	27.8	6.9	-	9.7	4.2	51.4	6.9
	男性:70代以上	69	7.2	29.0	50.7	5.8	-	4.3	2.9	36.2	5.8
	女性:20代	68	2.9	27.9	42.6	2.9	-	23.5	-	30.8	2.9
	女性:30代	155	14.2	33.5	22.6	5.2	-	23.9	0.6	47.7	5.2
	女性:40代	168	22.6	47.6	15.5	4.2	-	10.1	-	70.2	4.2
	女性:50代	94	22.3	38.3	17.0	5.3	-	16.0	1.1	60.6	5.3
	女性:60代	111	11.7	34.2	28.8	3.6	0.9	14.4	6.3	45.9	4.5
	女性:70代以上	83	13.3	34.9	22.9	2.4	-	13.3	13.3	48.2	2.4
無回答		10	10.0	30.0	-	10.0	-	-	50.0	40.0	10.0

(ク) 社会全体で見た場合

図表1-10 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「社会全体で見た場合」の男女の地位については、『男性優遇』は 67.7%と 8 分野の中で 3 番目に高くなっている。「平等」は 15.1%と 3 番目に低くなっており、男性が優遇されている社会と認識されていることがわかる。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が約 5～7 ポイント低く、男性で「平等である」が 8.8 ポイント高くなっており、前回調査よりも不平等感はやや弱くなっている。

福岡県調査と比べると、女性は同様の結果となっているが、男性は『男性優遇』が今回調査の方が 8.6 ポイント低く、「平等である」は 4.2 ポイント高いなど、平等感が県よりも高い。

全国調査と比べると、『男性優遇』の割合は男女と今回調査の方が約4～11ポイント低いが、女性の「平等である」は8.3ポイント低い結果となっている。

年代別でみると、女性の40代と50代で『男性優遇』が8割を超えて高く、その前後の年代の60代(73.0%)と30代(68.4%)でも7割前後と高率である。男性は年齢が高い層で『男性優遇』の割合が6割前後と高くなっている。

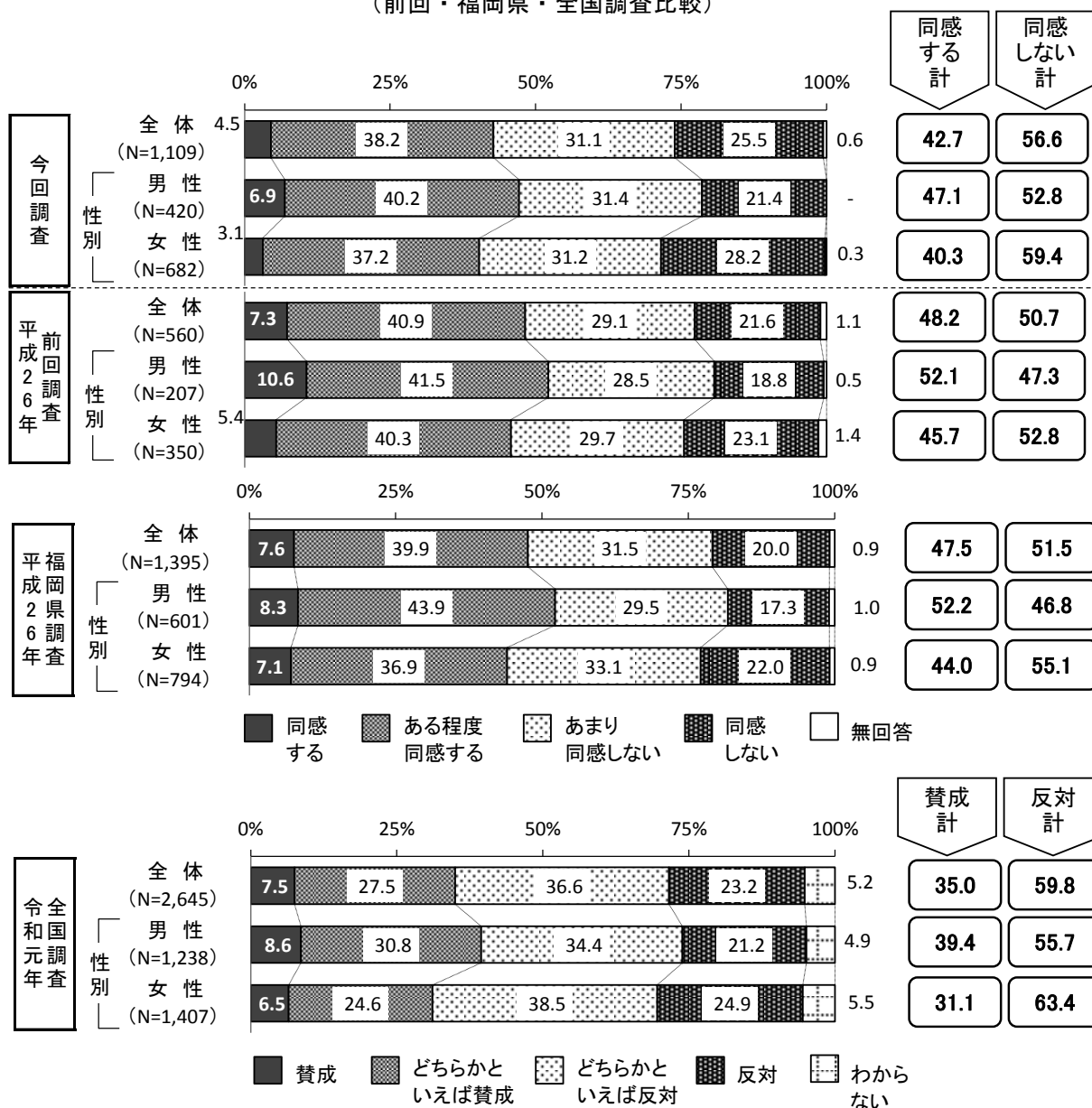
図表1-11 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、年代別]

		(%)									
		標本数	男性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇	女性優遇
全体		1,109 100.0	198 17.9	552 49.8	167 15.1	52 4.7	8 0.7	105 9.5	27 2.4	750 67.7	60 5.4
年代別	男性:20代	36	8.3	44.4	22.2	16.7	-	8.3	-	52.7	16.7
	男性:30代	81	6.2	49.4	22.2	14.8	1.2	6.2	-	55.6	16.0
	男性:40代	94	13.8	47.9	22.3	9.6	-	6.4	-	61.7	9.6
	男性:50代	68	16.2	42.6	23.5	4.4	1.5	10.3	1.5	58.8	5.9
	男性:60代	72	15.3	47.2	18.1	6.9	2.8	6.9	2.8	62.5	9.7
	男性:70代以上	69	14.5	46.4	31.9	1.4	1.4	2.9	1.4	60.9	2.8
	女性:20代	68	10.3	44.1	23.5	5.9	-	16.2	-	54.4	5.9
	女性:30代	155	18.1	50.3	9.0	3.2	-	18.7	0.6	68.4	3.2
	女性:40代	168	28.0	54.8	7.7	1.2	1.2	7.1	-	82.8	2.4
	女性:50代	94	28.7	54.3	7.4	1.1	-	7.4	1.1	83.0	1.1
	女性:60代	111	19.8	53.2	11.7	2.7	-	8.1	4.5	73.0	2.7
	女性:70代以上	83	15.7	51.8	7.2	-	1.2	10.8	13.3	67.5	1.2
	無回答		10	10.0	30.0	-	10.0	-	-	50.0	40.0

2. 性別役割分担意識

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(○は1つだけ)

図表1-12 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識についてたずねたところ、「同意する」は4.5%、「ある程度同意する」は38.2%でこれらを合わせた『同意する』は42.7%となっている。一方、「同意しない」は25.5%、「あまり同意しない」は31.1%でこれらを合わせた『同意しない』は56.6%で、『同意する』を13.9ポイント上回っている。

性別で見ると、女性の『同意しない』は59.4%に対し、男性は52.8%と女性の方が6.6ポイント高く、『同意する』は女性が40.3%、男性が47.1%と男性の方が6.8ポイント高くなっており、男性の方が性別役割分担を容認する人が多い。

前回調査と比べると、男女とも『同感しない』の割合は、男性で5.5ポイント増、女性で6.6ポイント増と、男女とも性別役割分担を容認しない人が増えている。

福岡県調査と比べると、『同感しない』（福岡県：女性55.1%、男性46.8%）は男女とも今回調査の方が約4～6ポイント高く、性別役割分担を容認しない人は県よりもやや多い。

全国調査と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、性別役割分担を容認しない人は全国よりもやや少ない。

年代別でみると、男女とも年代が低い層で『同感しない』の割合が高くなる傾向にある。『同感する』の割合が『同感しない』の割合を上回るのは、女性ではなく、男性は60代と70代以上で上回り性別役割分担を容認する人が5割を超える。

配偶状況別でみると、未婚では『同感しない』の割合は男性が70.3%、女性が58.8%と男性の方が性別役割分担意識を容認しない人が多い。既婚では共働きである、共働きでないにかかわらず、男性よりも女性の方が『同感しない』割合が10ポイント前後高く、さらに既婚女性では共働きでないよりも共働きである方が性別役割分担意識を容認しない人が12.4ポイント多い。

図表1-13 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、年代別、配偶状況別]

(%)

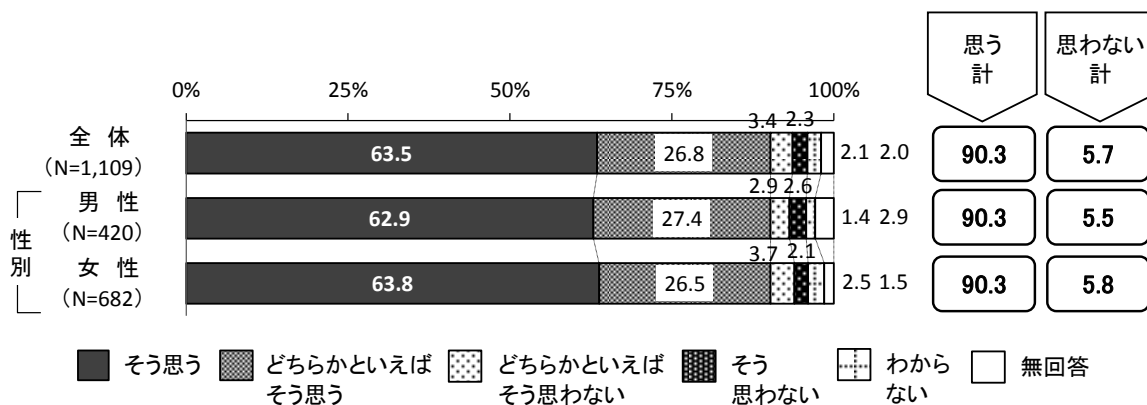
		標本数	同感する	感ある程度同	しあなまり同感	同感しない	無回答	同感する	同感しない
全体		1,109 100.0	50 4.5	424 38.2	345 31.1	283 25.5	7 0.6	474 42.7	628 56.6
年代別	男性:20代	36	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	66.6
	男性:30代	81	7.4	30.9	37.0	24.7	-	38.3	61.7
	男性:40代	94	2.1	44.7	26.6	26.6	-	46.8	53.2
	男性:50代	68	7.4	39.7	39.7	13.2	-	47.1	52.9
	男性:60代	72	9.7	41.7	26.4	22.2	-	51.4	48.6
	男性:70代以上	69	13.0	47.8	27.5	11.6	-	60.8	39.1
	女性:20代	68	2.9	39.7	29.4	27.9	-	42.6	57.3
	女性:30代	155	4.5	35.5	25.8	34.2	-	40.0	60.0
	女性:40代	168	1.8	37.5	34.5	26.2	-	39.3	60.7
	女性:50代	94	2.1	35.1	33.0	29.8	-	37.2	62.8
	女性:60代	111	3.6	36.9	30.6	27.9	0.9	40.5	58.5
	女性:70代以上	83	3.6	39.8	34.9	20.5	1.2	43.4	55.4
	無回答	10	-	30.0	10.0	10.0	50.0	30.0	20.0
配偶状況別	男性:未婚	84	2.4	27.4	40.5	29.8	-	29.8	70.3
	男性:既婚(共働きである)	165	3.0	41.8	29.1	26.1	-	44.8	55.2
	男性:既婚(共働きでない)	130	10.0	48.5	29.2	12.3	-	58.5	41.5
	男性:離別	28	17.9	35.7	25.0	21.4	-	53.6	46.4
	男性:死別	12	25.0	33.3	41.7	-	-	58.3	41.7
	女性:未婚	80	3.8	36.3	32.5	26.3	1.3	40.1	58.8
	女性:既婚(共働きである)	293	2.0	33.1	31.4	33.4	-	35.1	64.8
	女性:既婚(共働きでない)	229	3.9	43.2	31.4	21.0	0.4	47.1	52.4
	女性:離別	37	2.7	24.3	35.1	37.8	-	27.0	72.9
	女性:死別	38	5.3	44.7	26.3	23.7	-	50.0	50.0
無回答	13	7.7	30.8	-	23.1	38.5	38.5	23.1	

3. 子どもの育て方について

問3. あなたは、子どもの教育についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
 （○はそれぞれ1つだけ）

（ア）女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表1-14 女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ [全体、性別]



子どもの育て方について、全員に考え方をたずねた。「女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」について、「そう思う」は63.5%、「どちらかといえばそう思う」は26.8%でこれらを合わせた『思う』は90.3%で、「そう思わない」(2.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(3.4%)を合わせた『思わない』(5.7%)を大きく上回っている。

性別でみると、男女とも大差はみられない。

年代別でみると、女性の20代で積極的な賛成である「そう思う」が50.0%と低いのが目立つ。反対に「そう思う」が高いのは女性の60代(72.1%)、50代(69.1%)で7割前後となっている。

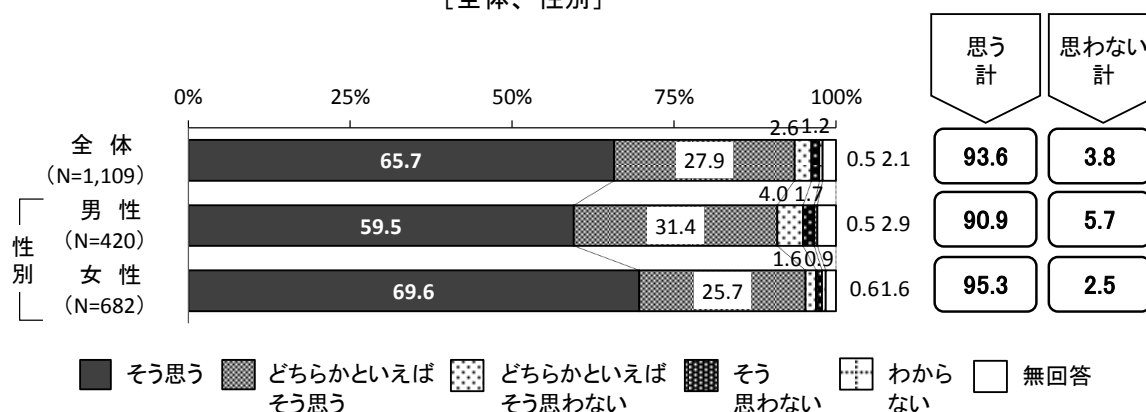
性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない人では積極的な賛成である「そう思う」の割合が高い傾向がみられる。

図表 1-15 女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答	思う	思わない
全体		1,109 100.0	704 63.5	297 26.8	38 3.4	25 2.3	23 2.1	22 2.0	1,001 90.3	63 5.7
年代別	男性:20代	36	58.3	36.1	-	5.6	-	-	94.4	5.6
	男性:30代	81	59.3	28.4	4.9	1.2	2.5	3.7	87.7	6.1
	男性:40代	94	67.0	25.5	1.1	1.1	2.1	3.2	92.5	2.2
	男性:50代	68	67.6	23.5	1.5	4.4	1.5	1.5	91.1	5.9
	男性:60代	72	61.1	23.6	5.6	4.2	1.4	4.2	84.7	9.8
	男性:70代以上	69	60.9	31.9	2.9	1.4	-	2.9	92.8	4.3
	女性:20代	68	50.0	30.9	8.8	4.4	4.4	1.5	80.9	13.2
	女性:30代	155	62.6	27.1	3.9	1.3	3.9	1.3	89.7	5.2
	女性:40代	168	64.3	28.6	2.4	1.8	2.4	0.6	92.9	4.2
	女性:50代	94	69.1	22.3	4.3	2.1	-	2.1	91.4	6.4
	女性:60代	111	72.1	19.8	3.6	1.8	1.8	0.9	91.9	5.4
	女性:70代以上	83	60.2	31.3	1.2	2.4	2.4	2.4	91.5	3.6
	無回答	10	60.0	20.0	10.0	-	-	10.0	80.0	10.0
性別 役割 分担 意識別	男性:同感する	29	62.1	24.1	6.9	-	-	6.9	86.2	6.9
	男性:ある程度同感する	169	55.6	34.9	2.4	4.1	0.6	2.4	90.5	6.5
	男性:あまり同感しない	132	64.4	28.0	3.0	1.5	0.8	2.3	92.4	4.5
	男性:同感しない	90	74.4	13.3	2.2	2.2	4.4	3.3	87.7	4.4
	女性:同感する	21	47.6	33.3	4.8	4.8	4.8	4.8	80.9	9.6
	女性:ある程度同感する	254	58.3	29.5	4.3	2.4	2.8	2.8	87.8	6.7
	女性:あまり同感しない	213	62.0	30.5	3.8	2.8	0.5	0.5	92.5	6.6
	女性:同感しない	192	74.5	17.7	2.6	0.5	4.2	0.5	92.2	3.1
		無回答	9	77.8	11.1	11.1	-	-	-	88.9

(イ) 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ

図表 1-16 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ
[全体、性別]



「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ」という考え方については、『思う』は93.6%、『思わない』は3.8%とわずかで経済的な自立よりも『思う』の割合はやや高くなっている。

性別でみると、女性の積極的な「そう思う」は69.6%と男性（59.5%）を10.1ポイント上回っており、女性において性別にかかわらず生活技術を身につけさせた方がよいと積極的に考えていることがわかる。

年代別でみると、女性30代で積極的な賛成の「そう思う」が80.6%と最も高くなっている。またその前後の年代の20代と40代でも7割を超えている。

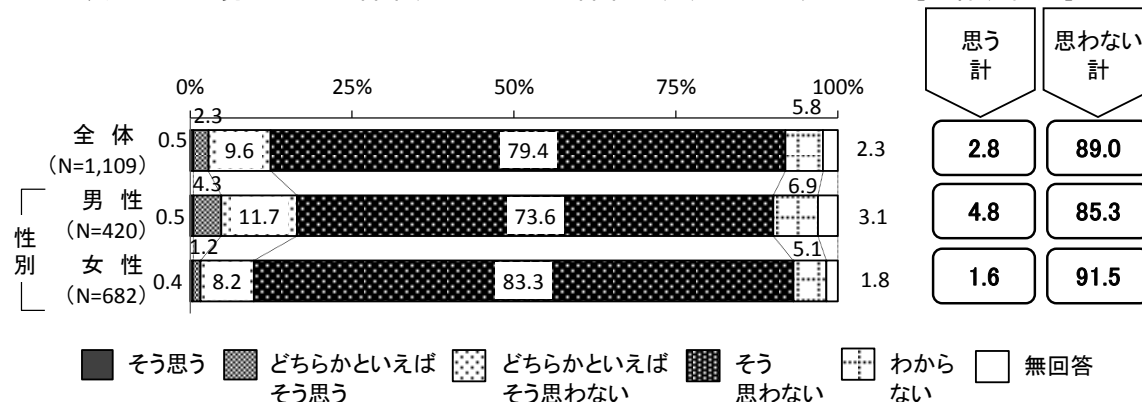
性別役割分担意識別でみると、経済的自立と同様に男女とも性別役割分担に同感しない人では積極的な賛成の「そう思う」割合が高いがみられるが、女性においてより顕著となっている。

図表1-17 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ [全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	思う	思わない
全体		1,109	729	309	29	13	6	23	1,038	42
		100.0	65.7	27.9	2.6	1.2	0.5	2.1	93.6	3.8
年代別	男性:20代	36	69.4	27.8	-	2.8	-	-	97.2	2.8
	男性:30代	81	64.2	28.4	2.5	-	1.2	3.7	92.6	2.5
	男性:40代	94	69.1	25.5	2.1	-	-	3.2	94.6	2.1
	男性:50代	68	55.9	35.3	2.9	1.5	1.5	2.9	91.2	4.4
	男性:60代	72	52.8	36.1	6.9	2.8	-	1.4	88.9	9.7
	男性:70代以上	69	46.4	36.2	8.7	4.3	-	4.3	82.6	13.0
	女性:20代	68	70.6	23.5	2.9	1.5	-	1.5	94.1	4.4
	女性:30代	155	80.6	17.4	0.6	-	-	1.3	98.0	0.6
	女性:40代	168	75.0	19.6	1.8	1.2	1.8	0.6	94.6	3.0
	女性:50代	94	58.5	37.2	-	1.1	1.1	2.1	95.7	1.1
	女性:60代	111	68.5	29.7	-	0.9	-	0.9	98.2	0.9
	女性:70代以上	83	51.8	37.3	6.0	1.2	-	3.6	89.1	7.2
	無回答	10	60.0	20.0	10.0	-	-	10.0	80.0	10.0
性別役割分担意識別	男性:同感する	29	51.7	31.0	6.9	6.9	-	3.4	82.7	13.8
	男性:ある程度同感する	169	49.7	42.0	4.7	1.2	-	2.4	91.7	5.9
	男性:あまり同感しない	132	59.8	31.1	3.8	1.5	0.8	3.0	90.9	5.3
	男性:同感しない	90	80.0	12.2	2.2	1.1	1.1	3.3	92.2	3.3
	女性:同感する	21	61.9	28.6	4.8	4.8	-	-	90.5	9.6
	女性:ある程度同感する	254	60.2	33.5	1.2	0.4	1.6	3.1	93.7	1.6
	女性:あまり同感しない	213	70.9	25.4	1.9	1.4	-	0.5	96.3	3.3
	女性:同感しない	192	81.3	15.6	1.6	0.5	-	1.0	96.9	2.1
	無回答	9	66.7	22.2	11.1	-	-	-	88.9	11.1

(ウ) 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい

図表1-18 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい [全体、性別]



「男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい」という考え方については、『思わない』が 89.0%となっているが、「わからない」も 5.8%と、経済的自立、生活技術の自立の考え方に比べ高くなっている。

性別で見ると、女性の積極的な反対の「そう思わない」は 83.3%と男性（73.6%）を 9.7 ポイント上回っている。

年代別で見ると、「そう思わない」は女性の 30 代で 92.9%と最も高く、次いで男性の 20 代で 88.9%となっている。男女とも 70 代以上では「わからない」の割合が 1 割を超え他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別で見ると、男女とも性別役割分担に同感しない人ほど「そう思わない」の割合が高くなっている。

図表 1-19 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい

[全体、年代別、性別役割分担意識別]

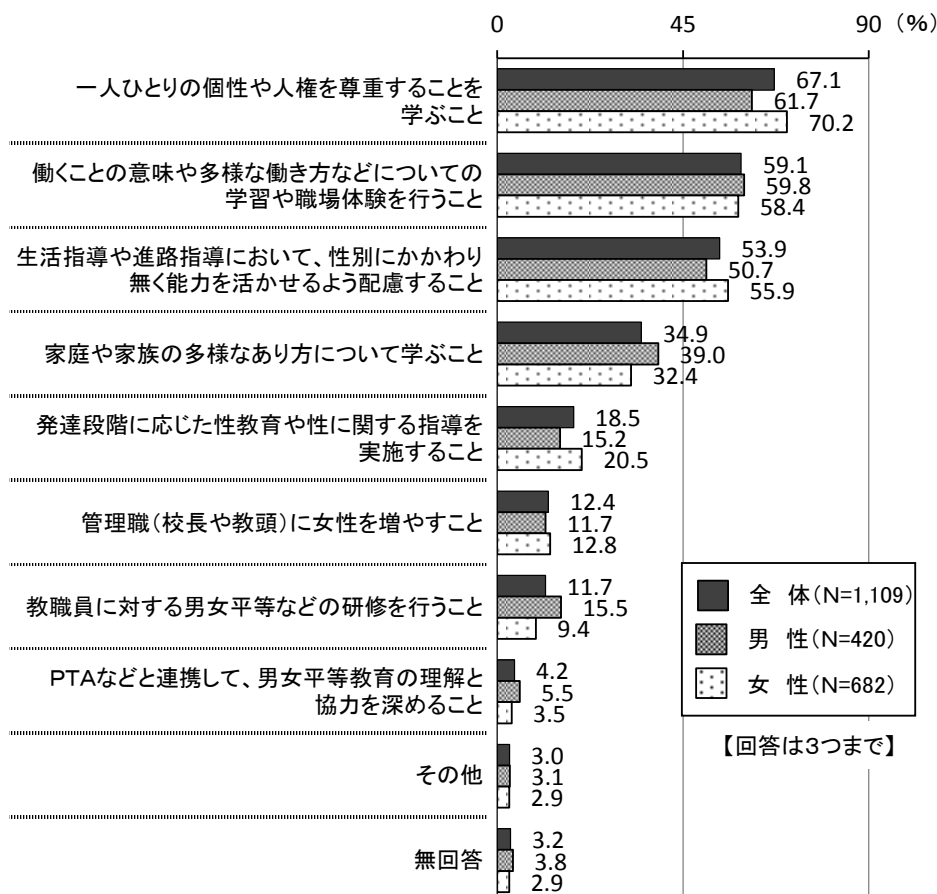
(%)

		標本数	そう思う	ばど そちら 思う かとい え	ばど そちら 思わ ないと いえ	そう 思わ ない	わ か ら な い	無 回 答	思 う	思 わ な い
全 体		1,109 100.0	6 0.5	26 2.3	107 9.6	881 79.4	64 5.8	25 2.3	32 2.8	988 89.0
年 代 別	男性:20代	36	-	2.8	5.6	88.9	2.8	-	2.8	94.5
	男性:30代	81	-	2.5	12.3	74.1	7.4	3.7	2.5	86.4
	男性:40代	94	-	1.1	7.4	80.9	7.4	3.2	1.1	88.3
	男性:50代	68	-	7.4	10.3	72.1	7.4	2.9	7.4	82.4
	男性:60代	72	1.4	4.2	9.7	79.2	2.8	2.8	5.6	88.9
	男性:70代以上	69	1.4	8.7	23.2	50.7	11.6	4.3	10.1	73.9
	女性:20代	68	-	-	7.4	83.8	7.4	1.5	-	91.2
	女性:30代	155	-	-	2.6	92.9	3.2	1.3	-	95.5
	女性:40代	168	-	1.8	11.3	82.1	4.2	0.6	1.8	93.4
	女性:50代	94	-	1.1	7.4	86.2	3.2	2.1	1.1	93.6
	女性:60代	111	0.9	0.9	11.7	81.1	3.6	1.8	1.8	92.8
	女性:70代以上	83	2.4	3.6	9.6	67.5	13.3	3.6	6.0	77.1
	無回答	10	10.0	-	20.0	60.0	-	10.0	10.0	80.0
性 別 役 割 分 担 意 識 別	男性:同感する	29	3.4	10.3	13.8	58.6	6.9	6.9	13.7	72.4
	男性:ある程度同感する	169	0.6	5.9	13.0	68.6	9.5	2.4	6.5	81.6
	男性:あまり同感しない	132	-	3.8	13.6	74.2	5.3	3.0	3.8	87.8
	男性:同感しない	90	-	-	5.6	86.7	4.4	3.3	-	92.3
	女性:同感する	21	-	9.5	4.8	66.7	14.3	4.8	9.5	71.5
	女性:ある程度同感する	254	0.4	1.2	12.2	77.6	5.5	3.1	1.6	89.8
	女性:あまり同感しない	213	-	0.9	8.9	85.0	4.7	0.5	0.9	93.9
	女性:同感しない	192	1.0	0.5	2.6	91.1	3.6	1.0	1.5	93.7
	無回答	9	11.1	-	22.2	55.6	11.1	-	11.1	77.8

4. 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること

問4. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

図表1-20 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること [全体、性別]



男女共同参画を進めていくために、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいかたずねた。「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が67.1%、「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が59.1%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が53.9%で上位3位となっている。

性別で見ると、女性は「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が8.5ポイント、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」が5.3ポイント、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が5.2ポイント男性よりも高くなっている。男性は「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」が6.6ポイント、「教職員に対する男女平等などの研修を行うこと」が6.1ポイント女性よりも高くなっている。

年代別でみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は女性の20代、30代、50代、60代、男性の50代で7割を超えている。「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」は男女とも60代で7割を超えて高くなっている。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は女性の60代、男性の40代で7割を超えるなど、これらの上位項目については比較的年齢の高い層での割合が高くなっている。「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性の20代と40代、男性の30代と50代で4割台から5割半ば、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は女性の40代以下、男性の30代以下で2割台と比較的年齢の低い層での割合が高くなっている。

図表1-21 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること [全体、年代別]

		標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重すること	発達段階に応じた性教育や性に	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること	P T A など教育の理解と連携を深めること	働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験	管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと	教職員に対する男女平等などの研修を行うこと	その他	無回答
全体		1,109 100.0	744 67.1	205 18.5	387 34.9	598 53.9	47 4.2	655 59.1	137 12.4	130 11.7	33 3.0	36 3.2
年代別	男性:20代	36	69.4	27.8	38.9	58.3	2.8	41.7	16.7	11.1	-	2.8
	男性:30代	81	58.0	24.7	45.7	40.7	2.5	59.3	8.6	16.0	8.6	4.9
	男性:40代	94	51.1	16.0	38.3	46.8	1.1	71.3	11.7	11.7	3.2	4.3
	男性:50代	68	72.1	4.4	54.4	38.2	10.3	57.4	10.3	8.8	-	2.9
	男性:60代	72	66.7	8.3	34.7	72.2	6.9	58.3	11.1	18.1	2.8	1.4
	男性:70代以上	69	60.9	14.5	21.7	53.6	10.1	58.0	14.5	26.1	1.4	5.8
	女性:20代	68	70.6	23.5	41.2	42.6	2.9	45.6	22.1	10.3	4.4	4.4
	女性:30代	155	75.5	26.5	33.5	47.1	1.9	62.6	13.5	9.7	1.9	1.9
	女性:40代	168	66.1	22.0	40.5	54.2	2.4	58.9	13.7	6.5	2.4	1.2
	女性:50代	94	71.3	16.0	34.0	58.5	2.1	51.1	10.6	14.9	5.3	3.2
	女性:60代	111	74.8	13.5	23.4	72.1	4.5	70.3	8.1	9.9	2.7	0.9
	女性:70代以上	83	63.9	18.1	16.9	62.7	9.6	54.2	10.8	7.2	1.2	8.4
無回答		10	60.0	20.0	30.0	50.0	-	60.0	10.0	10.0	10.0	10.0

第2章 家庭生活について

1. 家庭内の役割分担の状況

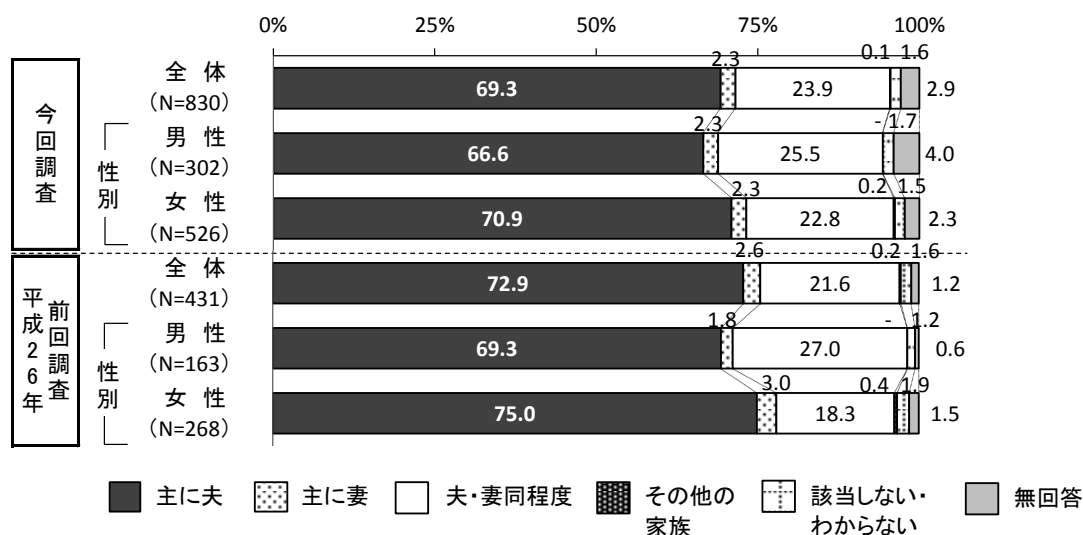
【現在「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」におたずねします。】

問5. あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。次の（ア）から（ク）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
 （○はそれぞれ1つだけ）

現在、配偶者・パートナーと同居している人に家庭内の役割、8分野について主に誰が行っているかたずねた。

（ア）家計を支える（生活費を稼ぐ）

図表2-1 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、性別]（前回調査比較）



「生活費を稼ぐ」を行うのは、「主に夫」が69.3%、「妻」が2.3%、「妻・夫同程度」は23.9%で約7割が生活費を稼ぐのは夫の担当となっている。

性別で見ると、「主に夫」の割合は女性70.9%、男性66.6%と女性の方が家計を支えるのは夫と回答している人が多い。「夫・妻同程度」は女性22.8%、男性25.5%と男性の方が妻も同じように家計を支えていると回答している人が多い。

前回調査と比べると、「主に夫」の割合は男女とも約3～4ポイント減少し、「夫・妻同程度」は女性で4.5ポイント高くなっている。

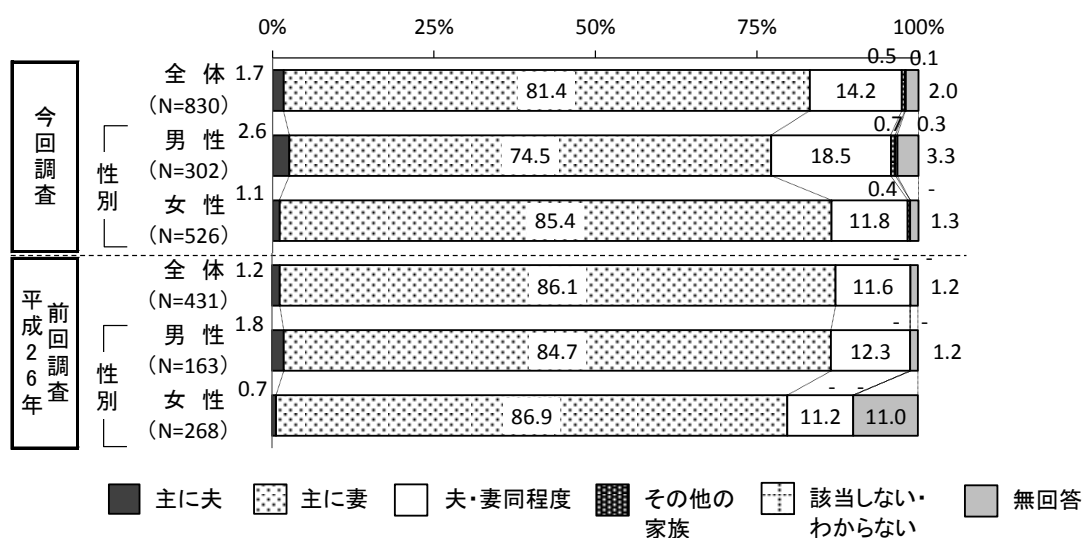
配偶状況別で見ると、共働きである場合でも「夫・妻同程度」は3割台で、「主に夫」が5割半ばから6割半ばと高くなっている。

図表 2-2 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、配偶状況別]

		(%)						
		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	わが当らない・わからない	無回答
全体		830 100.0	575 69.3	19 2.3	198 23.9	1 0.1	13 1.6	24 2.9
配偶状況別	男性:未婚	5	60.0	-	40.0	-	-	-
	男性:既婚(共働きである)	165	56.4	1.8	37.6	-	-	4.2
	男性:既婚(共働きでない)	131	79.4	3.1	9.9	-	3.8	3.8
	男性:離別	1	100.0	-	-	-	-	-
	男性:死別	-	-	-	-	-	-	-
	女性:未婚	2	-	-	100.0	-	-	-
	女性:既婚(共働きである)	293	65.5	1.7	31.7	-	-	1.0
	女性:既婚(共働きでない)	230	78.3	3.0	10.9	0.4	3.5	3.9
	女性:離別	1	100.0	-	-	-	-	-
	女性:死別	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	50.0	-	50.0	-	-	-	

(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事

図表 2-3 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 [全体、性別] (前回調査比較)



「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」を行うのは、「主に妻」が 81.4%と最も高く、日常の家事は妻の担当となっている。次いで「夫・妻同程度」は 14.2%であるが、「家計を支える」よりも低くなっている。

性別で見ると、男女とも「主に妻」が最も高いが、女性は 85.4%に対し、男性は 74.5%と 10.9ポイントの差があり、日常の家事は妻が行うという認識は女性の方が強い。

前回調査と比べると、男性は「主に妻」の割合が 10.2ポイント減少し、「夫・妻同程度」が 6.2ポイント増えている。女性では大差はみられない。

第2章 家庭生活について

年代別でみると、女性の30代から60代では「主に妻」の割合が8割半ばから9割近くと高率である。男性は20代(84.6%)で唯一8割を超えているが、その他の年代は7割台で、30代と50代は7割前後と最も低い。男性の30代と女性の70代以上では「夫・妻同程度」が2割半ばと他の年代に比べて高くなっている。

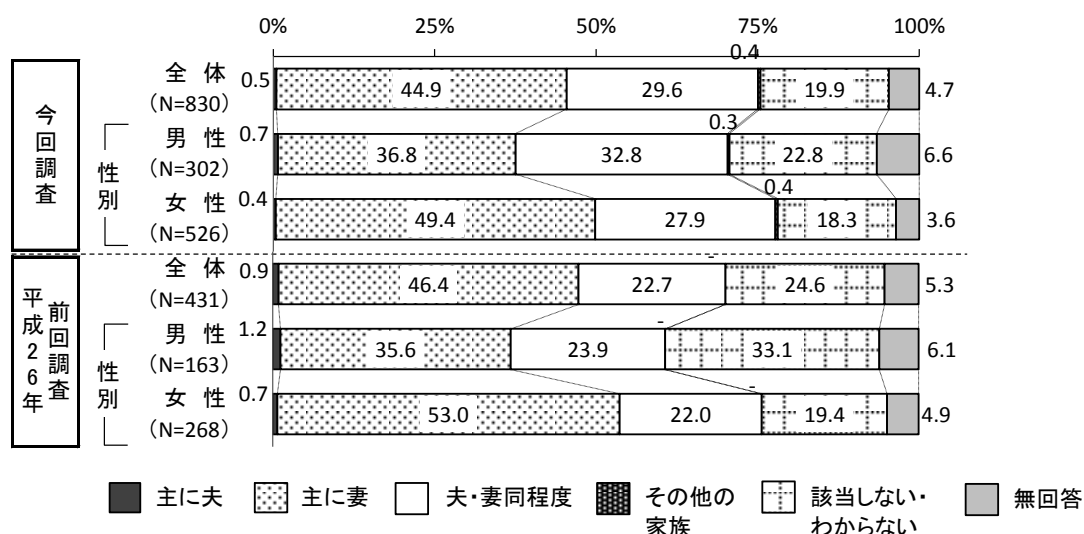
配偶状況別でみると、女性の既婚の場合、「主に妻」の割合は共働きである、共働きでないにかかわらず8割半ばと高く、「夫・妻同程度」も1割台と大差はない。男性の既婚の場合、「主に妻」は共働きでないが82.4%に対し、共働きは69.1%と13.3ポイント差があり、「夫・妻同程度」も共働きでないが12.2%に対し、共働きは22.4%と10.2ポイント差など差がみられる。

図表2-4 掃除、洗濯、食事の支度などの家事〔全体、年代別、配偶状況別〕(前回調査比較)

		(%)						
		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	わ該か当らしない・	無回答
全体		830 100.0	14 1.7	676 81.4	118 14.2	4 0.5	1 0.1	17 2.0
年代別	男性:20代	13	-	84.6	15.4	-	-	-
	男性:30代	64	1.6	71.9	23.4	-	-	3.1
	男性:40代	74	4.1	74.3	18.9	-	-	2.7
	男性:50代	43	2.3	69.8	18.6	4.7	-	4.7
	男性:60代	49	4.1	79.6	16.3	-	-	-
	男性:70代以上	59	1.7	74.6	15.3	-	1.7	6.8
	女性:20代	29	3.4	75.9	17.2	-	-	3.4
	女性:30代	129	-	86.8	10.9	-	-	2.3
	女性:40代	146	1.4	88.4	9.6	-	-	0.7
	女性:50代	78	-	89.7	9.0	1.3	-	-
	女性:60代	84	3.6	85.7	9.5	1.2	-	-
	女性:70代以上	58	-	72.4	24.1	-	-	3.4
		無回答	4	-	100.0	-	-	-
配偶状況別	男性:未婚	5	-	40.0	60.0	-	-	-
	男性:既婚(共働きである)	165	3.0	69.1	22.4	1.2	-	4.2
	男性:既婚(共働きでない)	131	2.3	82.4	12.2	-	0.8	2.3
	男性:離別	1	-	100.0	-	-	-	-
	男性:死別	-	-	-	-	-	-	-
	女性:未婚	2	-	100.0	-	-	-	-
	女性:既婚(共働きである)	293	0.7	84.6	13.0	0.7	-	1.0
	女性:既婚(共働きでない)	230	1.7	86.1	10.4	-	-	1.7
	女性:離別	1	-	100.0	-	-	-	-
	女性:死別	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-

(ウ) 育児、子どものしつけ

図表2-5 育児、子どものしつけ [全体、性別] (前回調査比較)



「育児、子どものしつけ」を行うのは「主に妻」が44.9%、「夫・妻同程度」は29.6%となっている。

性別で見ると、「主に妻」は女性が49.4%、男性は36.8%と女性の方が12.6ポイント高く、女性は妻が行うという認識が強い。また、男性は「夫・妻同程度」が32.8%と女性(27.9%)を4.9ポイント上回り、分担して行っているという認識が女性よりも強い。

前回調査と比べると、「夫・妻同程度」の割合が女性で5.9ポイント、男性で8.9ポイント高くなっている。

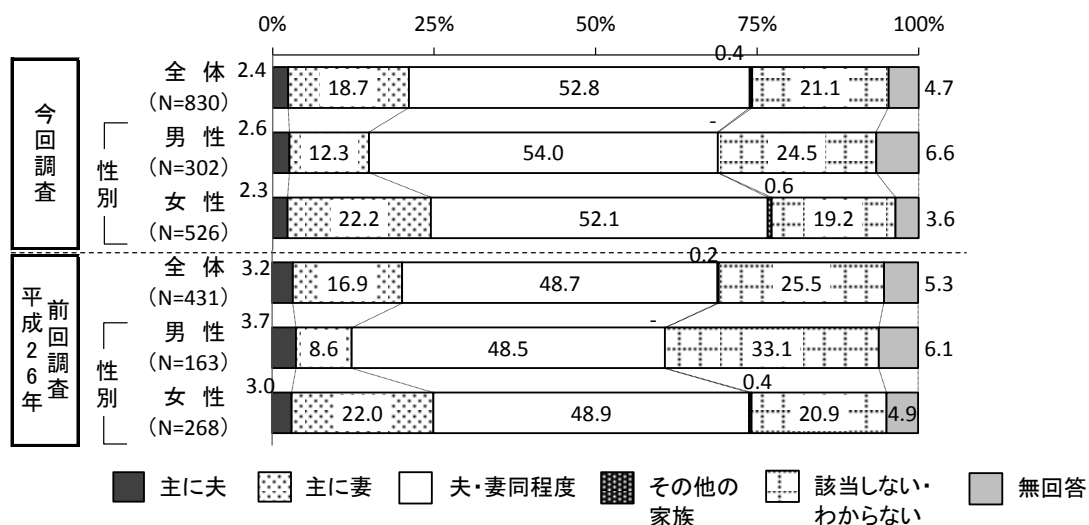
年代別で見ると、男女とも子どもに手がかかる世代と思われる30代で、「主に妻」の割合(男性48.4%、女性60.5%)が他の世代に比べて高くなっている。

図表2-6 育児、子どものしつけ [全体、年代別]

		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		830	0.5	44.9	29.6	0.4	19.9	4.7
年代別	男性:20代	13	-	30.8	7.7	-	61.5	-
	男性:30代	64	-	48.4	29.7	-	18.8	3.1
	男性:40代	74	1.4	39.2	39.2	-	17.6	2.7
	男性:50代	43	2.3	32.6	39.5	2.3	18.6	4.7
	男性:60代	49	-	34.7	26.5	-	30.6	8.2
	男性:70代以上	59	-	27.1	33.9	-	22.0	16.9
	女性:20代	29	-	44.8	24.1	-	27.6	3.4
	女性:30代	129	-	60.5	24.0	-	13.2	2.3
	女性:40代	146	0.7	54.1	26.0	-	17.1	2.1
	女性:50代	78	-	57.7	25.6	-	15.4	1.3
	女性:60代	84	1.2	34.5	32.1	1.2	28.6	2.4
	女性:70代以上	58	-	25.9	39.7	1.7	17.2	15.5
	無回答	4	-	75.0	25.0	-	-	-

(エ) 子どもの教育方針・進路目標の決定

図表2-7 子どもの教育方針・進路目標の決定 [全体、性別] (前回調査比較)



「子どもの教育方針・進路目標の決定」は「夫・妻同程度」が52.8%と8分野の中で最も高くなっている。「主に妻」は18.7%、「主に夫」は2.4%である。

性別で見ると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が女性は52.1%、男性は54.0%と5割を超えている。女性の「主に妻」の割合は22.2%で男性の12.3%を9.9ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「夫・妻同程度」が約3~6ポイント高くなっている。

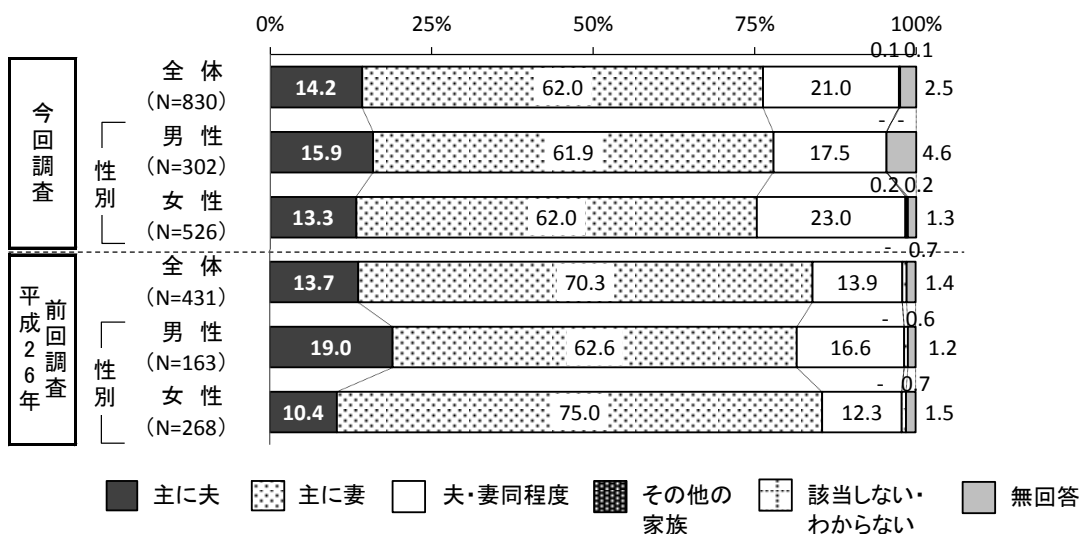
年代別で見ると、女性の30代と男性の40代、50代で「夫・妻同程度」の割合が6割前後と全体の平均を上回っている。

図表2-8 子どもの教育方針・進路目標の決定 [全体、年代別]

		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		830	2.4	18.7	52.8	0.4	21.1	4.7
年代別	男性:20代	13	-	7.7	30.8	-	61.5	-
	男性:30代	64	1.6	17.2	53.1	-	25.0	3.1
	男性:40代	74	1.4	12.2	67.6	-	16.2	2.7
	男性:50代	43	2.3	14.0	58.1	-	20.9	4.7
	男性:60代	49	2.0	12.2	46.9	-	30.6	8.2
	男性:70代以上	59	6.8	6.8	45.8	-	23.7	16.9
	女性:20代	29	3.4	13.8	51.7	-	27.6	3.4
	女性:30代	129	1.6	23.3	58.9	-	14.0	2.3
	女性:40代	146	2.1	26.7	53.4	-	15.8	2.1
	女性:50代	78	-	28.2	52.6	1.3	16.7	1.3
	女性:60代	84	6.0	14.3	48.8	1.2	27.4	2.4
	女性:70代以上	58	1.7	17.2	36.2	1.7	27.6	15.5
	無回答	4	-	25.0	75.0	-	-	-

(オ) 家計の管理

図表 2-9 家計の管理 [全体、性別] (前回調査比較)



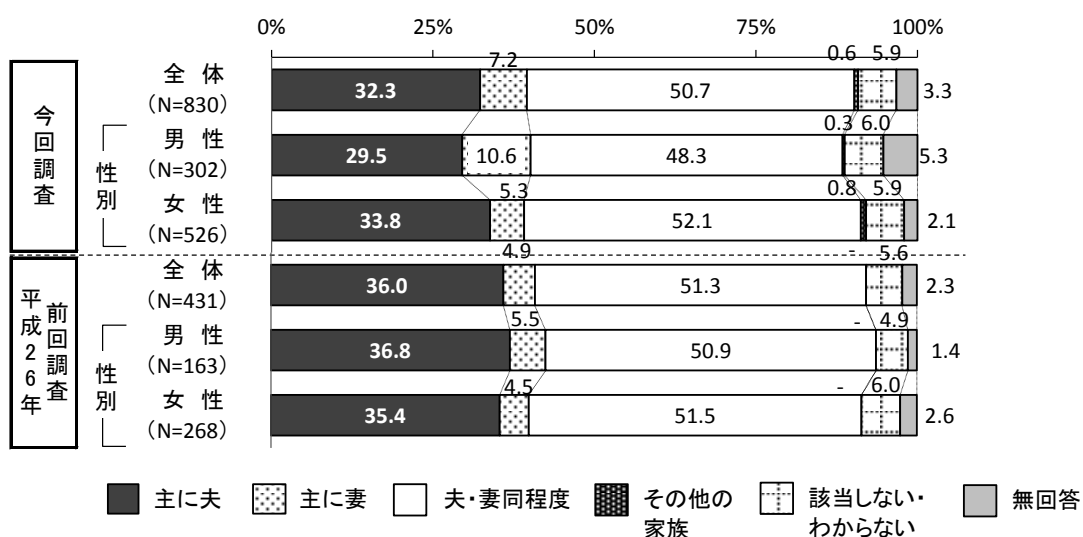
「家計の管理」は「主に妻」が62.0%、「主に夫」が14.2%と家計の管理は妻の担当となっている場合が多い。

性別で見ると、男女とも「主に妻」が6割台と同程度で、男女ともに妻が行うという認識が強い。

前回調査と比べると、女性で「主に妻」の割合が13ポイント減っている。

(カ) 高額の商品や土地、家屋の購入決定

図表 2-10 高額の商品や土地、家屋の購入決定 [全体、性別] (前回調査比較)



「高額の商品や土地、家屋の購入決定」については、「夫・妻同程度」が50.7%、次いで「主に夫」が32.3%、「主に妻」は7.2%である。「主に夫」の割合は「家計を支える」に次いで8分野中2番目に高い。

性別で見ると、男女とも「夫・妻同程度」の割合が最も高いが、女性は「主に夫」の割合が男性よりも高く、男性は「主に妻」の割合が女性のよりも高くなっている。

前回調査と比べると、男性の「主に夫」の割合が 7.3 ポイント減り、「主に妻」の割合が 5.1 ポイント増えている。

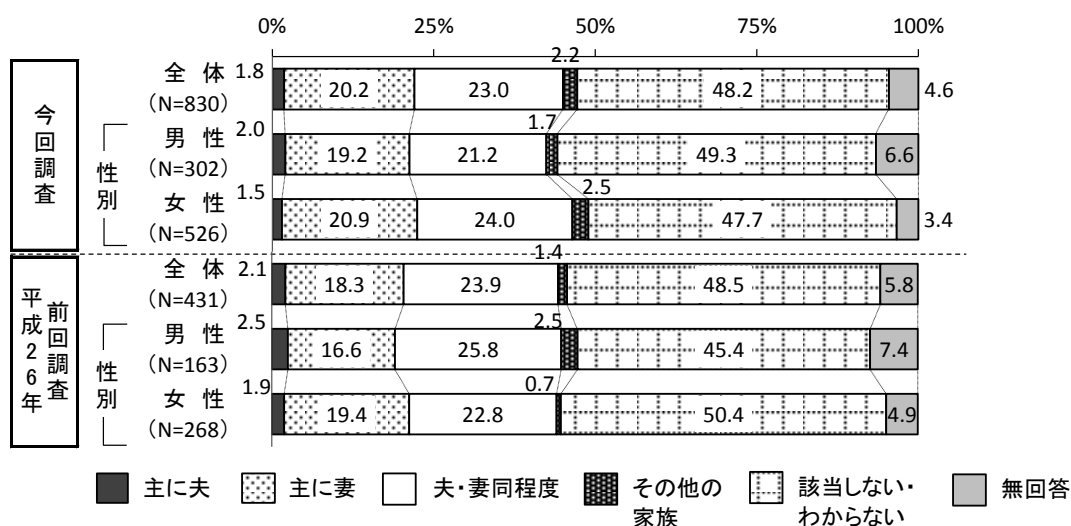
年代別でみると、「夫・妻同程度」は女性の 50 代、男性の 30 代と 40 代で 6 割前後と高い。「主に夫」は男性の 70 代以上、女性の 60 代で 4 割前後と高くなっている。

図表 2-11 高額の商品や土地、家屋の購入決定 [全体、年代別]

		(%)						
		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		830	268	60	421	5	49	27
		100.0	32.3	7.2	50.7	0.6	5.9	3.3
年代別	男性:20代	13	30.8	23.1	38.5	-	7.7	-
	男性:30代	64	20.3	12.5	59.4	-	4.7	3.1
	男性:40代	74	25.7	10.8	59.5	-	1.4	2.7
	男性:50代	43	30.2	14.0	41.9	2.3	7.0	4.7
	男性:60代	49	28.6	12.2	44.9	-	8.2	6.1
	男性:70代以上	59	44.1	1.7	32.2	-	10.2	11.9
	女性:20代	29	34.5	6.9	37.9	-	13.8	6.9
	女性:30代	129	34.9	7.0	47.3	-	7.8	3.1
	女性:40代	146	32.9	4.8	54.1	2.7	4.1	1.4
	女性:50代	78	30.8	5.1	61.5	-	2.6	-
	女性:60代	84	39.3	1.2	54.8	-	4.8	-
	女性:70代以上	58	29.3	8.6	48.3	-	8.6	5.2
	無回答	4	50.0	-	50.0	-	-	-

(キ) 親の世話 (介護)

図表 2-12 親の世話 (介護) [全体、性別] (前回調査比較)



「親の世話 (介護)」は「該当しない・わからない」が 48.2%と半数近くを占めているが、該当する人では、「夫・妻同程度」が 23.0%、「主に妻」が 20.2%となっている。

性別でみると、男女とも「主に妻」、「夫と妻同程度」はそれぞれ約 2 割となっている。

前回調査と比べると、男性で「主に妻」がやや高くなっており、「夫・妻同程度」の割合が男女ともやや減っている。

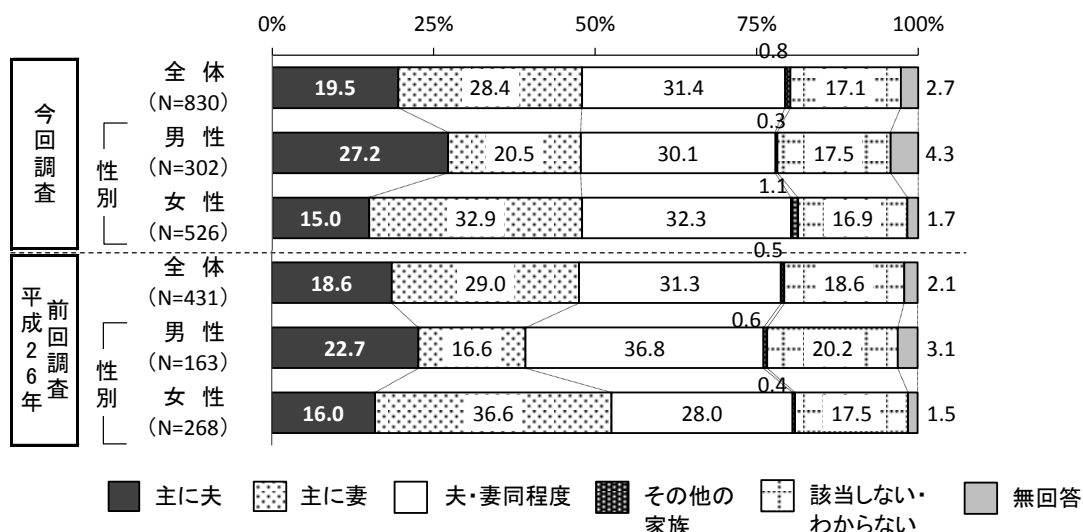
年代別でみると、女性の50代と男性の60代では4割前後と高くなっている。親の介護が必要な世代では女性が担う場合が多いようである。「夫・妻同程度」は男性の40代と50代で約3割、女性の50代で約4割と他の年代に比べて高くなっている。

図表2-13 親の世話（介護）[全体、年代別]

		標本数	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	わが該当しない・	無回答
全体		830	15	168	191	18	400	38
		100.0	1.8	20.2	23.0	2.2	48.2	4.6
年代別	男性:20代	13	-	15.4	7.7	-	76.9	-
	男性:30代	64	1.6	6.3	14.1	-	75.0	3.1
	男性:40代	74	1.4	5.4	31.1	4.1	55.4	2.7
	男性:50代	43	-	23.3	30.2	2.3	39.5	4.7
	男性:60代	49	8.2	40.8	16.3	-	28.6	6.1
	男性:70代以上	59	-	30.5	16.9	1.7	32.2	18.6
	女性:20代	29	-	3.4	17.2	-	75.9	3.4
	女性:30代	129	-	7.0	17.1	3.1	70.5	2.3
	女性:40代	146	2.7	20.5	26.0	2.1	47.9	0.7
	女性:50代	78	1.3	37.2	37.2	5.1	19.2	-
	女性:60代	84	3.6	33.3	26.2	2.4	32.1	2.4
	女性:70代以上	58	-	22.4	17.2	-	41.4	19.0
	無回答	4	25.0	-	25.0	-	50.0	-

(ク) 町内会・自治会などの地域活動

図表2-14 町内会・自治会などの地域活動 [全体、性別] (前回調査比較)



「町内会・自治会などの地域活動」は「夫・妻同程度」が31.4%、次いで「主に妻」が28.4%、「主に夫」が19.5%となっている。

性別でみると、女性は「主に妻」が32.9%と、男性(20.5%)を12.4ポイント上回り、男性は「主に夫」が27.2%で、女性(15.0%)を12.2ポイント上回っている。男女とも地域活動は自分が行っているという認識が強いようである。

前回調査と比べると、男女とも同じような認識の違いはみられるが、「夫・妻同程度」の割合が女性で4.3ポイント高く、男性では6.7ポイント低くなっている。

年代別でみると、女性の40代と50代で「主に妻」の割合が4割前後と高い。「主に夫」は男性の60代で51.0%と5割を超えて最も高い。「夫・妻同程度」は女性の60代と男性の50代で4割前後と高くなっており、年代によって認識の違いがみられる。

図表2-15 町内会・自治会などの地域活動 [全体、年代別]

		(%)						
		標 本 数	主 に 夫	主 に 妻	夫 ・ 妻 同 程 度	そ の 他 の 家 族	わ 該 か 当 ら し な い ・	無 回 答
全 体		830 100.0	162 19.5	236 28.4	261 31.4	7 0.8	142 17.1	22 2.7
年 代 別	男性:20代	13	7.7	15.4	38.5	-	38.5	-
	男性:30代	64	25.0	23.4	15.6	1.6	31.3	3.1
	男性:40代	74	10.8	32.4	33.8	-	20.3	2.7
	男性:50代	43	27.9	18.6	39.5	-	9.3	4.7
	男性:60代	49	51.0	10.2	24.5	-	12.2	2.0
	男性:70代以上	59	33.9	13.6	37.3	-	5.1	10.2
	女性:20代	29	3.4	13.8	20.7	3.4	55.2	3.4
	女性:30代	129	12.4	31.8	24.0	0.8	28.7	2.3
	女性:40代	146	8.9	40.4	32.9	2.1	14.4	1.4
	女性:50代	78	17.9	38.5	37.2	-	6.4	-
	女性:60代	84	27.4	23.8	41.7	-	7.1	-
	女性:70代以上	58	20.7	31.0	36.2	1.7	5.2	5.2
無回答		4	25.0	50.0	-	-	25.0	-

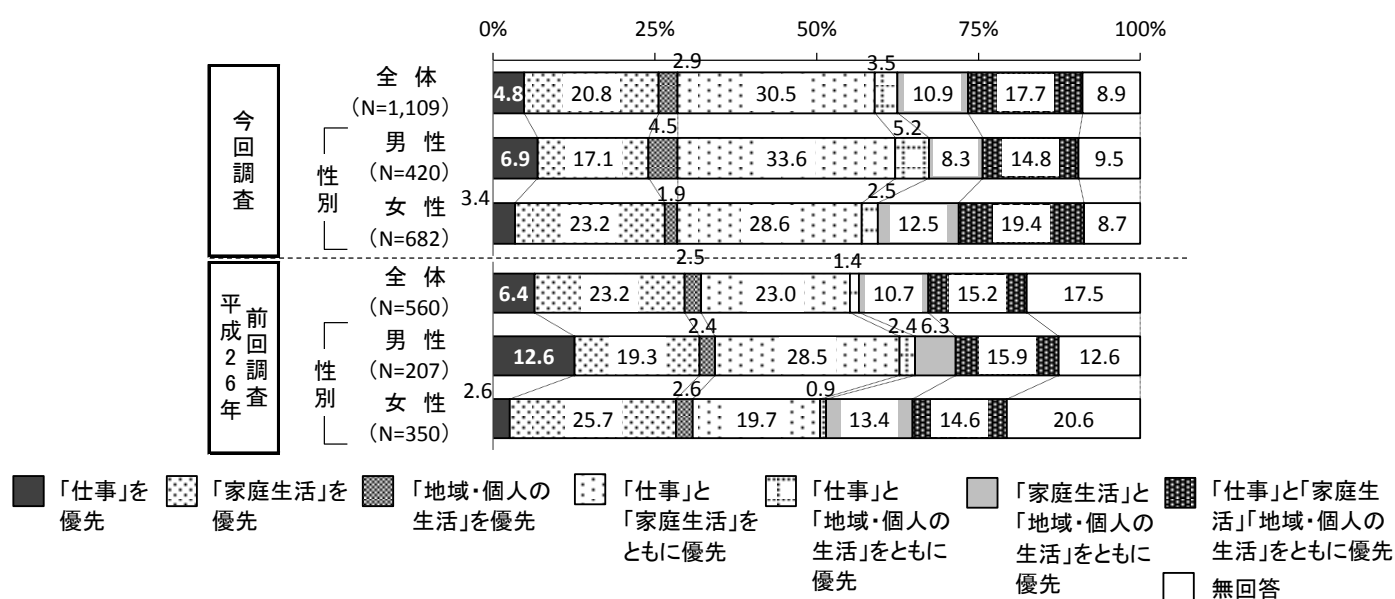
2. ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

問6. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についてたずねた。

（ア）希望

図表2-16 希望する生活の中での優先度 [全体、性別] (前回調査比較)



「希望」は、「仕事と家庭生活をともに優先」が30.5%で最も高く、次いで「家庭生活を優先」が20.8%、「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」が17.7%、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が10.9%と続いている。

性別で見ると、男性は「仕事と家庭生活をともに優先」（男性33.6%、女性28.6%）が5ポイント女性を上回り、その他「仕事を優先」「仕事と地域・個人の生活をともに優先」などが3ポイント前後高いなどやや仕事優先の希望が高い。

女性は「家庭生活を優先」（同17.1%、23.2%）が6.1ポイント、「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」（同14.8%、19.4%）が4.6ポイント、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（同8.3%、12.5%）が4.2ポイント男性を上回るなど、家庭生活優先の希望が高い。

前回調査と比べると、男性は「仕事優先」が5.7ポイント減少し、「仕事と家庭生活をともに優先」が5.1ポイント増加している。女性は「家庭生活」がやや減少し、「仕事と家庭生活をともに優先」が8.9ポイント、「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」が4.8ポイント増加している。

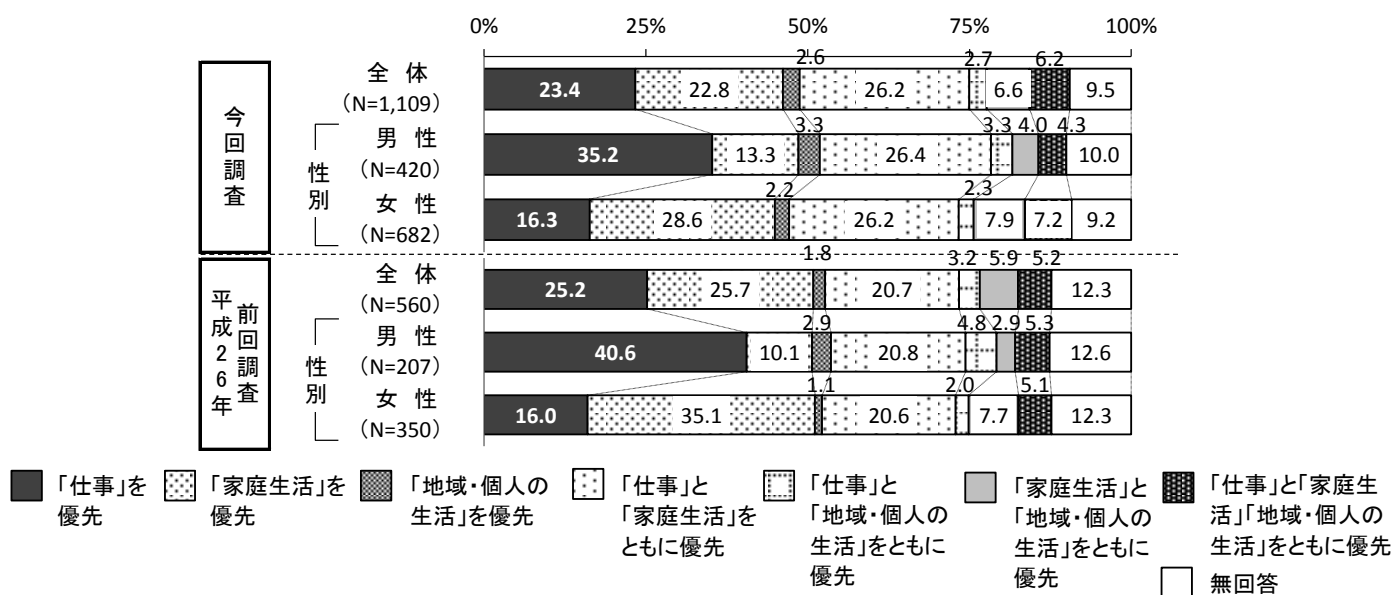
年代別でみると、「仕事と家庭生活をともに優先」は男性の30代が46.9%と最も高く、次いで男女の50代で約4割となっている。女性の30代と40代では「仕事と家庭生活をともに優先」が3割前後で高いが、その他「家庭生活を優先」が2割半ば、「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」が約2割とこれらの希望も他の年代に比べて高くなっている。

図表2-17 希望する生活の中での優先度 [全体、年代別]

		標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	無回答
全体		1,109	53	231	32	338	39	121	196	99
		100.0	4.8	20.8	2.9	30.5	3.5	10.9	17.7	8.9
年代別	男性:20代	36	-	19.4	2.8	33.3	5.6	16.7	5.6	16.7
	男性:30代	81	2.5	12.3	2.5	46.9	7.4	6.2	11.1	11.1
	男性:40代	94	5.3	22.3	4.3	31.9	1.1	6.4	18.1	10.6
	男性:50代	68	4.4	14.7	1.5	38.2	8.8	2.9	17.6	11.8
	男性:60代	72	15.3	20.8	5.6	22.2	5.6	8.3	15.3	6.9
	男性:70代以上	69	11.6	13.0	10.1	27.5	4.3	14.5	15.9	2.9
	女性:20代	68	1.5	17.6	4.4	26.5	1.5	14.7	14.7	19.1
	女性:30代	155	2.6	25.8	0.6	33.5	0.6	11.6	20.0	5.2
	女性:40代	168	3.0	25.6	1.8	29.8	2.4	7.7	24.4	5.4
	女性:50代	94	3.2	16.0	3.2	39.4	1.1	11.7	22.3	3.2
	女性:60代	111	6.3	27.0	0.9	27.0	3.6	11.7	16.2	7.2
	女性:70代以上	83	3.6	20.5	2.4	9.6	7.2	22.9	13.3	20.5
無回答		10	10.0	20.0	-	20.0	-	20.0	20.0	10.0

(イ) 現実 (現状)

図表2-18 現実 (現状) の生活の中での優先度 [全体、性別] (前回調査比較)



一方、「現実（現状）」は「仕事と家庭生活をともに優先」が 26.2%、次いで「仕事優先」が 23.4%、「家庭生活を優先」が 22.8%となっている。

性別でみると、男性は「仕事優先」（35.2%）、女性は「家庭生活を優先」（28.6%）が最も高く、次いで男女とも「仕事と家庭生活をともに優先」が 2 割半ばとなっている。

前回調査と比べると、男性は「仕事優先」が 5.4 ポイント減少、女性は「家庭生活優先」が 6.5 ポイント減少し「仕事と家庭生活をともに優先」が男女とも 5.6 ポイント増加している。

年代別でみると、「仕事を優先」は男性の 50 代以下の各年代で 4 割前後と最も高く、女性では 50 代で 30.9%と高い。「家庭生活を優先」は女性の 30 代と 60 代以上、男性の 70 代以上で 3 割を超えて高く、「仕事と家庭生活をともに優先」は男女とも 30 代と 40 代で 3 割前後と他の年代に比べて高い。

図表 2-19 現実（現状）の生活の中での優先度 [全体、年代別]

		(%)									
		標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	個人生活と「地域」をともに優先	「仕事」と「地域・個人生活」と「地域」をともに優先	「生活」と「地域」をともに優先	「仕事」と「個人生活」をともに優先	無回答
全体		1,109 100.0	259 23.4	253 22.8	29 2.6	291 26.2	30 2.7	73 6.6	69 6.2	105 9.5	
年代別	男性:20代	36	41.7	5.6	2.8	25.0	-	5.6	2.8	16.7	
	男性:30代	81	38.3	8.6	1.2	29.6	3.7	2.5	2.5	13.6	
	男性:40代	94	43.6	6.4	3.2	33.0	1.1	-	3.2	9.6	
	男性:50代	68	42.6	5.9	1.5	25.0	2.9	1.5	7.4	13.2	
	男性:60代	72	31.9	20.8	5.6	22.2	4.2	2.8	5.6	6.9	
	男性:70代以上	69	13.0	31.9	5.8	20.3	7.2	14.5	4.3	2.9	
	女性:20代	68	17.6	25.0	4.4	26.5	4.4	1.5	-	20.6	
	女性:30代	155	19.4	31.6	-	30.3	0.6	7.7	4.5	5.8	
	女性:40代	168	16.7	25.0	3.0	31.5	1.8	8.3	8.3	5.4	
	女性:50代	94	30.9	21.3	1.1	27.7	4.3	3.2	8.5	3.2	
	女性:60代	111	8.1	32.4	4.5	23.4	1.8	9.9	11.7	8.1	
	女性:70代以上	83	3.6	36.1	1.2	10.8	3.6	14.5	8.4	21.7	
無回答		10	-	30.0	-	10.0	-	30.0	20.0	10.0	

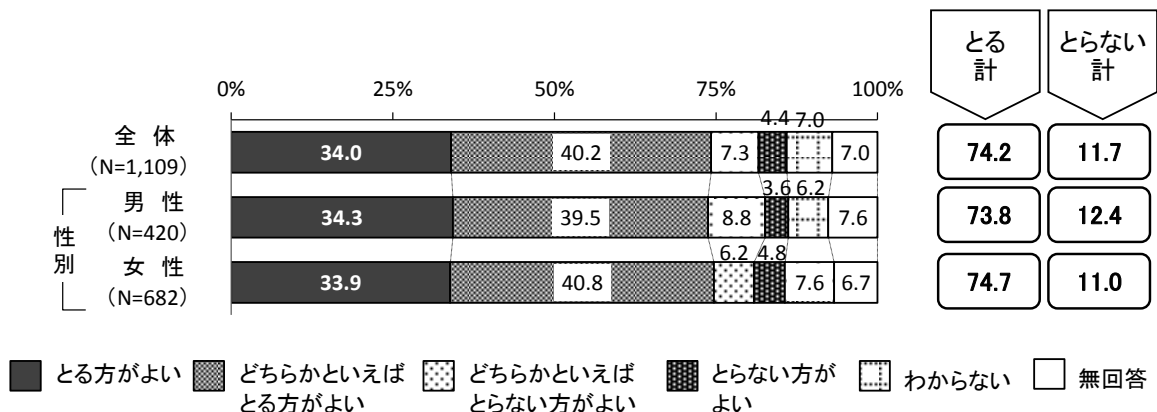
「希望」と「現実（現状）」を比べると、希望に比べ男性は「仕事を優先」、女性は「家庭生活を優先」「仕事を優先」した生活が現実となっている。また男女とも「仕事と家庭生活、地域・個人の生活をともに優先」が現実では 10 ポイント以上低くなっている。

3. 男性の育児休業・介護休業取得について

問7. あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の(ア)、(イ)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
(○はそれぞれ1つだけ)

(ア) 育児休業

図表2-20 男性の育児休業取得について [全体、性別]



男性が育児休業をとることについて、「どちらかといえばとる方がよい」が40.2%と最も高く、次いで「とる方がよい」が34.0%で、これらをあわせた『とる』方がよいは74.2%となっている。「どちらかといえばとらない方がよい」は7.3%、「とらない方がよい」は4.4%で、男性が育児休業をとることについては肯定的な意見の方が高くなっている。

性別でみると、男女とも大差はみられず、肯定的な意見が7割を超えている。

年代別でみると、積極的な「とる方がよい」は男性の20代で50.0%と最も高く、次いで30代で42.0%と高い。また女性でも20代、30代、50代で約4割と高い。男性の40代以上、女性の40代と60代以上は「どちらかといえばとる方がよい」の割合の方が高くなっている。子育て世代と思われる30代の『とる』の割合をみると、女性は80.0%であるのに対し、男性は71.6%と8.4ポイント低くなっている。

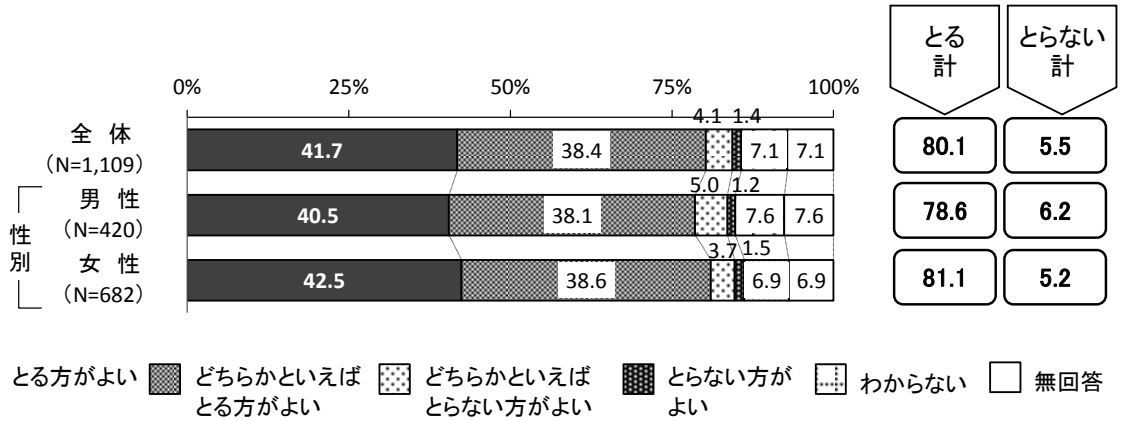
配偶状況別でみると、男女とも既婚の場合、共働きである、共働きでないに関わらず、「積極的な「とる方がよい」よりも「どちらかといえばとる方がよい」の割合の方が高く、また女性の未婚者でも「どちらかといえばとる方がよい」の割合の方が高い。積極的な「とる方がよい」の割合が「どちらかといえばとる方がよい」の割合を上回っているのは男性の未婚者で38.1%となっている。

図表2-21 男性の育児休業取得について〔全体、年代別、配偶状況別〕

										(%)	
		標本数	とる方がよい	よえど いばち とら るか 方と がい	方えど がばち らか いと ない	よとら らない 方が	わから ない	無回答	とる	とらない	
全 体		1,109 100.0	377 34.0	446 40.2	81 7.3	49 4.4	78 7.0	78 7.0	823 74.2	130 11.7	
年代別	男性:20代	36	50.0	25.0	2.8	-	2.8	19.4	75.0	2.8	
	男性:30代	81	42.0	29.6	6.2	6.2	8.6	7.4	71.6	12.4	
	男性:40代	94	36.2	42.6	7.4	1.1	7.4	5.3	78.8	8.5	
	男性:50代	68	23.5	45.6	10.3	2.9	7.4	10.3	69.1	13.2	
	男性:60代	72	33.3	37.5	13.9	5.6	2.8	6.9	70.8	19.5	
	男性:70代以上	69	26.1	50.7	10.1	4.3	5.8	2.9	76.8	14.4	
	女性:20代	68	41.2	33.8	2.9	2.9	1.5	17.6	75.0	5.8	
	女性:30代	155	41.3	38.7	5.8	5.8	3.9	4.5	80.0	11.6	
	女性:40代	168	29.8	42.9	5.4	4.2	11.3	6.5	72.7	9.6	
	女性:50代	94	41.5	40.4	5.3	2.1	7.4	3.2	81.9	7.4	
	女性:60代	111	30.6	44.1	6.3	7.2	6.3	5.4	74.7	13.5	
	女性:70代以上	83	19.3	43.4	10.8	4.8	13.3	8.4	62.7	15.6	
	無回答	10	20.0	20.0	30.0	20.0	10.0	-	40.0	50.0	
配偶状況別	男性:未婚	84	38.1	23.8	6.0	1.2	7.1	23.8	61.9	7.2	
	男性:既婚(共働きである)	165	33.9	43.6	9.7	5.5	6.1	1.2	77.5	15.2	
	男性:既婚(共働きでない)	130	34.6	43.1	9.2	3.1	6.9	3.1	77.7	12.3	
	男性:離別	28	25.0	35.7	14.3	3.6	3.6	17.9	60.7	17.9	
	男性:死別	12	25.0	66.7	-	-	-	8.3	91.7	-	
	女性:未婚	80	30.0	37.5	1.3	1.3	5.0	25.0	67.5	2.6	
	女性:既婚(共働きである)	293	36.2	42.3	6.5	5.8	6.8	2.4	78.5	12.3	
	女性:既婚(共働きでない)	229	35.8	42.8	7.0	4.8	7.4	2.2	78.6	11.8	
	女性:離別	37	24.3	35.1	5.4	5.4	8.1	21.6	59.4	10.8	
	女性:死別	38	26.3	31.6	7.9	5.3	13.2	15.8	57.9	13.2	
	無回答	13	23.1	23.1	23.1	7.7	23.1	-	46.2	30.8	

(イ) 介護休業

図表2-22 男性の介護休業取得について [全体、性別]



男性が介護休業をとることについて、「とる方がよい」が41.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばとる方がよい」が38.4%で、これらをあわせた『とる』方がよいは80.1%となっており、男性が介護休業をとることについては、育児休業よりも肯定的な意見が高くなっている。性別でみると、『とる』方がよいの割合は女性の方が男性よりもやや高くなっている。年代別でみると、積極的な「とる方がよい」は男性の20代と女性の50代で5割半ばと高く、男性の50代は35.3%と同年代の女性よりも21.1ポイント低くなっている。男性の場合は50代と70代以上を除く年代で、女性の場合は50代以下で、積極的な「とる方がよい」の割合が「どちらかといえばとる方がよい」の割合を上回っている。

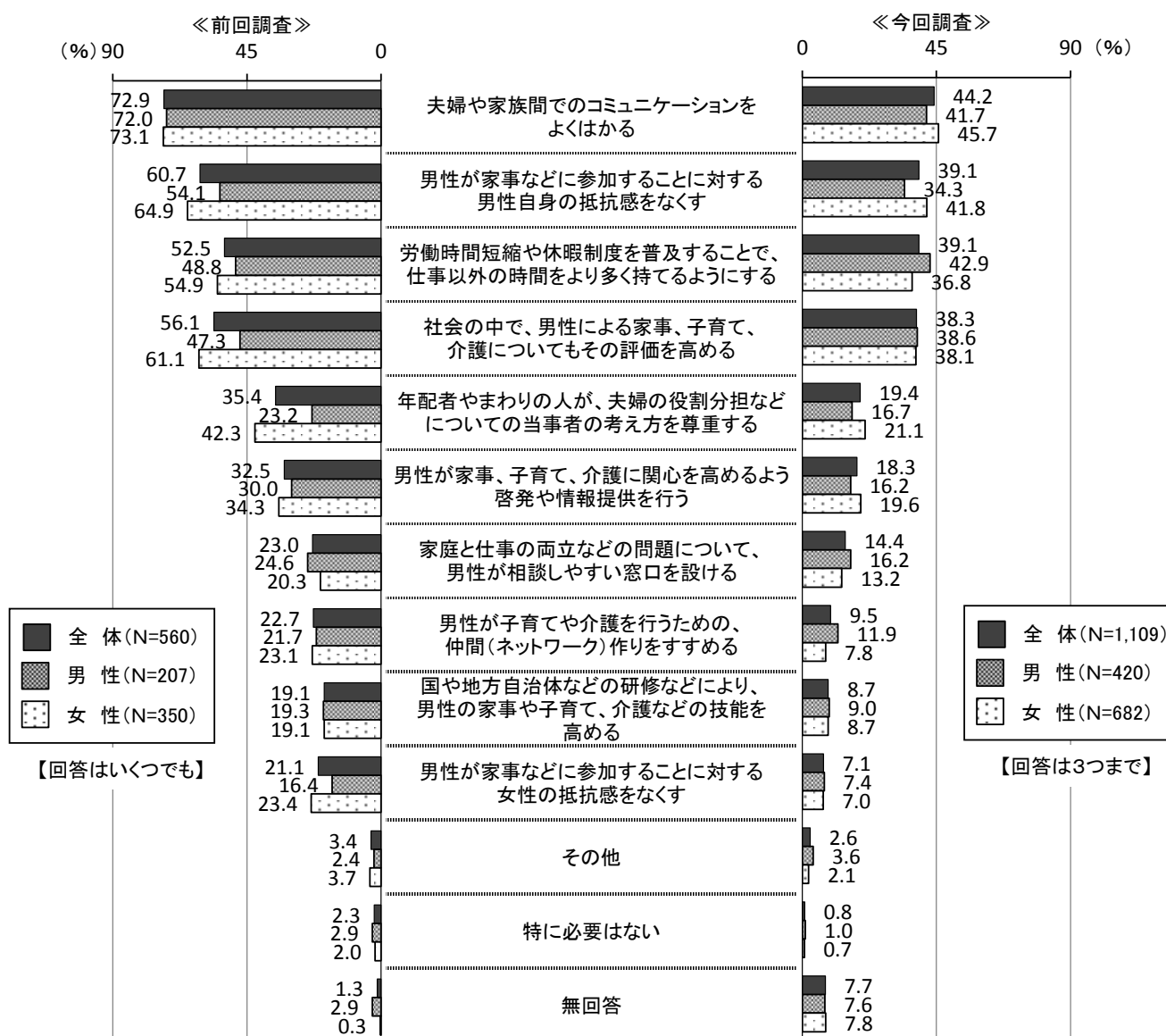
図表2-23 男性の介護休業取得について [全体、年代別]

		標本数	とる方がよい	よえど いばと らるか 方と がい	方えど がばら いらか なと いい	よと いら ない 方が	わ か ら な い	無 回 答	とる	とら ない
全体		1,109	463	426	46	16	79	79	889	62
		100.0	41.7	38.4	4.1	1.4	7.1	7.1	80.1	5.5
年代別	男性:20代	36	55.6	22.2	-	-	2.8	19.4	77.8	-
	男性:30代	81	45.7	28.4	4.9	2.5	11.1	7.4	74.1	7.4
	男性:40代	94	43.6	37.2	3.2	1.1	9.6	5.3	80.8	4.3
	男性:50代	68	35.3	41.2	7.4	1.5	4.4	10.3	76.5	8.9
	男性:60代	72	45.8	34.7	6.9	1.4	4.2	6.9	80.5	8.3
	男性:70代以上	69	21.7	59.4	5.8	-	10.1	2.9	81.1	5.8
	女性:20代	68	44.1	32.4	1.5	-	4.4	17.6	76.5	1.5
	女性:30代	155	47.7	37.4	2.6	2.6	5.2	4.5	85.1	5.2
	女性:40代	168	43.5	38.1	2.4	1.2	8.3	6.5	81.6	3.6
	女性:50代	94	56.4	31.9	3.2	1.1	4.3	3.2	88.3	4.3
	女性:60代	111	36.0	44.1	5.4	1.8	7.2	5.4	80.1	7.2
女性:70代以上	83	24.1	47.0	8.4	1.2	9.6	9.6	71.1	9.6	
無回答		10	30.0	40.0	-	10.0	20.0	-	70.0	10.0

4. 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと

問8. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表2-24 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと
[全体、性別] (前回調査比較)



今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が44.2%で最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が同率39.1%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」が38.3%となっている。

性別でみると、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(男性42.9%、女性36.8%)が女性よりも6.1ポイント高く、その他「男性が子育てや介護を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめる」(同11.9%、7.8%)、

「家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける」(同 16.2%、13.2%)などが約3～4ポイント高くなっている。一方、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(同 34.3%、41.8%)が男性よりも7.5ポイント高く、その他「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」(同 16.7%、21.1%)、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(同 41.7%、45.7%)、「男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」(同 16.2%、19.6%)などが約3～4ポイント高くなっている。

前回調査ではいくつでも回答を選ぶことが出来たため、正確な比較はできないが、男性では前回調査では3位であった「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が今回調査では1位に順位を上げている。

年代別で見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」は男女の60代と女性の20代と40代で4割半ばから5割半ば、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」は男性の70代以上と女性の50代で約5割、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は男性の20代と40代と女性の30代で約5割から6割、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」は男性の50代で約5割と他の年代に比べて高くなっている。

配偶状況別で見ると、既婚の男女では、共働きである場合「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」や「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」、共働きでない場合は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が高くなっている。

図表2-25 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ積極的に参加するために必要なこと
[全体、年代別、配偶状況別]

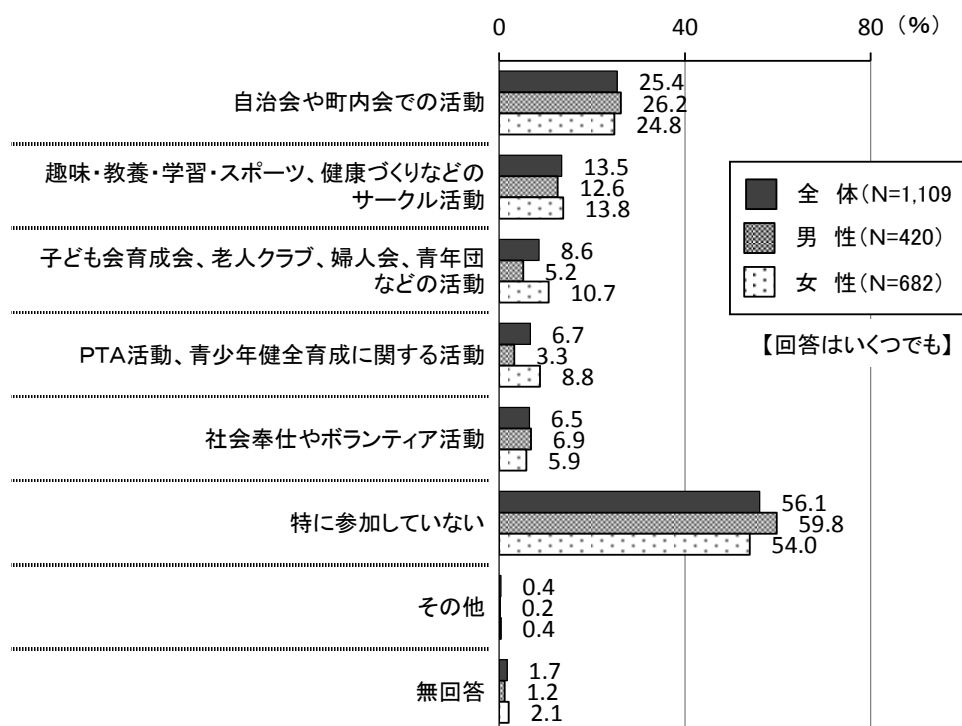
標本数		男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	年配者やまわりの人が、当事者の考え方を尊重する	社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする	男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	国や地方自治体などの研究や調査により、男性が家事、子育て、介護などの家務や子育てを担うための仕組みづくりを行う	男性が子育てや介護を担うための窓口を設ける	家庭と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設ける	その他	特に必要はない	無回答
全体	1,109 100.0	434 39.1	79 7.1	490 44.2	215 19.4	425 38.3	434 39.1	203 18.3	97 8.7	105 9.5	160 14.4	29 2.6	9 0.8	85 7.7
年代別	男性:20代	36	27.8	5.6	44.4	25.0	41.7	52.8	8.3	13.9	5.6	-	-	19.4
	男性:30代	81	33.3	7.4	42.0	14.8	40.7	43.2	8.6	11.1	9.9	13.6	4.9	2.5
	男性:40代	94	25.5	7.4	38.3	12.8	39.4	57.4	9.6	5.3	8.5	16.0	7.4	1.1
	男性:50代	68	33.8	10.3	39.7	14.7	48.5	30.9	14.7	8.8	16.2	14.7	2.9	-
	男性:60代	72	36.1	6.9	45.8	15.3	34.7	41.7	27.8	5.6	15.3	18.1	1.4	-
	男性:70代以上	69	49.3	5.8	42.0	23.2	27.5	30.4	27.5	13.0	14.5	24.6	1.4	1.4
	女性:20代	68	39.7	11.8	45.6	16.2	30.9	33.8	14.7	5.9	7.4	10.3	-	1.5
	女性:30代	155	41.3	5.8	40.6	16.1	42.6	49.0	16.1	5.8	11.0	10.3	4.5	0.6
	女性:40代	168	38.7	7.1	44.6	26.2	43.5	41.7	14.9	6.5	5.4	8.3	1.8	0.6
	女性:50代	94	47.9	5.3	41.5	26.6	43.6	34.0	26.6	13.8	7.4	11.7	2.1	1.1
女性:60代	111	44.1	7.2	56.8	18.9	28.8	33.3	26.1	10.8	6.3	19.8	1.8	-	
女性:70代以上	83	39.8	6.0	47.0	20.5	32.5	14.5	24.1	12.0	8.4	22.9	-	1.2	
無回答	10	70.0	10.0	50.0	20.0	30.0	40.0	10.0	-	30.0	30.0	-	-	-
配偶状況別	男性:未婚	84	28.6	14.3	29.8	16.7	32.1	39.3	10.7	8.3	13.1	6.0	3.6	1.2
	男性:既婚(共働きである)	165	32.7	4.8	43.0	16.4	47.9	52.1	11.5	10.3	10.9	20.0	3.6	1.2
	男性:既婚(共働きでない)	130	41.5	7.7	49.2	17.7	33.1	38.5	19.2	9.2	12.3	19.2	3.8	0.8
	男性:離別	28	25.0	3.6	46.4	17.9	28.6	25.0	32.1	-	10.7	7.1	3.6	-
	男性:死別	12	41.7	-	16.7	8.3	41.7	33.3	50.0	16.7	16.7	25.0	-	-
	女性:未婚	80	36.3	10.0	31.3	15.0	23.8	26.3	16.3	10.0	8.8	20.0	2.5	-
	女性:既婚(共働きである)	293	42.0	7.5	46.1	22.9	44.7	42.0	19.1	6.5	7.2	7.5	2.7	1.0
	女性:既婚(共働きでない)	229	46.3	7.4	51.5	23.1	36.7	38.0	22.3	9.6	7.9	15.7	1.3	0.4
	女性:離別	37	29.7	-	32.4	18.9	24.3	27.0	16.2	8.1	8.1	21.6	-	2.7
	女性:死別	38	39.5	-	50.0	13.2	39.5	23.7	18.4	18.4	10.5	21.1	2.6	-
無回答	13	46.2	7.7	46.2	7.7	38.5	30.8	15.4	-	15.4	15.4	-	-	

第3章 地域活動について

1. 地域づくりにかかわる活動への参加状況

問9. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動を何かしていますか。
 (〇はいくつでも)

図表3-1 地域づくりにかかわる活動への参加状況 [全体、性別]



地域づくりにかかわる活動への参加状況をたずねたところ、「自治会や町内会での活動」が25.4%で最も高くなっている。次いで「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が13.5%、「子ども会育成会、老人クラブ、婦人会、青年団での活動」が8.6%、「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」が6.7%、「社会奉仕やボランティア活動」が6.5%となっている。他方「特に参加していない」は56.1%と半数以上の人が地域づくりにかかわる活動に参加をしていない。

性別で見ると、「自治会や町内会での活動」や「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」では男女差はあまりみられないが、「子ども会育成会、老人クラブ、婦人会、青年団での活動」「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」ともに女性の方が男性よりも各々5.5ポイント高くなっている。「特に参加していない」は男性が59.8%、女性が54.0%と女性の方が5.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、「自治会や町内会での活動」は男性の60代以上、女性の40代以上の年代で3割前後で高く、「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」は男女とも年代が高い層で割合が高くなっている。「子ども会育成会、老人クラブ、婦人会、青年団での活動」は男女の70代以上、女性の30代と40代、「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」は女性の30代と40代での参加が多い。「特に参加していない」は年代が低い層での割合が高い。

小学校区別でみると、「自治会や町内会での活動」は大川小学校と粕屋中央小学校で約3割、「子ども会育成会、老人クラブ、婦人会、青年団での活動」は大川小学校と粕屋西小学校で1割を超える参加となっている。

図表3-2 地域づくりにかかわる活動への参加状況 [全体、年代別、小学校区別]

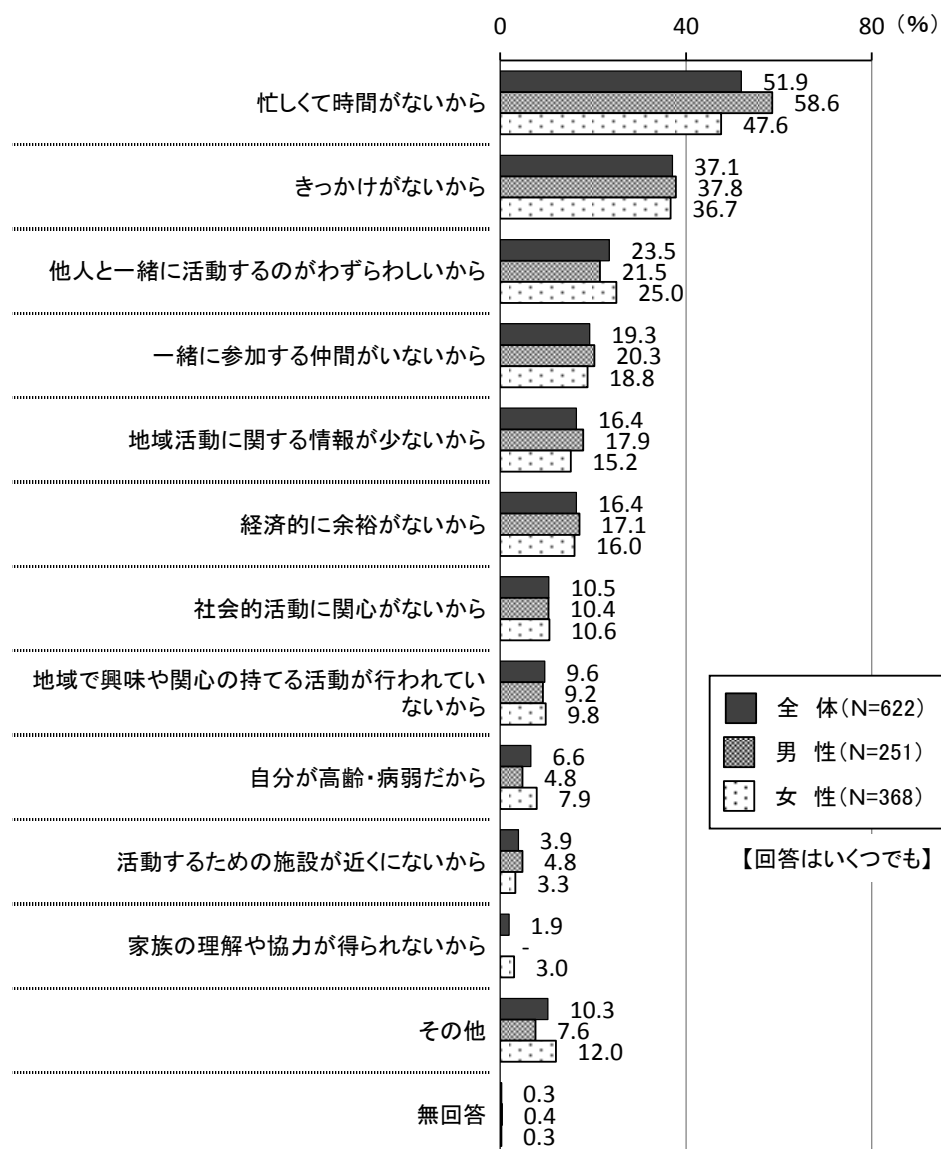
		(%)									
		標本数	自治会や町内会での活動	子ども会育成会、老人クラブなどの活動	PTA活動、青少年健全育成に関する活動	PTA活動、青少年健全育成に関する活動	趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動	社会奉仕やボランティア活動	特に参加していない	その他	無回答
全体		1,109 100.0	282 25.4	95 8.6	74 6.7	150 13.5	72 6.5	622 56.1	4 0.4	19 1.7	
年代別	男性:20代	36	5.6	2.8	-	8.3	8.3	75.0	-	2.8	
	男性:30代	81	23.5	2.5	4.9	9.9	7.4	61.7	-	-	
	男性:40代	94	25.5	2.1	2.1	5.3	3.2	68.1	-	-	
	男性:50代	68	26.5	2.9	5.9	13.2	7.4	63.2	-	-	
	男性:60代	72	36.1	4.2	1.4	15.3	8.3	51.4	1.4	1.4	
	男性:70代以上	69	30.4	17.4	4.3	24.6	8.7	43.5	-	4.3	
	女性:20代	68	2.9	2.9	1.5	7.4	-	85.3	-	2.9	
	女性:30代	155	20.6	11.6	10.3	9.7	0.6	60.0	-	2.6	
	女性:40代	168	29.8	17.9	21.4	8.3	1.8	45.8	0.6	1.8	
	女性:50代	94	29.8	6.4	4.3	12.8	8.5	51.1	-	1.1	
女性:60代	111	30.6	4.5	1.8	19.8	12.6	51.4	1.8	0.9		
女性:70代以上	83	27.7	14.5	1.2	30.1	16.9	39.8	-	3.6		
	無回答	10	30.0	-	-	40.0	30.0	50.0	-	-	
小学校区別	大川小学校	222	31.1	10.4	7.7	12.6	5.9	50.9	0.5	3.2	
	仲原小学校	299	20.7	7.0	6.7	14.4	7.7	58.2	0.3	2.3	
	粕屋西小学校	261	21.5	12.3	7.3	9.6	5.7	62.5	0.4	1.1	
	粕屋中央小学校	313	29.4	6.1	5.8	16.3	6.1	51.8	0.3	0.3	
	無回答	14	21.4	-	-	21.4	14.3	71.4	-	7.1	

2. 地域づくりにかかわる活動に参加していない理由

【問9で「6. 特に参加していない」と答えた方におたずねします。】

付問9-1. あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。
(〇はいくつでも)

図表3-3 地域づくりにかかわる活動に参加していない理由 [全体、性別]



地域づくりにかかわる活動に「特に参加していない」と回答した人にその理由をたずねた。「忙しくて時間がないから」が51.9%と最も高くなっている。次いで「きっかけがないから」が37.1%、「他人と一緒に活動するのがわずらわしいから」が23.5%、「一緒に参加する仲間がないから」19.3%、「地域活動に関する情報が少ないから」と「経済的に余裕がないから」が同率16.4%などあげられている。

性別でみると、「忙しくて時間がないから」は男性が58.6%と女性(47.6%)を11ポイント上回り、「一緒に参加する仲間がないから」「地域活動に関する情報が少ないから」なども男性の割合がやや高くなっている。女性は「他人と一緒に参加するのがわずらわしいから」が男性よりも3.5ポイント高くなっている。

第3章 地域活動について

年代別でみると、「忙しくて時間がないから」や「きっかけがないから」は男女とも年代が低い層での割合が高い傾向にある。特に「忙しくて時間がないから」は男性の40代以下、女性の30代で6割を超えて高く、また「きっかけがないから」も男性の30代以下で5割前後と高い。「地域活動に関する情報が少ないから」も男女とも年齢の低い層で、「一緒に参加する仲間がないから」は女性の年齢が低い層での割合が高い傾向にある。

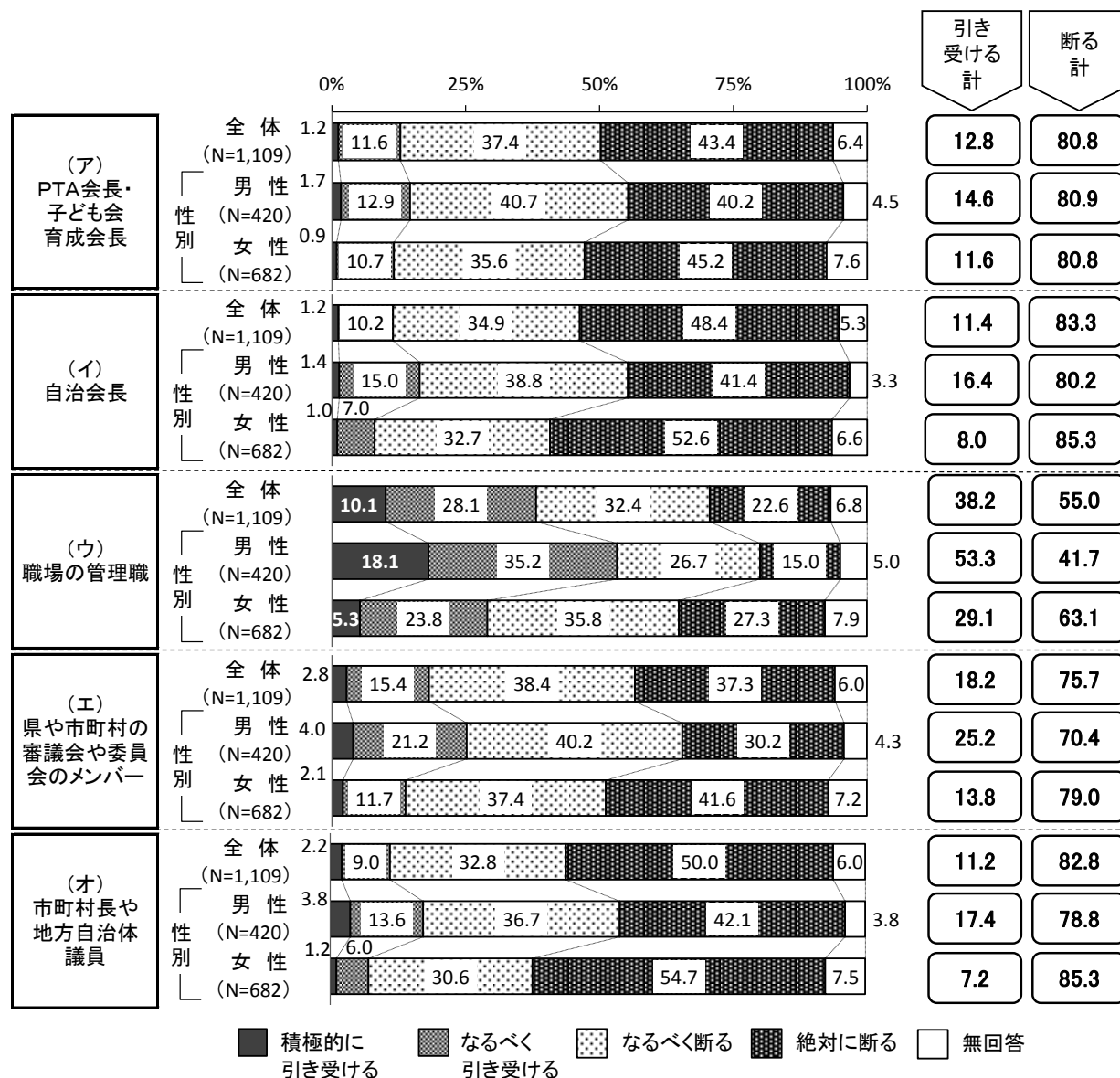
図表3-4 地域づくりにかかわる活動に参加していない理由 [全体、年代別]

		標本数	活動するための施設が近く	社会的活動に関心がないから	地域で興味や関心を持っていないから	地域活動に関する情報が少ないから	きっかけがないから	忙しくて時間がないから	自分が高齢・病弱だから	経済的に余裕がないから	家族の理解や協力が得られないから	一緒に参加する仲間がないから	他人と一緒に活動するのが	その他	無回答
全体		622 100.0	24 3.9	65 10.5	60 9.6	102 16.4	231 37.1	323 51.9	41 6.6	102 16.4	12 1.9	120 19.3	146 23.5	64 10.3	2 0.3
年代別	男性:20代	27	3.7	-	14.8	14.8	51.9	63.0	-	3.7	-	18.5	11.1	7.4	-
	男性:30代	50	6.0	14.0	4.0	24.0	48.0	70.0	-	14.0	-	20.0	18.0	8.0	-
	男性:40代	64	3.1	9.4	4.7	14.1	34.4	76.6	-	20.3	-	17.2	14.1	6.3	-
	男性:50代	43	4.7	16.3	7.0	18.6	37.2	55.8	7.0	23.3	-	25.6	23.3	9.3	2.3
	男性:60代	37	2.7	10.8	18.9	18.9	29.7	45.9	5.4	24.3	-	24.3	43.2	2.7	-
	男性:70代以上	30	10.0	6.7	13.3	16.7	26.7	16.7	23.3	10.0	-	16.7	23.3	13.3	-
	女性:20代	58	3.4	13.8	5.2	29.3	44.8	46.6	1.7	17.2	-	31.0	20.7	13.8	-
	女性:30代	93	3.2	11.8	8.6	23.7	44.1	61.3	1.1	15.1	3.2	20.4	17.2	9.7	-
	女性:40代	77	3.9	13.0	13.0	10.4	35.1	50.6	3.9	14.3	3.9	18.2	26.0	11.7	-
	女性:50代	48	-	6.3	16.7	10.4	37.5	56.3	6.3	22.9	6.3	18.8	25.0	12.5	2.1
	女性:60代	57	3.5	8.8	10.5	3.5	29.8	31.6	12.3	14.0	3.5	8.8	35.1	14.0	-
女性:70代以上	33	6.1	6.1	3.0	6.1	12.1	21.2	42.4	15.2	-	9.1	33.3	12.1	-	
無回答		5	-	-	20.0	20.0	60.0	20.0	-	-	20.0	20.0	20.0	20.0	-

3. 役職、公職への就任や立候補を依頼された場合の対応

問10. 仮にあなたが、次の（ア）から（オ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（○はそれぞれ1つだけ）

図表3-5 役職、公職への就任や立候補を依頼された場合の対応 [全体、性別]



「PTA会長・子ども会育成会長」「自治会長」「職場の管理職」「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」「市町村長や地方自治体議員」などの役職や公職への就任や立候補を依頼された場合の対応をたずねた。

「絶対に断る」「なるべく断る」をあわせた『断る』の割合が高い順に「自治会長」(83.8%)、「市町村長や地方自治体議員」(82.8%)、「PTA会長・子ども会育成会長」(80.8%)までが8割を超え、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」(75.7%)は7割半ば、「職場の管理職」(55.0%)は5割半ばとなっている。

性別でみると、『断る』は、「PTA会長・子ども会育成会長」は男女とも約8割と同程度であ

第3章 地域活動について

るが、その他の役職、公職では男性よりも女性の方が『断る』割合が高くなっている。「自治会長」では女性の方が5.1ポイント、「市町村長や地方自治体議員」では6.5ポイント、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」では8.6ポイント、「職場の管理職」では21.4ポイント男性よりも高くなっている。

年代別でみると、男性は「自治会長」を除く、その他の役職や公職では年代の低い層で『引き受ける』割合が高い傾向にある。女性は、比較的『引き受ける』割合が高い「職場の管理職」では30代以下で4割を超え、「PTA会長・子ども会育成会長」では30代で15.4%、その前後の年代でも1割を超えるなど年代の低い層での割合が高い。「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」は女性の50代で『引き受ける』割合が19.1%と他の年代と比べると高い。

図表3-6 役職、公職への就任や立候補を依頼された場合の対応 [全体、年代別]

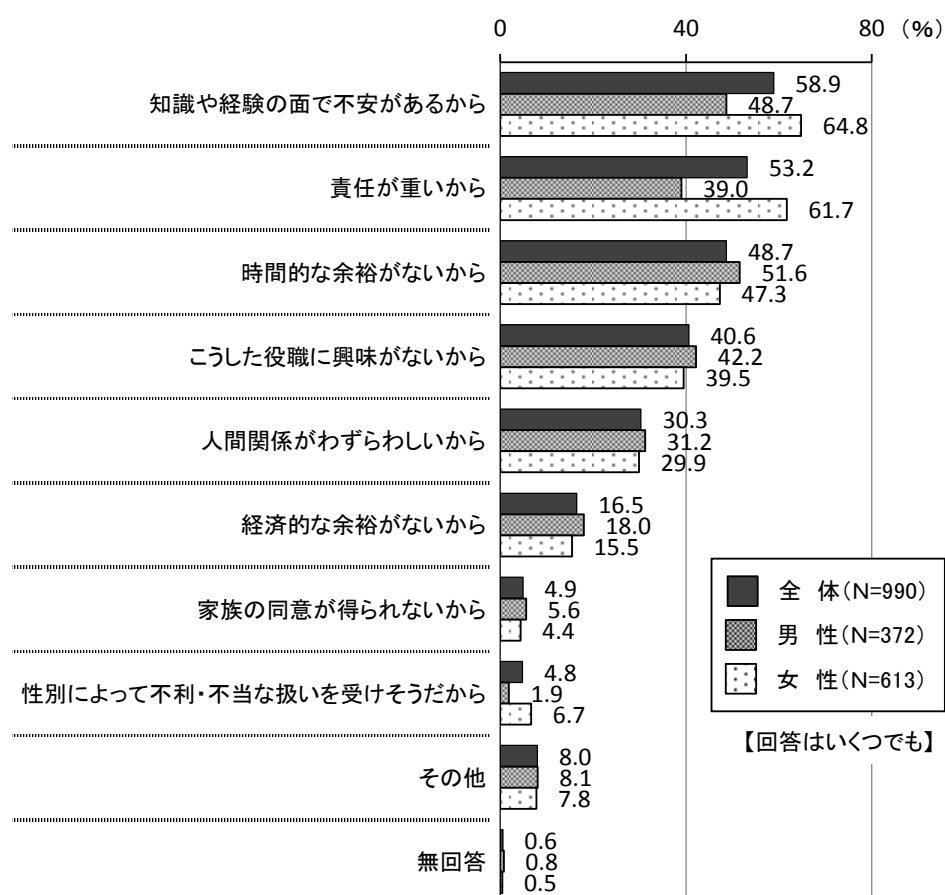
		(ア)PTA会長・子ども会育成会長								(イ)自治会長								
		標本数	引受ける	引き受ける	断る	絶対に断る	無回答	受ける	断る	引受ける	引き受ける	断る	絶対に断る	無回答	受ける	断る		
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合		
全体		1,109	13	129	415	481	71	142	896	13	113	387	537	59	126	924		
		100.0	1.2	11.6	37.4	43.4	6.4	12.8	80.8	1.2	10.2	34.9	48.4	5.3	11.4	83.3		
年代別	男性:20代	36	2.8	27.8	44.4	25.0	-	30.6	69.4	-	16.7	50.0	30.6	2.8	16.7	80.6		
	男性:30代	81	-	21.0	32.1	45.7	1.2	21.0	77.8	-	18.5	37.0	43.2	1.2	18.5	80.2		
	男性:40代	94	1.1	11.7	41.5	44.7	1.1	12.8	86.2	1.1	11.7	37.2	50.0	-	12.8	87.2		
	男性:50代	68	2.9	8.8	44.1	41.2	2.9	11.7	85.3	1.5	14.7	47.1	35.3	1.5	16.2	82.4		
	男性:60代	72	1.4	4.2	43.1	41.7	9.7	5.6	84.8	2.8	15.3	27.8	47.2	6.9	18.1	75.0		
	男性:70代以上	69	2.9	10.1	42.0	33.3	11.6	13.0	75.3	2.9	14.5	40.6	33.3	8.7	17.4	73.9		
	女性:20代	68	-	11.8	44.1	41.2	2.9	11.8	85.3	-	7.4	39.7	50.0	2.9	7.4	89.7		
	女性:30代	155	0.6	14.8	33.5	49.0	1.9	15.4	82.5	1.3	8.4	32.3	56.8	1.3	9.7	89.1		
	女性:40代	168	1.8	10.7	38.7	44.0	4.8	12.5	82.7	1.2	7.1	32.7	54.8	4.2	8.3	87.5		
	女性:50代	94	1.1	10.6	33.0	51.1	4.3	11.7	84.1	1.1	9.6	29.8	56.4	3.2	10.7	86.2		
	女性:60代	111	0.9	9.0	34.2	47.7	8.1	9.9	81.9	1.8	6.3	33.3	51.4	7.2	8.1	84.7		
	女性:70代以上	83	-	4.8	31.3	32.5	31.3	4.8	63.8	-	2.4	30.1	39.8	27.7	2.4	69.9		
	無回答	10	-	20.0	20.0	60.0	-	20.0	80.0	-	20.0	20.0	60.0	-	20.0	80.0		
			(ウ)職場の管理職								(エ)県や市町村の審議会や委員会のメンバー							
		標本数	引受ける	引き受ける	断る	絶対に断る	無回答	受ける	断る	引受ける	引き受ける	断る	絶対に断る	無回答	受ける	断る		
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合		
全体		1,109	112	312	359	251	75	424	610	31	171	426	414	67	202	840		
		100.0	10.1	28.1	32.4	22.6	6.8	38.2	55.0	2.8	15.4	38.4	37.3	6.0	18.2	75.7		
年代別	男性:20代	36	25.0	41.7	27.8	2.8	2.8	66.7	30.6	5.6	27.8	30.6	33.3	2.8	33.4	63.9		
	男性:30代	81	32.1	39.5	16.0	11.1	1.2	71.6	27.1	2.5	32.1	32.1	32.1	1.2	34.6	64.2		
	男性:40代	94	22.3	41.5	29.8	6.4	-	63.8	36.2	5.3	18.1	43.6	33.0	-	23.4	76.6		
	男性:50代	68	14.7	36.8	33.8	14.7	-	51.5	48.5	5.9	16.2	50.0	26.5	1.5	22.1	76.5		
	男性:60代	72	6.9	22.2	30.6	30.6	9.7	29.1	61.2	2.8	18.1	37.5	30.6	11.1	20.9	68.1		
	男性:70代以上	69	7.2	30.4	23.2	21.7	17.4	37.6	44.9	2.9	17.4	43.5	26.1	10.1	20.3	69.6		
	女性:20代	68	2.9	42.6	35.3	16.2	2.9	45.5	51.5	-	14.7	38.2	44.1	2.9	14.7	82.3		
	女性:30代	155	9.0	31.6	34.2	23.9	1.3	40.6	58.1	2.6	11.0	36.8	48.4	1.3	13.6	85.2		
	女性:40代	168	5.4	26.2	38.7	24.4	5.4	31.6	63.1	1.8	12.5	39.3	41.7	4.8	14.3	81.0		
	女性:50代	94	6.4	21.3	39.4	29.8	3.2	27.7	69.2	2.1	17.0	43.6	33.0	4.3	19.1	76.6		
	女性:60代	111	3.6	10.8	36.0	40.5	9.0	14.4	76.5	4.5	8.1	36.9	43.2	7.2	12.6	80.1		
	女性:70代以上	83	1.2	9.6	28.9	26.5	33.7	10.8	55.4	-	8.4	27.7	33.7	30.1	8.4	61.4		
	無回答	10	-	20.0	40.0	40.0	-	20.0	80.0	-	20.0	30.0	50.0	-	20.0	80.0		
			(オ)市町村長や地方自治体議員															
		標本数	引受ける	引き受ける	断る	絶対に断る	無回答	受ける	断る									
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合									
全体		100.0	2.2	9.0	32.8	50.0	6.0	11.2	82.8									
年代別	男性:20代	36	2.8	27.8	27.8	38.9	2.8	30.6	66.7									
	男性:30代	81	4.9	24.7	35.8	33.3	1.2	29.6	69.1									
	男性:40代	94	4.3	12.8	36.2	46.8	-	17.1	83.0									
	男性:50代	68	2.9	11.8	42.6	41.2	1.5	14.7	83.8									
	男性:60代	72	4.2	1.4	36.1	50.0	8.3	5.6	86.1									
	男性:70代以上	69	2.9	8.7	37.7	40.6	10.1	11.6	78.3									
	女性:20代	68	-	7.4	38.2	52.9	1.5	7.4	91.1									
	女性:30代	155	1.9	6.5	29.0	60.6	1.9	8.4	89.6									
	女性:40代	168	1.2	5.4	33.3	56.0	4.2	6.6	89.3									
	女性:50代	94	1.1	8.5	29.8	56.4	4.3	9.6	86.2									
	女性:60代	111	1.8	5.4	28.8	55.0	9.0	7.2	83.8									
	女性:70代以上	83	-	3.6	24.1	41.0	31.3	3.6	65.1									
	無回答	10	-	20.0	30.0	50.0	-	20.0	80.0									

4. 役職、公職への就任や立候補を断る理由

【問 10 で (ア) から (オ) のうち、ひとつでも「3. なるべく断る」、「4. 絶対に断る」と答えた方におたずねします。】

付問 10-1. 引き受けないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

図表 3-7 役職、公職への就任や立候補を断る理由 [全体、性別]



5分野の中で一つでも役職や公職への就任や立候補の依頼に「なるべく断る」「絶対に断る」と回答した人にその理由をたずねた。

「知識や能力の面で不安があるから」が 58.9%と最も高く、次いで「責任が重いから」(53.2%)、「時間的な余裕がないから」(48.7%)、「こうした役職、公職に興味がないから」(40.6%)、「人間関係がわずらわしいから」(30.3%)などが続いている。

性別でみると、女性は「知識や能力の面で不安があるから」が 64.8%で男性(48.7%)を 16.1ポイント、「責任が重いから」は 61.7%で男性(39.0%)を 22.7ポイントと大きく上回っている。男性は「時間的な余裕がないから」(男性 51.6%、女性 47.3%)で 4.3ポイント、「こうした役職、公職に興味がないから」(同 42.2%、39.5%)、「人間関係がわずらわしいから」(同 31.2%、29.9%)でやや女性の割合を上回っている。

年代別でみると、「知識や能力の面で不安があるから」は女性の50代で71.3%と最も高く、30代でも67.6%と7割近くとなっている。「責任が重いから」は女性の50代で69.0%、20代で66.7%、30代と40代でも約6割と高率である。「時間的な余裕がないから」は男女の30代と40代で約6割から7割と他の年代に比べて高くなっている。

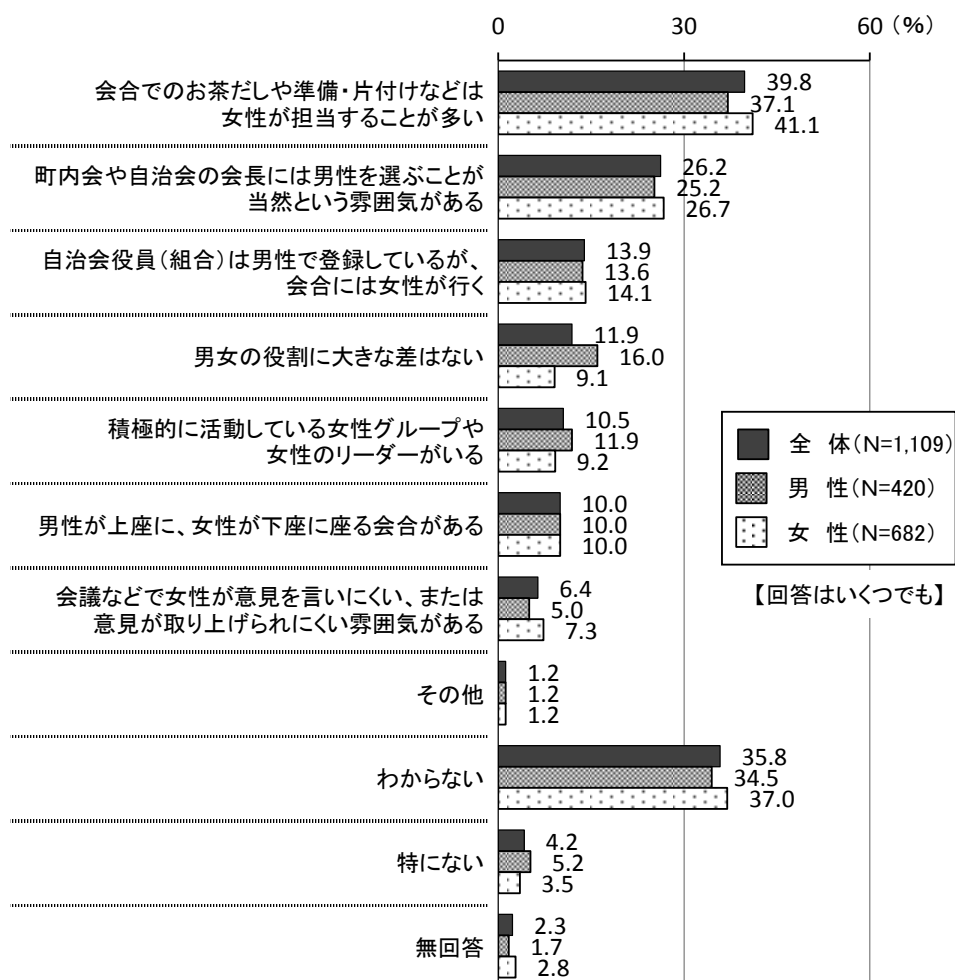
図表3-8 役職、公職への就任や立候補を断る理由〔全体、年代別〕

		(%)										
		責任が重いから	知識や経験の面で不安があるから	時間的な余裕がないから	経済的な余裕がないから	家族の同意が得られないから	人間関係がわずらわしいから	性別による扱いを不利そうに感じるから	こうした役職に興味が無いから	その他	無回答	
全体		990 100.0	527 53.2	583 58.9	482 48.7	163 16.5	49 4.9	300 30.3	48 4.8	402 40.6	79 8.0	6 0.6
年代別	男性:20代	32	25.0	56.3	43.8	12.5	-	31.3	-	53.1	3.1	-
	男性:30代	68	35.3	44.1	61.8	20.6	4.4	29.4	4.4	42.6	11.8	-
	男性:40代	85	32.9	40.0	69.4	21.2	3.5	23.5	1.2	43.5	5.9	1.2
	男性:50代	62	48.4	56.5	56.5	25.8	8.1	45.2	-	32.3	1.6	-
	男性:60代	65	47.7	50.8	40.0	20.0	9.2	32.3	4.6	49.2	7.7	1.5
	男性:70代以上	60	40.0	51.7	26.7	3.3	6.7	28.3	-	36.7	16.7	1.7
	女性:20代	63	66.7	61.9	47.6	17.5	1.6	30.2	11.1	49.2	4.8	-
	女性:30代	145	60.0	67.6	57.9	16.6	4.1	28.3	6.9	49.0	7.6	0.7
	女性:40代	155	61.9	63.9	58.1	18.1	3.2	25.2	9.0	38.7	5.8	-
	女性:50代	87	69.0	71.3	48.3	16.1	5.7	37.9	4.6	33.3	5.7	-
	女性:60代	98	57.1	62.2	33.7	10.2	8.2	34.7	5.1	34.7	7.1	2.0
女性:70代以上	62	54.8	58.1	17.7	12.9	3.2	22.6	1.6	25.8	21.0	-	
無回答		8	87.5	87.5	-	12.5	12.5	50.0	-	50.0	12.5	-

5. 住んでいる地域での状況

問 11. あなたが住んでいる地域において、以下のようなことがありますか。
 (〇はいくつでも)

図表 3-9 住んでいる地域での状況 [全体、性別]



住んでいる地域での状況をたずねた。「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」が 39.8%と最も高く、次いで「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」が 26.2%、「自治会役員(組合)は男性で登録しているが、会合には女性が行く」が 13.9%、「男女の役割に大きな差はない」が 11.9%、「積極的に活動している女性グループや女性のリーダーがいる」が 10.5%、「男性が上座に、女性が下座に座る会合がある」が 10.0%と続いている。他方「わからない」が 35.8%と高く、地域での様子を知らない人は多い。

性別で見ると、男性は「男女の役割に大きな差はない」(男性 16.0%、女性 9.1%)が 6.9 ポイント女性よりも高く、女性は「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」(同 37.1%、41.1%)が 4 ポイント男性よりも高い。また、男性では「積極的に活動している女性グループや女性のリーダーがいる」、女性では「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」や「会議などで女性が意見を言いにくい、または意見が取り上げられにくい雰囲気がある」などの割合がやや高くなっている。

第3章 地域活動について

年代別でみると「わからない」は男女とも年代が低くなるほど割合が高く、20代では7割を超えている。ほとんどの項目は男女とも年齢が高い層での割合が高くなっている。「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」は男性の50代以上、女性の40代以上で4割を超えている。「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」は男女とも50代以上で3割を超え、「自治会役員（組合）は男性で登録しているが、会合には女性が行く」は女性の50代以上で2割を超えて高くなっている。

小学校区別でみると、「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」は粕屋中央小学校で46.3%と最も高く、「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」はいずれの小学校区も2割半ばとなっている。「自治会役員（組合）は男性で登録しているが、会合には女性が行く」は粕屋西小学校と粕屋中央小学校で2割弱、「男性が上座に、女性が下座に座る会合がある」は大川小学校が14.9%と他の小学校区に比べて高くなっている。

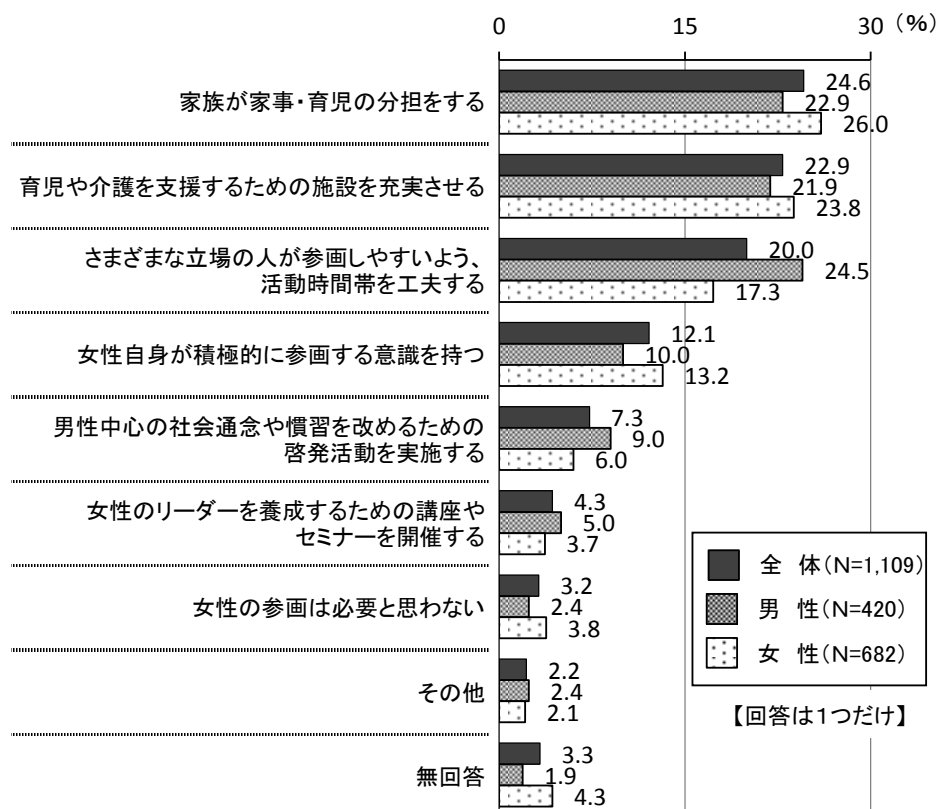
図表3-10 住んでいる地域での状況 [全体、年代別、小学校区別]

		(%)											
	標本数	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある	町内会や自治会の会長という雰囲気がある
全体	1,109 100.0	291 26.2	71 6.4	441 39.8	111 10.0	132 11.9	116 10.5	154 13.9	13 1.2	397 35.8	47 4.2	26 2.3	
年代別	男性:20代	36	5.6	-	22.2	-	8.3	2.8	2.8	-	72.2	2.8	-
	男性:30代	81	13.6	4.9	30.9	4.9	8.6	8.6	9.9	1.2	46.9	7.4	-
	男性:40代	94	11.7	-	31.9	8.5	11.7	7.4	8.5	-	46.8	3.2	1.1
	男性:50代	68	32.4	5.9	42.6	5.9	13.2	13.2	16.2	-	30.9	7.4	1.5
	男性:60代	72	38.9	11.1	40.3	20.8	25.0	11.1	23.6	4.2	12.5	5.6	1.4
	男性:70代以上	69	46.4	7.2	50.7	15.9	27.5	26.1	17.4	1.4	10.1	4.3	5.8
	女性:20代	68	8.8	4.4	11.8	1.5	1.5	2.9	4.4	1.5	70.6	7.4	1.5
	女性:30代	155	9.7	3.9	31.0	3.9	4.5	3.2	5.8	-	58.7	1.9	0.6
	女性:40代	168	29.8	11.9	47.0	11.9	3.0	10.7	11.9	1.8	36.9	3.0	3.0
	女性:50代	94	44.7	12.8	57.4	19.1	6.4	5.3	22.3	1.1	18.1	2.1	3.2
女性:60代	111	33.3	4.5	47.7	11.7	19.8	17.1	22.5	1.8	18.0	6.3	2.7	
女性:70代以上	83	37.3	4.8	44.6	12.0	25.3	16.9	20.5	1.2	15.7	2.4	7.2	
無回答	10	40.0	-	60.0	10.0	30.0	30.0	20.0	-	10.0	10.0	-	
小学校区別	大川小学校	222	25.7	9.0	40.5	14.9	13.1	10.8	11.3	2.3	31.1	6.3	2.7
	仲原小学校	299	28.1	5.4	35.8	9.0	11.4	9.7	10.0	1.3	40.1	3.3	3.0
	粕屋西小学校	261	26.4	4.6	36.4	9.2	9.2	8.8	17.6	0.8	38.3	5.0	2.3
	粕屋中央小学校	313	24.6	7.3	46.3	8.3	12.8	11.5	16.6	0.6	32.6	3.2	1.3
	無回答	14	28.6	-	28.6	7.1	35.7	28.6	7.1	-	42.9	-	7.1

6. 地域活動で女性の積極的な参画を進めるために必要なこと

問 12. 地域活動において、女性の積極的な参画を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

図表 3-11 地域活動で女性の積極的な参画を進めるために必要なこと [全体、性別]



地域活動において女性の積極的な参画を進めるために必要なことは「家族が家事・育児の分担をする」が 24.6%、「育児や介護を支援するための施設を充実させる」が 22.9%、「さまざまな立場の人が参画しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が 20.0%となっている。

性別で見ると、男性は「さまざまな立場の人が参画しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が 24.5%で最も高く、女性（17.3%）を 7.2 ポイント上回っている。その他「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」（男性 9.0%、女性 6.0%）、「女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する」（同 5.0%、3.7%）なども男性の方が女性よりも割合がやや高い。女性は、「家族が家事・育児の分担をする」（同 22.9%、26.0%）、「育児や介護を支援するための施設を充実させる」（同 21.9%、23.8%）、「女性自身が積極的に参画する意識を持つ」（同 10.0%、13.2%）などが男性よりも割合がやや高い。

第3章 地域活動について

年代別でみると、「家族が家事・育児の分担をする」や「育児や介護を支援するための施設を充実させる」などは男女とも年代が低い層での割合が高く、特に「家族が家事・育児の分担をする」は女性の30代以下、「育児や介護を支援するための施設を充実させる」は男女とも30代以下での割合が高くなっている。「女性自身が積極的に参画する意識を持つ」は女性の年代が高い層での割合が高くなっている。

図表3-12 地域活動で女性の積極的な参画を進めるために必要なこと [全体、年代別]

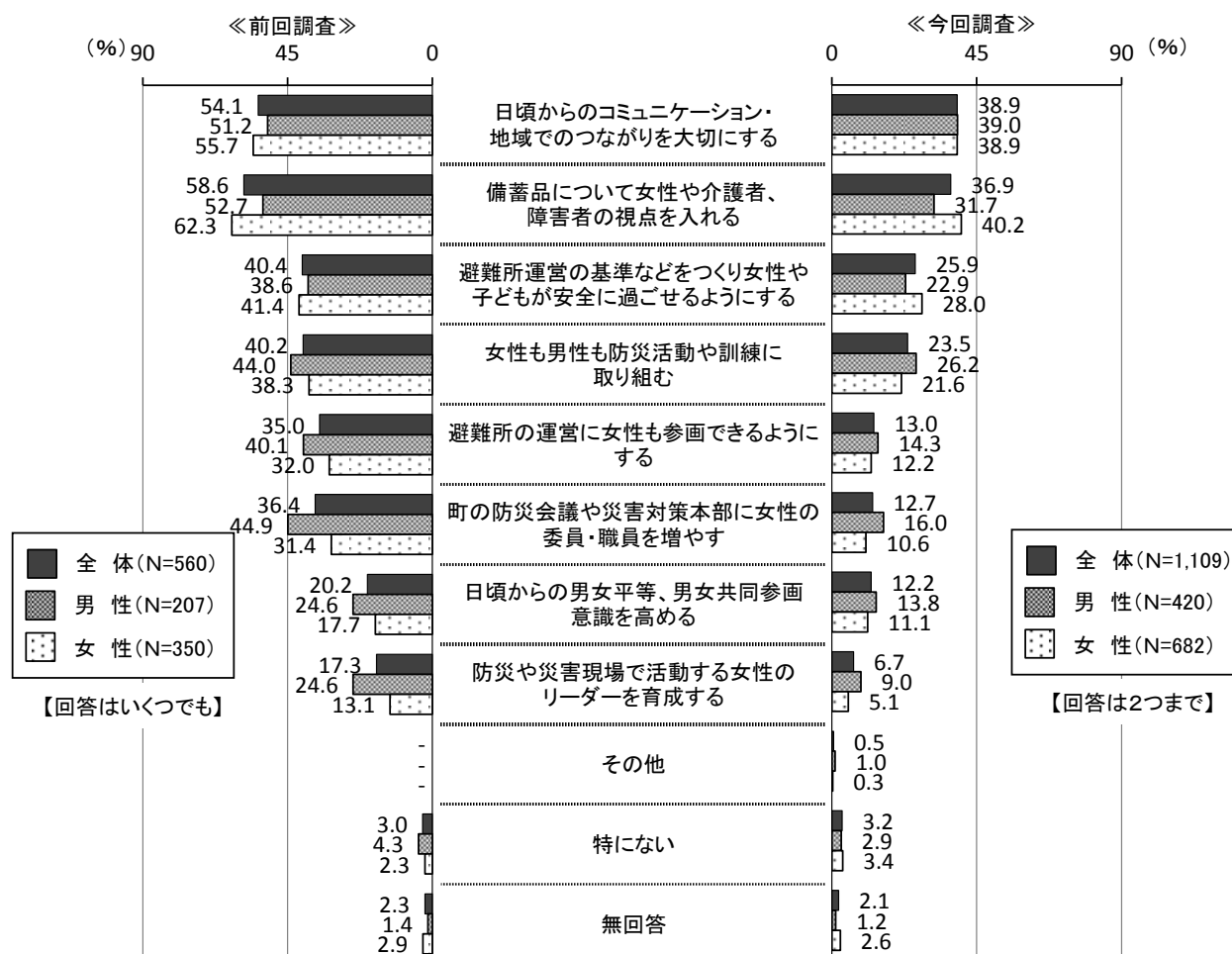
(%)

	標本数	家族が家事・育児の分担をする	慣習を中心とした活動の実施を改めるための啓発	女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する	育児や介護を支援するための施設を充実させる	参画しやすい工夫をする	さまざまな立場の人の参画意識を積極的に高める	女性の参画は必要と思わない	その他	無回答
全体	1,109 100.0	273 24.6	81 7.3	48 4.3	254 22.9	222 20.0	134 12.1	36 3.2	24 2.2	37 3.3
年代別	男性:20代	36	27.8	2.8	-	27.8	27.8	11.1	2.8	-
	男性:30代	81	23.5	2.5	2.5	28.4	24.7	6.2	6.2	-
	男性:40代	94	31.9	8.5	4.3	19.1	21.3	9.6	2.1	1.1
	男性:50代	68	23.5	8.8	4.4	14.7	27.9	16.2	1.5	2.9
	男性:60代	72	18.1	16.7	11.1	19.4	20.8	8.3	1.4	2.8
	男性:70代以上	69	11.6	13.0	5.8	24.6	27.5	10.1	-	4.3
	女性:20代	68	39.7	1.5	1.5	30.9	16.2	5.9	2.9	1.5
	女性:30代	155	34.2	3.9	1.9	28.4	15.5	7.1	6.5	0.6
	女性:40代	168	28.6	7.7	4.2	22.0	18.5	8.9	2.4	4.2
	女性:50代	94	21.3	10.6	3.2	22.3	21.3	13.8	4.3	2.1
	女性:60代	111	13.5	6.3	4.5	24.3	19.8	18.9	3.6	7.2
	女性:70代以上	83	15.7	4.8	7.2	14.5	12.0	31.3	1.2	10.8
無回答	10	10.0	20.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0	-	10.0

7. 災害に備えるために必要なこと

問 13. 東日本大震災では、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が生かされていないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図表 3-13 災害に備えるために必要なこと [全体、性別] (前回調査比較)



過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められているが、今後どのようなことが必要かたずねた。「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が38.9%、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が36.9%で高くなっている。以下、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(25.9%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(23.5%)などが続いている。

性別で見ると、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも同程度で、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」などは女性の方が約5～9ポイント男性よりも高くなっている。男性は「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」や「町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」が女性よりも5ポイント前後高くなっている。また「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める」や「防災や災害現場で活躍する女性のリーダーを育成する」なども男性の割合の方がやや高くなっている。

第3章 地域活動について

前回調査ではいくつでも回答を選ぶことが出来たため、正確な比較はできないが、前回2位の「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は今回調査では1位となっている。

年代別でみると、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男性の70代以上と女性の60代以上で約5割から5割半ばと高く、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は男性の20代(55.6%)と女性の40代以下、60代で4割台から5割半ばと高くなっている。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」は女性の30代で35.5%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は男性の70代以上、「町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」は男性の50代と60代での割合が他の年代に比べて高くなっている。

小学校区別でみると、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」や「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は粕屋中央小学校で4割台、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」は仲原小学校と粕屋西小学校で同率29.1%と他の小学校区よりも高くなっている。

図表3-14 災害に備えるために必要なこと [全体、年代別、小学校区別]

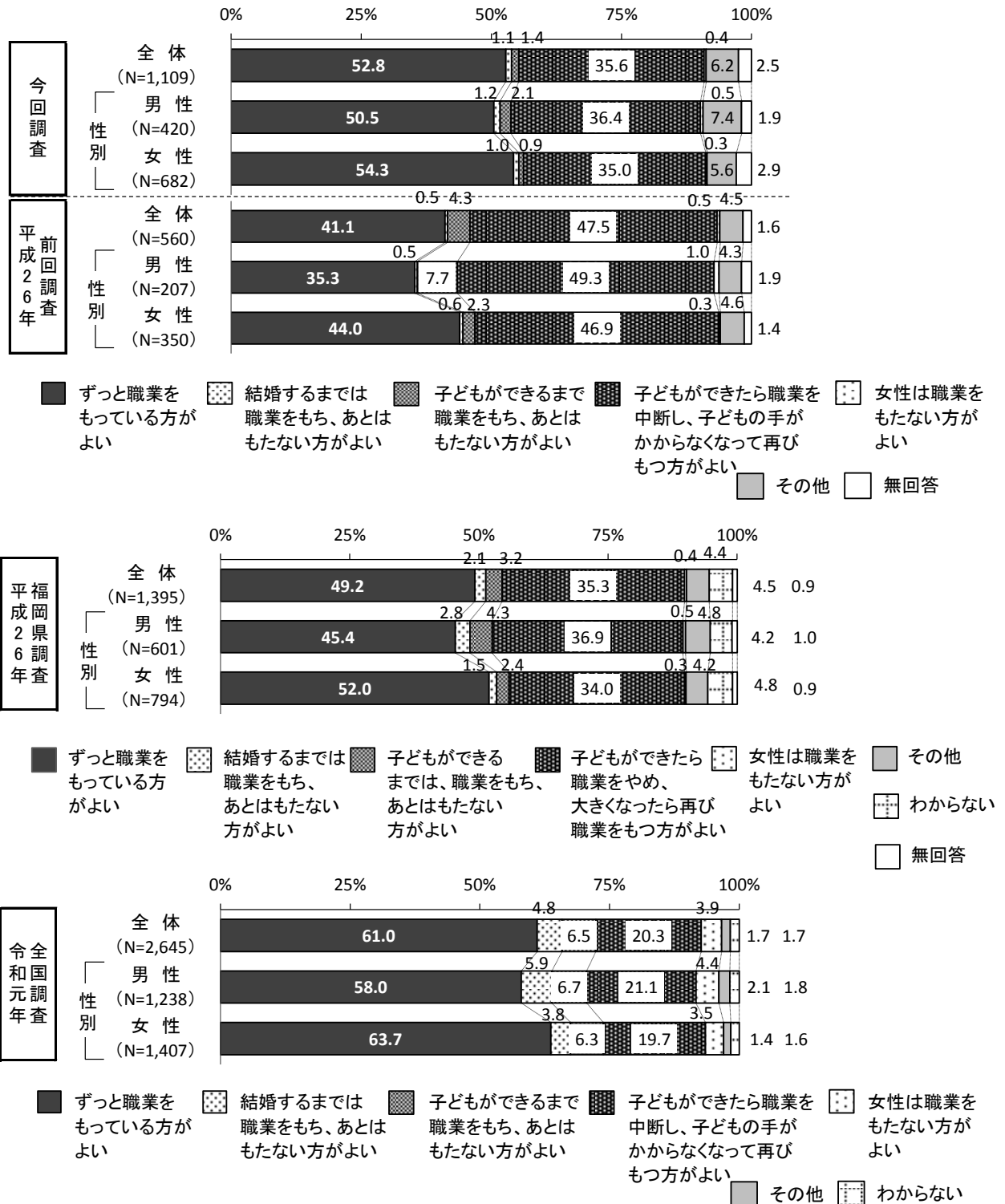
		標本数	や部にすの女性	町防の災害委員・職員を増本	で避難所の運営に女性も参画	練女性にも男性も防災活動や訓練	者備蓄品について女性や介護者	過ぐ避難所運営の基準などをつ	女防の災害現場で活動する	をシヨンの地域でのつながり	日頃からの男女平等、男女	共日頃からの意識を高める	その他	特にな	無回答
全体		1,109 100.0	141 12.7	144 13.0	261 23.5	409 36.9	287 25.9	74 6.7	431 38.9	135 12.2	6 0.5	35 3.2	23 2.1		
年代別	男性:20代	36	11.1	16.7	8.3	55.6	27.8	11.1	38.9	13.9	-	2.8	-		
	男性:30代	81	7.4	21.0	23.5	37.0	28.4	6.2	37.0	6.2	2.5	2.5	1.2		
	男性:40代	94	12.8	17.0	27.7	34.0	19.1	8.5	38.3	11.7	1.1	3.2	-		
	男性:50代	68	25.0	11.8	23.5	17.6	27.9	13.2	39.7	10.3	-	5.9	-		
	男性:60代	72	22.2	9.7	29.2	34.7	25.0	8.3	33.3	23.6	-	-	1.4		
	男性:70代以上	69	17.4	8.7	36.2	20.3	11.6	8.7	47.8	18.8	1.4	2.9	4.3		
	女性:20代	68	13.2	8.8	19.1	44.1	20.6	2.9	41.2	13.2	-	5.9	2.9		
	女性:30代	155	9.7	13.5	20.6	46.5	35.5	4.5	31.6	6.5	1.3	3.2	0.6		
	女性:40代	168	8.9	13.1	22.0	44.6	27.4	6.0	30.4	13.7	-	3.6	3.0		
	女性:50代	94	13.8	17.0	18.1	33.0	35.1	6.4	33.0	16.0	-	2.1	1.1		
女性:60代	111	10.8	10.8	22.5	40.5	17.1	3.6	55.0	10.8	-	1.8	3.6			
女性:70代以上	83	8.4	7.2	27.7	24.1	27.7	6.0	53.0	8.4	-	4.8	6.0			
無回答	10	30.0	10.0	40.0	30.0	10.0	20.0	30.0	10.0	-	-	-			
小学校区別	大川小学校	222	15.8	14.0	19.4	32.0	23.9	9.0	39.6	15.8	-	2.7	2.3		
	仲原小学校	299	12.0	13.4	23.4	38.1	29.1	6.4	34.4	12.7	-	4.0	2.0		
	粕屋西小学校	261	13.0	11.9	26.4	34.9	29.1	6.5	38.3	10.7	0.8	3.1	2.7		
	粕屋中央小学校	313	11.2	12.8	23.6	40.6	22.7	5.4	43.5	10.9	1.3	2.9	1.0		
	無回答	14	7.1	14.3	35.7	42.9	-	7.1	28.6	-	-	-	14.3		

第4章 職業について

1. 女性が職業をもつことについての考え方

問 14. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。
(○は1つだけ)

図表4-1 女性が職業をもつことについての考え方 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



女性が職業をもつことについての考え方をたずねた。「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が52.8%で最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」という中断・再就職が35.6%となっている。「結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」(1.1%)や「子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい」(1.4%)、「女性は職業をもたない方がよい」(0.4%)などは専業主婦志向であるが、回答は2.9%と少なく、女性が職業をもつことには肯定的にとらえられている。

性別でみると、女性は就労継続が54.3%と男性(50.5%)よりも3.8ポイント高くなっている。男性の中断・再就職は36.4%で女性(35.0%)とほぼ同程度となっている。

前回調査と比べると、男女とも就労継続の割合が増え、女性は44.0%から10.3ポイント、男性は35.3%から15.2ポイント増えている。また、中断・再就職は男女とも約12~13ポイント減少している。

福岡県調査と比べると、男性の就業継続の割合は今回調査の方が5.1ポイント、女性でも2.3ポイント高くなっており、県よりも女性が職業をもち続けることを肯定的にとらえている。

全国調査と比較すると、就労継続の割合は男女とも今回調査の方が約8~9ポイント低く、中断・再就職は約15ポイント高い。また、専業主婦志向の割合は今回調査の方が約11~13ポイント低い。

年代別でみると、就業継続は男女とも年代の低い層で割合が高く、中断・再就職は年代の高い層で割合が高い傾向がある。

配偶状況別でみると、未婚では男女とも就業継続の割合は約6割、中断・再就職は約3割と約2倍となっている。既婚では男女とも共働きである場合、就業継続が約6割と共働きでない場合よりも約17~20ポイント高くなっている。共働きでない場合は中断・再就職が4割半ばと共働きである場合よりも約11~13ポイント高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない人ほど就労継続の割合が高くなっている。

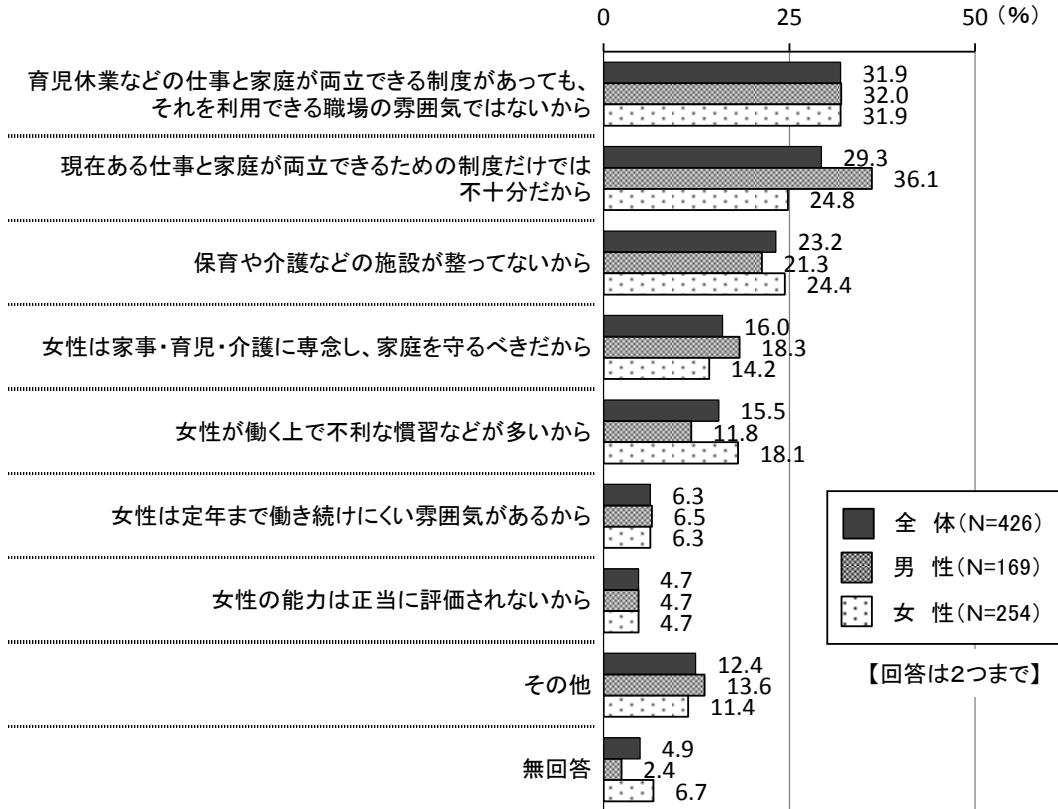
図表4-2 女性が職業をもつことについての考え方
 [全体、年代別、配偶状況別、性別役割分担意識別]

		標本数	ずつと職業をもっている方がよい	結婚するまでは職業をもたない方がよい	子どもができては職業をもたない方がよい	子どもができてから職業をもたない方がよい	子どもが断然できなかったら職業を手を断る	女性が職業をもたない方がよい	その他	無回答
全体		1,109 100.0	586 52.8	12 1.1	15 1.4	395 35.6	4 0.4	69 6.2	28 2.5	
年代別	男性:20代	36	66.7	-	-	25.0	-	8.3	-	
	男性:30代	81	50.6	2.5	-	29.6	1.2	14.8	1.2	
	男性:40代	94	56.4	-	2.1	34.0	-	7.4	-	
	男性:50代	68	52.9	1.5	1.5	35.3	1.5	5.9	1.5	
	男性:60代	72	44.4	2.8	2.8	43.1	-	5.6	1.4	
	男性:70代以上	69	37.7	-	5.8	47.8	-	1.4	7.2	
	女性:20代	68	60.3	2.9	1.5	29.4	-	2.9	2.9	
	女性:30代	155	57.4	0.6	1.3	32.3	-	8.4	-	
	女性:40代	168	59.5	-	0.6	31.5	-	7.7	0.6	
	女性:50代	94	52.1	1.1	-	39.4	1.1	5.3	1.1	
	女性:60代	111	48.6	0.9	0.9	38.7	-	3.6	7.2	
	女性:70代以上	83	41.0	2.4	1.2	43.4	1.2	1.2	9.6	
	無回答	10	70.0	-	-	30.0	-	-	-	
配偶状況別	男性:未婚	84	58.3	-	1.2	29.8	-	9.5	1.2	
	男性:既婚(共働きである)	165	58.2	0.6	-	32.7	0.6	7.9	-	
	男性:既婚(共働きでない)	130	38.5	3.1	1.5	45.4	0.8	6.2	4.6	
	男性:離別	28	50.0	-	14.3	28.6	-	3.6	3.6	
	男性:死別	12	25.0	-	16.7	58.3	-	-	-	
	女性:未婚	80	60.0	3.8	1.3	28.8	-	5.0	1.3	
	女性:既婚(共働きである)	293	59.7	-	0.7	31.7	0.3	5.5	2.0	
	女性:既婚(共働きでない)	229	42.8	1.3	1.3	42.8	0.4	7.0	4.4	
	女性:離別	37	81.1	-	-	16.2	-	-	2.7	
	女性:死別	38	44.7	-	-	47.4	-	5.3	2.6	
無回答	13	46.2	7.7	-	30.8	-	7.7	7.7		
性別役割分担意識別	男性:同感する	29	31.0	10.3	10.3	37.9	6.9	3.4	-	
	男性:ある程度同感する	169	40.8	-	3.6	46.7	-	5.9	3.0	
	男性:あまり同感しない	132	56.1	0.8	-	34.8	-	7.6	0.8	
	男性:同感しない	90	66.7	1.1	-	18.9	-	11.1	2.2	
	女性:同感する	21	28.6	-	4.8	57.1	-	9.5	-	
	女性:ある程度同感する	254	41.7	1.6	1.6	47.2	0.4	5.1	2.4	
	女性:あまり同感しない	213	61.0	0.9	-	29.6	-	5.2	3.3	
	女性:同感しない	192	66.1	0.5	0.5	22.9	0.5	5.7	3.6	
	無回答	9	55.6	-	-	33.3	-	11.1	-	

2. 女性が職業をもち続けられない方がよいと思う理由

【問14で「2.」～「5.」のいずれかに答えた方におたずねします。】
 付問14-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

図表4-3 女性が職業をもち続けられない方がよいと思う理由 [全体、性別]



女性がずっと職業をもち続けられない方がよいと思う理由をたずねた。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」(31.9%)と「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」(29.3%)が約3割で上位にあがっている。次いで「保育や介護などの施設が整っていないから」が23.2%、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が16.0%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が15.5%となっている。

性別で見ると、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は男性で36.1%と女性(24.8%)よりも11.3ポイント高く、最も高い理由となっている。その他「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」(男性18.3%、女性14.2%)が女性よりも4.1ポイント高い。女性は男性よりも「保育や介護などの施設が整っていないから」(同21.3%、24.4%)が3.1ポイント、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」(同11.8%、18.1%)が6.3ポイント高くなっている。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」(同32.0%、31.9%)、「女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから」(同6.5%、6.3%)、「女性の能力は正当に評価されないから」(同率4.7%)などは男女とも同程度の割合となっている。

年代別でみると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」は男性では年代の高い層での割合が高く、女性は年代の低い層での割合が高い。「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は男性の30代以下での割合が4割半ばから約6割と高い。「保育や介護などの施設が整っていないから」は女性の30代以下と60代、男性の20代で約3割から4割半ばで高い。「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は男性の50代と60代で、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性の40代と60代で2割を超えている。

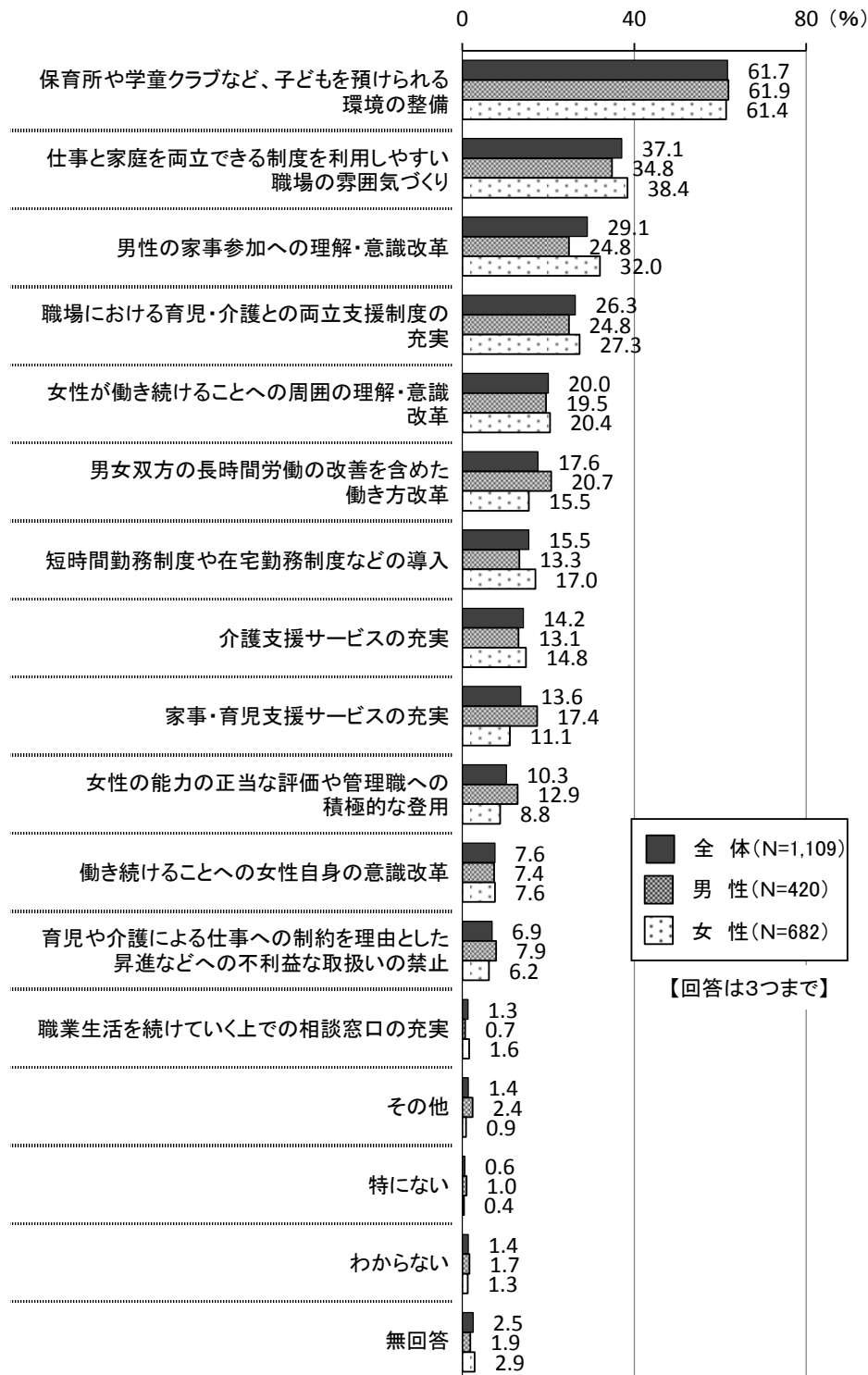
図表4-4 女性が職業をもち続けられない方がよいと思う理由〔全体、年代別〕

		標本数	女性 は家事・ 育児・ 介護に 専念し、 家庭を 守るべ きだから	女性 は定年 まで働 き続け にくい 雰囲気 がある から	女性 の能力 は正当 に評価 されな いか	女性 が働く 上で不 利な慣 習など が多い から	育児 休業な どの制 度があ っても 、家庭 が両立 できな いから	現在 あるし 仕事と 家庭が 両立で きるた めには 不十分 だから	保育 や介護 などの 施設が 整って ないか ら	その他	無回答
全体		426 100.0	68 16.0	27 6.3	20 4.7	66 15.5	136 31.9	125 29.3	99 23.2	53 12.4	21 4.9
年代別	男性:20代	9	22.2	11.1	-	11.1	11.1	44.4	44.4	11.1	-
	男性:30代	27	11.1	3.7	3.7	3.7	25.9	59.3	22.2	18.5	-
	男性:40代	34	14.7	2.9	8.8	5.9	23.5	32.4	23.5	23.5	-
	男性:50代	27	29.6	7.4	-	14.8	33.3	22.2	14.8	18.5	-
	男性:60代	35	22.9	11.4	5.7	14.3	34.3	31.4	25.7	8.6	2.9
	男性:70代以上	37	13.5	5.4	5.4	18.9	45.9	35.1	13.5	2.7	8.1
	女性:20代	23	17.4	4.3	-	4.3	39.1	13.0	39.1	26.1	-
	女性:30代	53	17.0	5.7	3.8	18.9	32.1	28.3	32.1	15.1	1.9
	女性:40代	54	9.3	3.7	7.4	22.2	37.0	37.0	7.4	14.8	-
	女性:50代	39	17.9	-	7.7	15.4	25.6	23.1	17.9	10.3	12.8
	女性:60代	45	6.7	11.1	4.4	24.4	33.3	24.4	31.1	4.4	6.7
	女性:70代以上	40	20.0	12.5	2.5	15.0	25.0	12.5	27.5	2.5	20.0
無回答		3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	33.3	33.3	-

3. 女性が職業をもち続けるために必要なこと

問15. 女性が職業をもち、働きつづけるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

図表4-5 女性が職業をもち続けるために必要なこと [全体、性別]



女性が職業をもち、働きつづけるために必要なことをたずねた。

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が 61.7%で最も高くなっている。次いで「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」が 37.1%、「男性の家事参加への理解・意識改革」が 29.1%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が 26.3%、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が 20.0%であげられている。

性別でみると、男女とも「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（男性 61.9%、女性 61.4%）が同程度の割合となっており、その他「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」（同 19.5%、20.4%）や「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」（同 7.9%、6.2%）、「働き続けることへの女性自身の意識改革」（同 7.4%、7.6%）なども同程度となっている。男性は「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」（同 20.7%、15.5%）、「家事・育児支援サービスの充実」（同 17.4%、11.1%）などが約 5～6 ポイント女性よりも割合が高い。その他の項目は女性の割合が高く、特に「男性の家事参加への理解・意識改革」（同 24.8%、32.0%）は女性の方が 7.2 ポイント高くなっている。

年代別でみると、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」は女性の 30 代で 77.4%と最も高い。女性の 20 代では「男性の家事参加への理解・意識改革」（38.2%）や「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」（33.8%）、女性の 40 代と男性の 60 代では「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」（同率 45.8%）などが他の年代に比べて高くなっている。「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は男性の 20 代で 38.9%と最も高く、30 代でも 28.4%と高い。

配偶状況別でみると、既婚の女性で共働きである場合「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」（42.3%）や「男性の家事参加への理解・意識改革」（37.2%）、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」（19.1%）、「女性が働き続けることへの理解・意識改革」（23.2%）などが、既婚の男性で共働きである場合は「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（69.7%）が共働きでない場合よりも割合が高くなっている。また、未婚の女性でも「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」（23.8%）や「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」（41.3%）なども既婚女性の共働きである場合と同様に高く、その他「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」（32.5%）の割合も高い。他方、共働きでない女性では「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」（23.1%）や「介護支援サービスの充実」（16.2%）などが未婚や共働きに比べて高くなっている。

図表4-6 女性が職業をもち続けるために必要なこと [全体、年代別、配偶状況別]

(%)

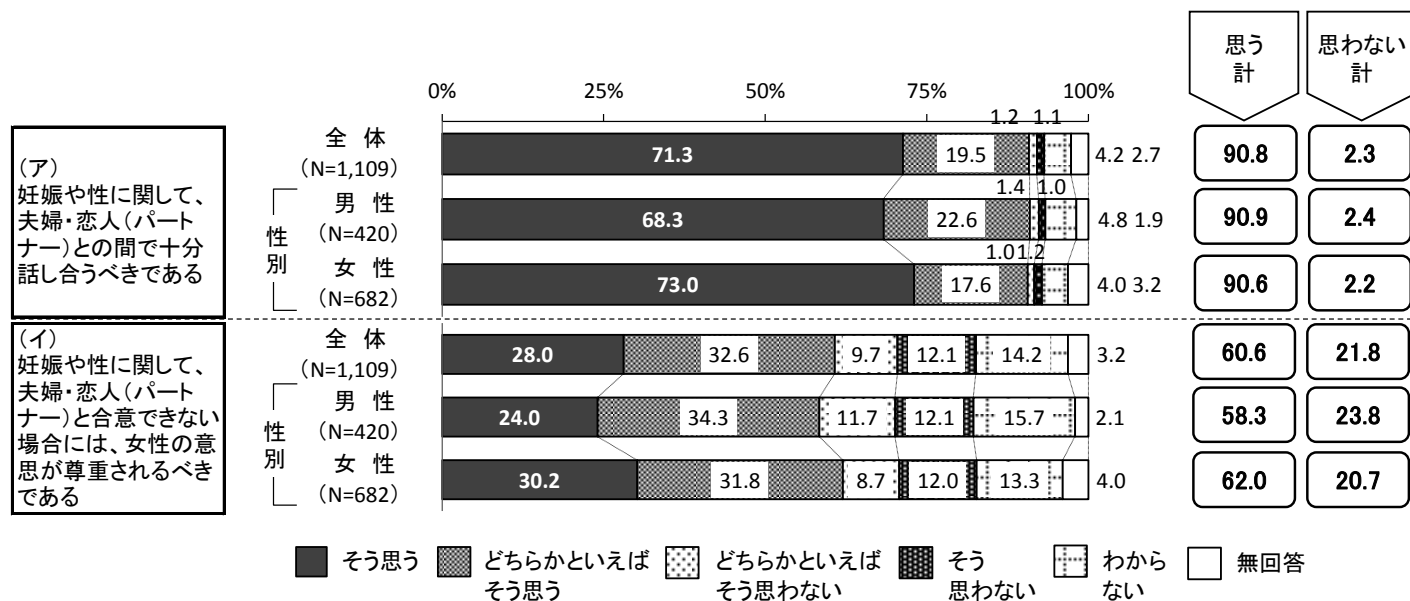
	標本数	保育所や児童クラブなど子どもを預けられない環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性の働き続けることへの意識改革	働き続けることへの女性の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	女性の能力への積極的評価や職への積極的評価	職場における育児・介護の両立支援制度の充実	
全体	1,109 100.0	684 61.7	158 14.2	151 13.6	323 29.1	222 20.0	84 7.6	195 17.6	114 10.3	292 26.3	
年代別	男性:20代	36	52.8	-	13.9	30.6	30.6	11.1	38.9	11.1	25.0
	男性:30代	81	63.0	13.6	17.3	24.7	7.4	6.2	28.4	6.2	27.2
	男性:40代	94	62.8	12.8	21.3	24.5	14.9	8.5	20.2	19.1	22.3
	男性:50代	68	63.2	10.3	16.2	23.5	23.5	2.9	14.7	17.6	22.1
	男性:60代	72	59.7	23.6	20.8	25.0	19.4	6.9	18.1	9.7	19.4
	男性:70代以上	69	65.2	11.6	11.6	23.2	30.4	10.1	11.6	11.6	33.3
	女性:20代	68	64.7	2.9	16.2	38.2	19.1	1.5	14.7	7.4	33.8
	女性:30代	155	77.4	11.0	11.6	29.7	20.0	5.2	19.4	6.5	25.8
	女性:40代	168	55.4	11.3	14.3	33.9	18.5	5.4	19.6	8.9	26.8
	女性:50代	94	54.3	22.3	12.8	31.9	17.0	8.5	13.8	13.8	29.8
	女性:60代	111	63.1	21.6	8.1	36.0	18.9	9.0	13.5	9.9	27.9
女性:70代以上	83	45.8	19.3	2.4	21.7	32.5	19.3	6.0	7.2	22.9	
無回答	10	80.0	40.0	20.0	20.0	10.0	10.0	20.0	-	20.0	
配偶状況別	男性:未婚	84	54.8	10.7	15.5	27.4	25.0	7.1	21.4	14.3	20.2
	男性:既婚(共働きである)	165	69.7	16.4	18.8	25.5	15.2	4.8	21.8	14.5	22.4
	男性:既婚(共働きでない)	130	59.2	10.0	20.0	25.4	20.8	10.8	22.3	10.0	29.2
	男性:離別	28	42.9	14.3	10.7	17.9	21.4	7.1	10.7	14.3	25.0
	男性:死別	12	83.3	16.7	-	8.3	25.0	8.3	8.3	8.3	41.7
	女性:未婚	80	57.5	10.0	12.5	30.0	15.0	6.3	23.8	10.0	32.5
	女性:既婚(共働きである)	293	63.1	12.6	11.3	37.2	23.2	6.8	19.1	8.9	26.3
	女性:既婚(共働きでない)	229	61.6	16.2	10.9	28.4	19.2	7.9	10.5	7.4	27.5
	女性:離別	37	62.2	21.6	16.2	35.1	8.1	10.8	8.1	18.9	21.6
	女性:死別	38	57.9	28.9	5.3	15.8	28.9	10.5	10.5	5.3	26.3
無回答	13	53.8	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	-	30.8	
	標本数	勤務時間短縮や柔軟な勤務制度など導入	育児・介護の負担軽減	職場での育児・介護の理解	職業生活での相談窓口の充実	その他	特になし	わからない	無回答		
全体	1,109 100.0	172 15.5	76 6.9	411 37.1	14 1.3	16 1.4	7 0.6	16 1.4	28 2.5		
年代別	男性:20代	36	11.1	16.7	33.3	-	-	-	-	-	
	男性:30代	81	14.8	8.6	39.5	-	7.4	1.2	2.5	-	
	男性:40代	94	18.1	7.4	31.9	1.1	2.1	-	-	-	
	男性:50代	68	13.2	1.5	35.3	2.9	-	1.5	4.4	1.5	
	男性:60代	72	11.1	11.1	45.8	-	1.4	2.8	-	2.8	
	男性:70代以上	69	8.7	5.8	21.7	-	1.4	-	2.9	7.2	
	女性:20代	68	13.2	10.3	42.6	-	1.5	-	2.9	2.9	
	女性:30代	155	24.5	6.5	37.4	1.3	1.3	-	1.3	-	
	女性:40代	168	18.5	7.1	45.8	1.8	-	0.6	0.6	1.2	
	女性:50代	94	16.0	6.4	35.1	2.1	1.1	1.1	-	1.1	
	女性:60代	111	15.3	3.6	36.0	1.8	0.9	-	1.8	4.5	
女性:70代以上	83	6.0	3.6	28.9	2.4	1.2	1.2	2.4	12.0		
無回答	10	10.0	10.0	40.0	-	-	-	-	-		
配偶状況別	男性:未婚	84	15.5	11.9	34.5	-	2.4	2.4	1.2	-	
	男性:既婚(共働きである)	165	17.0	5.5	36.4	0.6	1.8	-	1.2	-	
	男性:既婚(共働きでない)	130	11.5	6.2	34.6	-	2.3	1.5	0.8	4.6	
	男性:離別	28	-	10.7	32.1	7.1	7.1	-	7.1	3.6	
	男性:死別	12	-	25.0	25.0	-	-	-	8.3	-	
	女性:未婚	80	13.8	8.8	41.3	-	1.3	-	5.0	1.3	
	女性:既婚(共働きである)	293	15.4	4.8	42.3	0.7	1.0	0.7	-	2.0	
	女性:既婚(共働きでない)	229	23.1	7.0	35.4	2.2	0.4	-	0.9	4.4	
	女性:離別	37	8.1	10.8	24.3	5.4	-	-	-	2.7	
	女性:死別	38	10.5	2.6	36.8	5.3	2.6	2.6	2.6	5.3	
無回答	13	-	7.7	30.8	-	-	-	15.4	7.7		

第5章 セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

1. 妊娠や性に関する考え方

問 16. 次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

図表5-1 妊娠や性に関する考え方 [全体、性別]



妊娠や性に関する考え方をたずねた。

「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で十分に話し合うべきである」については、「そう思う」が71.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が19.5%でこれらをあわせた『思う』は90.8%となっている。

性別で見ると、男女とも『思う』は約9割であるが、その内訳をみると女性は「そう思う」が73.0%で男性(68.3%)よりも4.7ポイント高い。

年代別で見ると、男女とも年代が低い層で「そう思う」の割合が高く、「どちらかといえばそう思う」は年代が高い層で割合が高くなっている。

配偶状況別で見ると、女性の未婚で「そう思う」が78.9%と最も高くなっている。

「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で合意できない場合は、女性の意思が尊重されるべきある」については、「どちらかといえばそう思う」が32.6%で最も高く、次いで「そう思う」が28.0%で『思う』は60.6%となっている。「そう思わない」は12.1%で「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)をあわせた『思わない』は21.8%である。

性別で見ると、女性の「そう思う」は30.2%で男性(24.0%)よりも6.2ポイント高く、『思う』も62.0%と男性(58.3%)よりも3.7ポイント高い。他方、男女とも「わからない」が約13~16%ある。

年代別で見ると、女性の50代で「そう思う」が36.2%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」は女性の60代で42.3%と最も高くなっており、『思う』はこれらの年代で約7割と他の年代に比べて高くなっている。『思わない』は男女とも年代が低い層で2割半ばから約3割と高い。

第5章 セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について -----

配偶状況別でみると、女性の未婚は「そう思う」の割合が既婚に比べて 10 ポイント以上低くなっている。男性の未婚は既婚に比べて「そう思う」の割合がやや低く、「わからない」が 21.4%と女性に比べて高い。

図表 5-2 妊娠や性に関する考え方 [全体、年代別、配偶状況別]

(%)

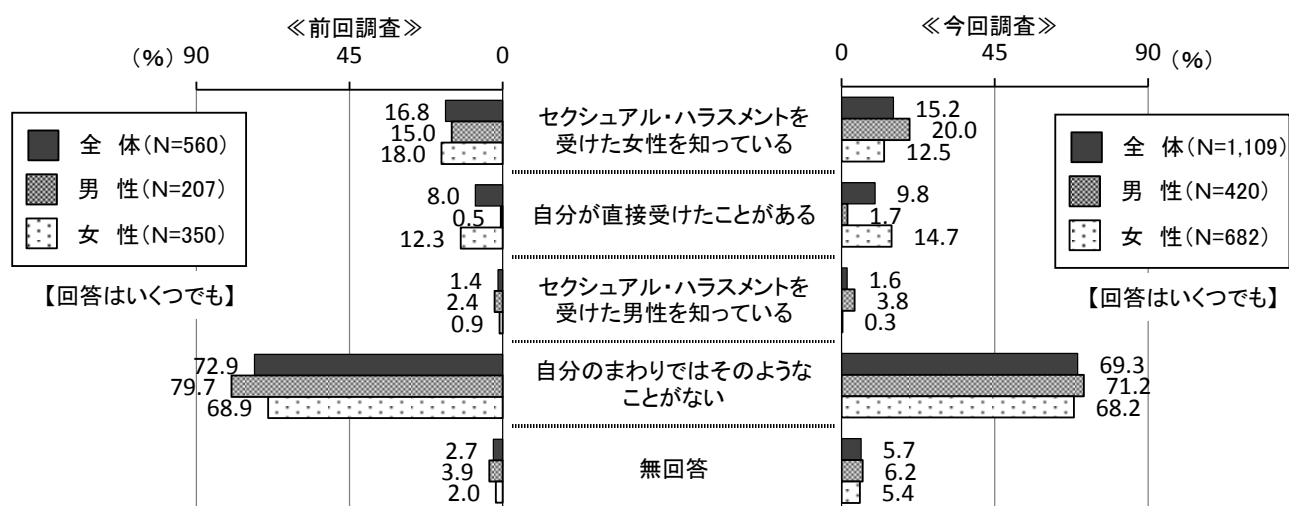
	標本数	(ア)妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で十分に話し合うべき								(イ)妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で合意できない場合は、女性の意思が尊重されるべき							
		そう思う	どちらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答	思う	思わない	そう思う	どちらかといえ	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答	思う	思わない
全体	1,109 100.0	791 71.3	216 19.5	13 1.2	12 1.1	47 4.2	30 2.7	1,007 90.8	25 2.3	311 28.0	362 32.6	108 9.7	134 12.1	158 14.2	36 3.2	673 60.6	242 21.8
年代別	男性:20代	36	83.3	16.7	-	-	-	100.0	-	25.0	25.0	5.6	22.2	22.2	-	50.0	27.8
	男性:30代	81	72.8	17.3	2.5	3.7	-	90.1	6.2	23.5	35.8	14.8	9.9	16.0	-	59.3	24.7
	男性:40代	94	78.7	17.0	2.1	-	2.1	95.7	2.1	27.7	33.0	8.5	16.0	14.9	-	60.7	24.5
	男性:50代	68	61.8	27.9	2.9	1.5	5.9	89.7	4.4	23.5	32.4	13.2	10.3	20.6	-	55.9	23.5
	男性:60代	72	62.5	27.8	-	-	6.9	90.3	-	23.6	37.5	11.1	9.7	15.3	2.8	61.1	20.8
	男性:70代以上	69	53.6	29.0	-	-	8.7	82.6	-	20.3	37.7	14.5	8.7	8.7	10.1	58.0	23.2
	女性:20代	68	86.8	4.4	1.5	-	4.4	91.2	1.5	22.1	36.8	11.8	11.8	14.7	2.9	58.9	23.6
	女性:30代	155	82.6	14.2	1.3	1.9	-	96.8	3.2	31.0	26.5	11.6	16.1	14.2	0.6	57.5	27.7
	女性:40代	168	75.6	18.5	1.8	1.2	2.4	94.1	3.0	31.0	30.4	10.7	13.7	13.7	0.6	61.4	24.4
	女性:50代	94	71.3	23.4	-	-	4.3	94.7	-	36.2	33.0	8.5	10.6	10.6	1.1	69.2	19.1
女性:60代	111	64.9	23.4	0.9	0.9	4.5	88.3	1.8	27.0	42.3	5.4	10.8	8.1	6.3	69.3	16.2	
女性:70代以上	83	51.8	19.3	-	2.4	12.0	71.1	2.4	30.1	26.5	1.2	4.8	19.3	18.1	56.6	6.0	
無回答	10	80.0	10.0	-	-	10.0	-	90.0	-	60.0	10.0	-	10.0	20.0	-	70.0	10.0
配偶状況別	男性:未婚	84	72.6	20.2	1.2	1.2	3.6	92.8	2.4	22.6	31.0	11.9	11.9	21.4	1.2	53.6	23.8
	男性:既婚(共働きである)	165	71.5	18.8	3.0	1.2	5.5	90.3	4.2	24.8	33.3	10.9	15.8	15.2	-	58.1	26.7
	男性:既婚(共働きでない)	130	61.5	30.0	-	0.8	3.8	91.5	0.8	26.2	39.2	13.1	6.2	10.8	4.6	65.4	19.3
	男性:離別	28	67.9	21.4	-	-	3.6	89.3	-	21.4	25.0	10.7	17.9	17.9	7.1	46.4	28.6
	男性:死別	12	66.7	16.7	-	-	16.7	83.4	-	8.3	33.3	8.3	16.7	33.3	-	41.6	25.0
	女性:未婚	80	78.8	12.5	1.3	-	5.0	91.3	1.3	20.0	30.0	12.5	18.8	15.0	3.8	50.0	31.3
	女性:既婚(共働きである)	293	74.1	19.5	1.7	1.4	1.4	93.6	3.1	34.5	31.7	8.9	11.6	11.3	2.0	66.2	20.5
	女性:既婚(共働きでない)	229	73.4	16.6	-	0.9	4.4	90.0	0.9	31.4	31.9	7.4	10.5	13.1	5.7	63.3	17.9
	女性:離別	37	64.9	18.9	-	2.7	10.8	83.8	2.7	18.9	29.7	16.2	13.5	18.9	2.7	48.6	29.7
	女性:死別	38	60.5	21.1	2.6	2.6	7.9	81.6	5.2	26.3	36.8	-	10.5	18.4	7.9	63.1	10.5
無回答	13	76.9	7.7	-	-	15.4	-	84.6	-	30.8	30.8	-	7.7	23.1	7.7	61.6	7.7

2. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について

(1) セクハラの実験、見聞き

問 17. あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり見聞きしたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

図表 5-3 セクシュアル・ハラスメントの実験、見聞き [全体、性別]



セクシュアル・ハラスメントを受けたり見聞きしたりしたことがあるかどうかたずねた。

「自分の周りではそのようなことはない」が 69.3%で最も高いが、経験や見聞きがある中では「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」が 15.2%、「自分が直接受けたことがある」が 9.8%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」が 1.6%で経験や見聞きは 26.6%となっている。

性別でみると、男性は「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」（男性 20.0%、女性 12.5%）や「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」（同 3.8%、0.3%）などの見聞きが女性よりも高く、女性は「自分が直接受けたことがある」（同 1.7%、14.7%）という被害経験が高い。

前回調査と比べると、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」は男性で約 1.5～5 ポイント増、「自分が直接受けたことがある」は男女とも微増となっており、前回調査よりもセクシュアル・ハラスメントへの意識は高くなっていると思われる。

年代別でみると、「自分が直接受けたことがある」は女性の 30 代で 23.2%と最も高く、40 代で 18.5%、50 代 16.0%、60 代で 11.7%と 1 割を超えている。「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」は男性の 30 代で 35.8%、セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」も男性の 30 代で 8.6%と他の年代に比べて見聞きは高くなっている。

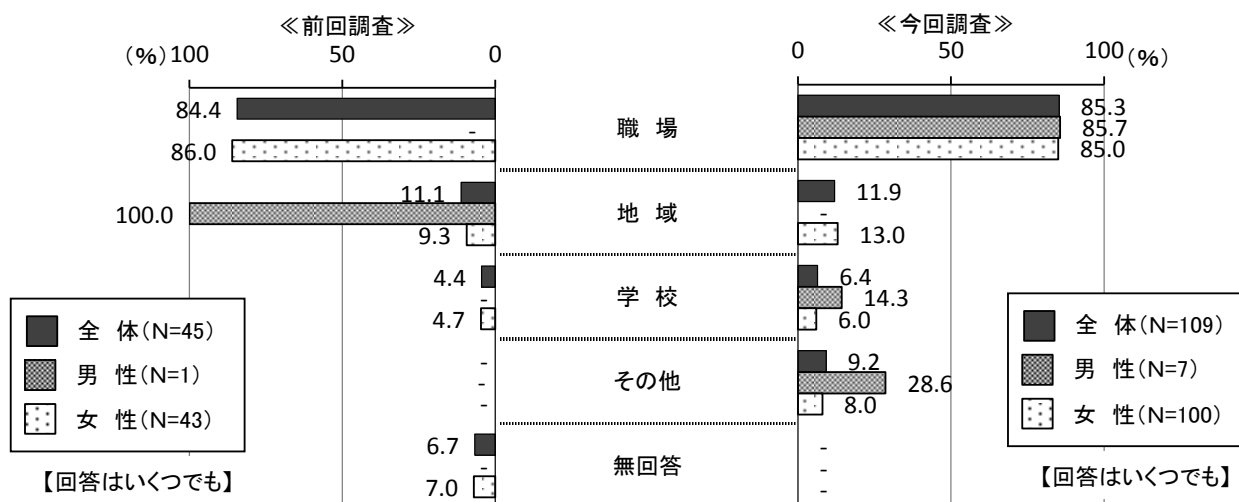
図表5-4 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、年代別]

		(%)					
		標本数	自分が直接受けたこと	メックシユアル・ハラスメントを受けた・女性を	メックシユアル・ハラスメントを受けた・男性を	自分のまわりではないはその	無回答
全体		1,109 100.0	109 9.8	169 15.2	18 1.6	769 69.3	63 5.7
年代別	男性:20代	36	5.6	22.2	2.8	77.8	-
	男性:30代	81	2.5	35.8	8.6	56.8	2.5
	男性:40代	94	1.1	17.0	3.2	78.7	1.1
	男性:50代	68	1.5	23.5	1.5	73.5	1.5
	男性:60代	72	1.4	11.1	1.4	76.4	9.7
	男性:70代以上	69	-	10.1	4.3	66.7	21.7
	女性:20代	68	4.4	17.6	-	76.5	2.9
	女性:30代	155	23.2	14.2	0.6	62.6	-
	女性:40代	168	18.5	16.1	-	64.9	1.8
	女性:50代	94	16.0	17.0	1.1	66.0	3.2
	女性:60代	111	11.7	3.6	-	75.7	9.0
	女性:70代以上	83	2.4	3.6	-	71.1	22.9
	無回答	10	20.0	10.0	-	70.0	-

(2) セクハラを受けた場所

【問17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方におたずねします。】
 付問17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた場所はどこですか。(〇はいくつでも)

図表5-5 セクシュアル・ハラスメントを受けた場所 [全体、性別] (前回調査比較)



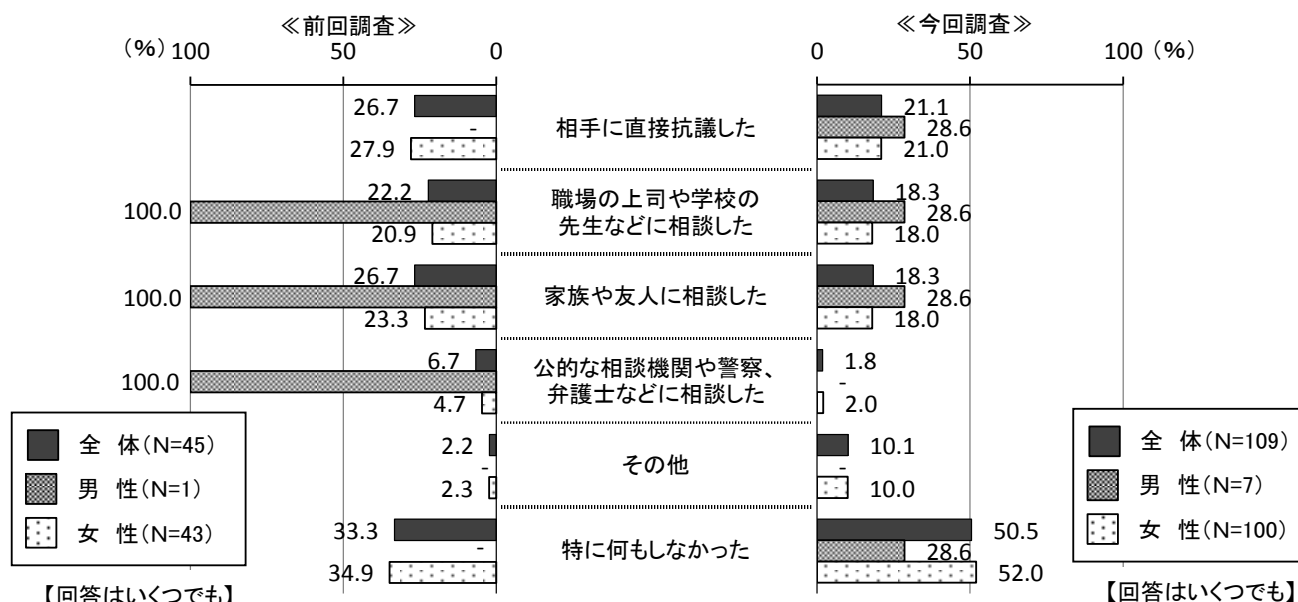
「自分が直接受けたことがある」人にセクシュアル・ハラスメントを受けた場所をたずねたところ、「職場」が85.3%で圧倒的に高くなっている。「地域」は11.9%、「学校」は6.4%、「その他」は9.2%となっている。

性別で見ると、「職場」は男女とも同程度となっており、女性は「地域」、男性は「学校」や「その他」での被害が多い。

(3) セクハラを受けたときの対応

【問17で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方におたずねします。】
 付問17-2. その後、あなたはどのような行動をとりましたか。(〇はいくつでも)

図表5-6 セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応〔全体、性別〕(前回調査比較)



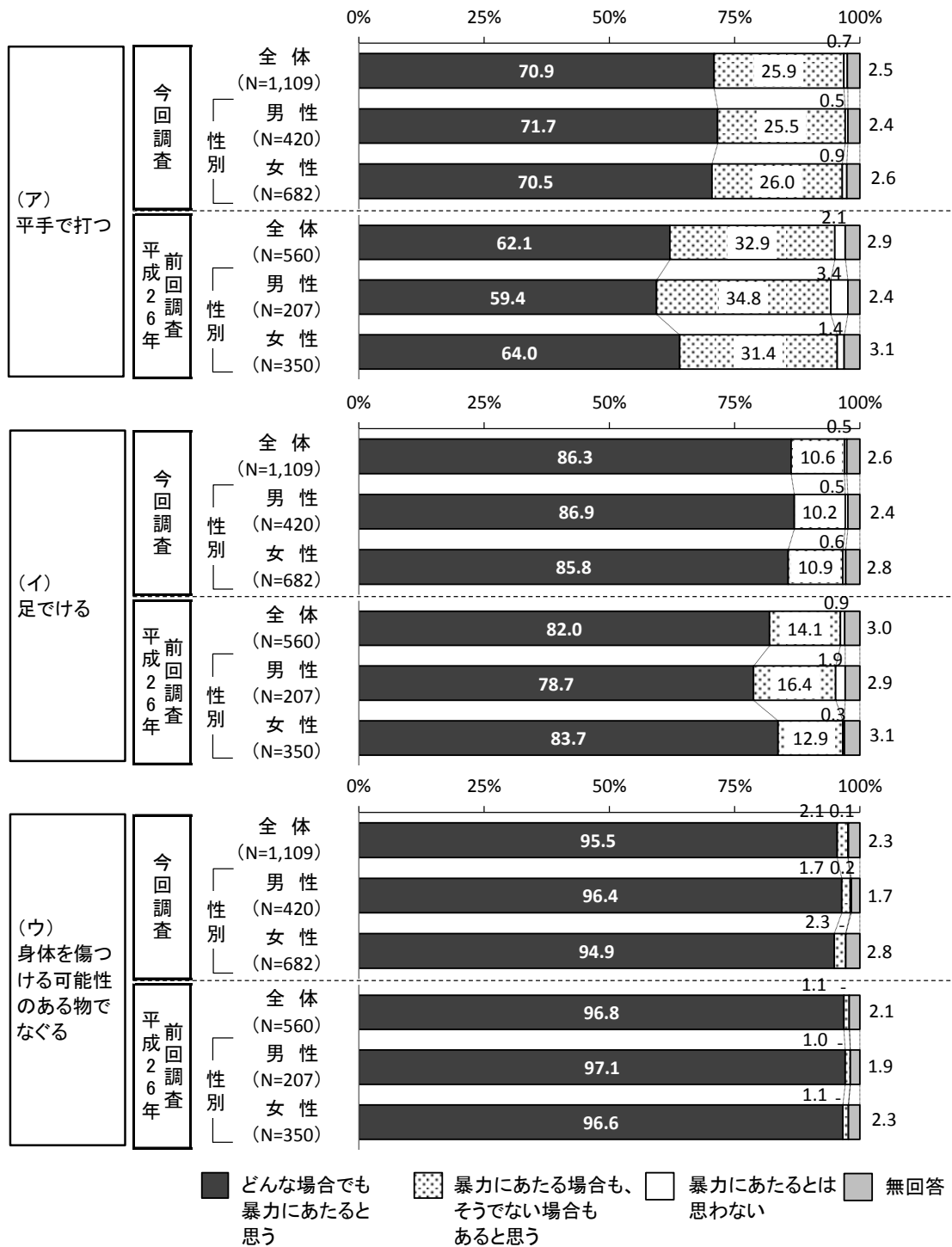
セクシュアル・ハラスメントを受けた時の対応は「特に何もなかった」が50.5%と最も高い。何らかの対応をした人では「相手に直接抗議した」が21.1%で最も高く、次いで「職場の上司や学校の先生などに相談した」「家族や友人に相談した」が同率の18.3%となっている。「公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した」は1.8%とわずかである。

性別で見ると、「特に何もなかった」は男性28.6%、女性52.0%と女性の方が23.4ポイントも高くなっている。何らかの対応をした人は男性の方が多く、「相手に直接抗議した」は男性28.6%、女性21.0%、「職場の上司や学校の先生などに相談した」「学校や友人に相談した」は同率の男性28.6%、女性18.0%となっている。

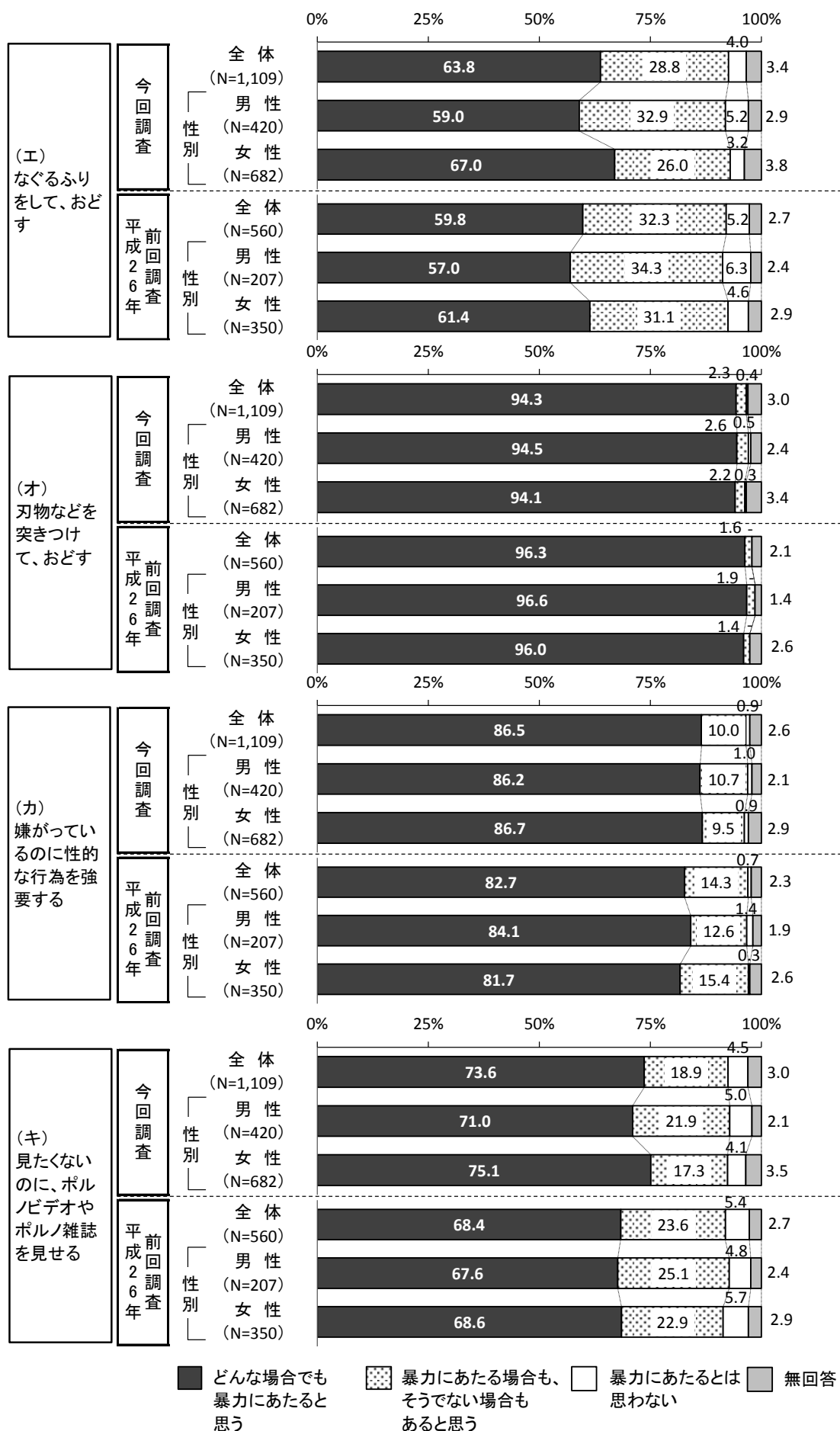
3. 暴力の認知

問 18. あなたは、次にあげるようなことが夫婦・パートナー、恋人間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。次の（ア）から（サ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

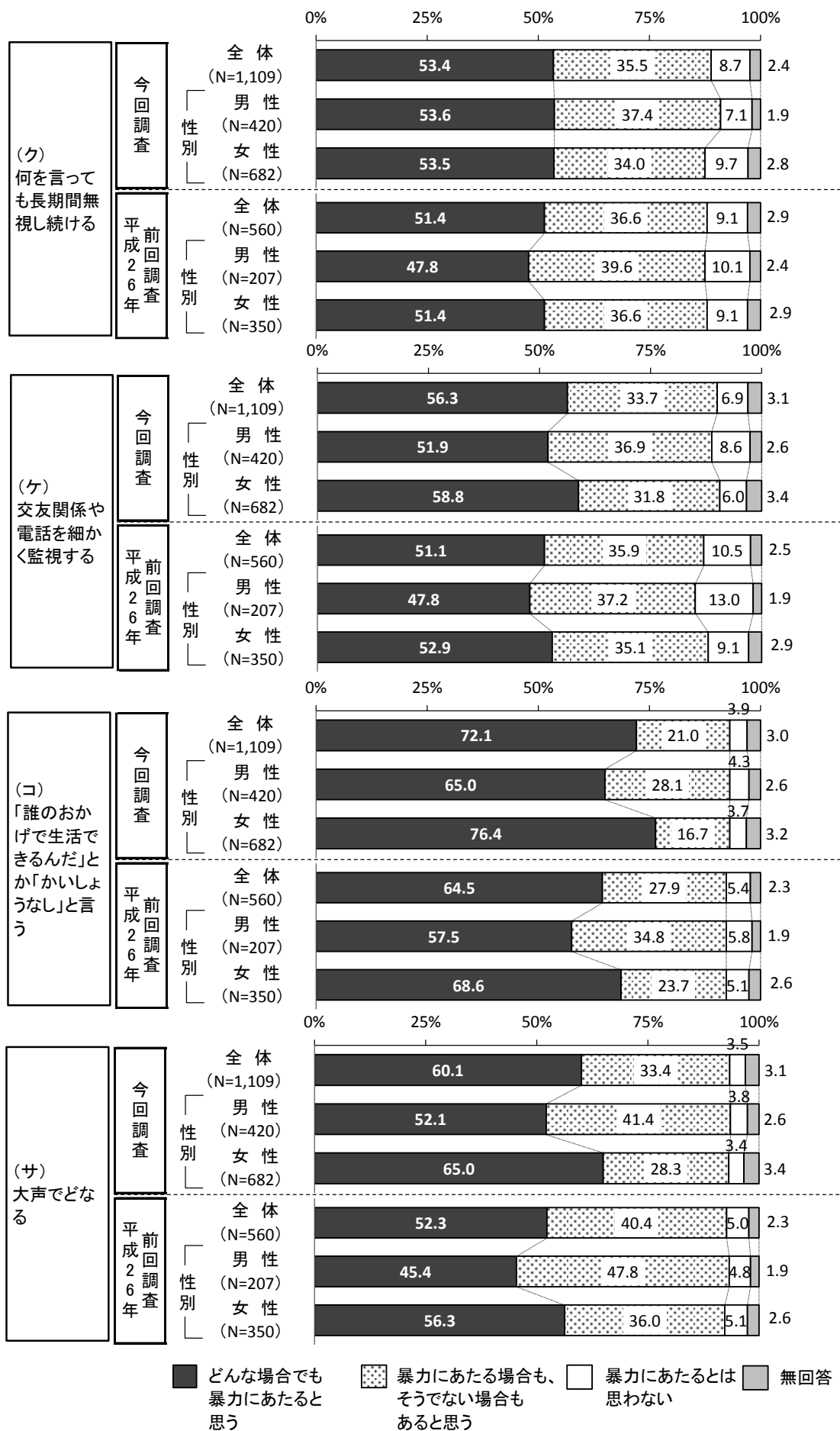
図表 5-7 (1) 暴力の認知 [全体、性別] (前回調査比較)



図表5-7(2) 暴力の認知 [全体、性別] (前回調査比較)



図表5-7(3) 暴力の認知〔全体、性別〕（前回調査比較）



身体的暴力や性的暴力、精神的暴力など 11 分野をあげて、夫婦・パートナー、恋人の間で行われた場合、暴力だと思うかどうかたずねた。

「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が高かったのは、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」(95.5%)と「刃物などを突きつけて、おどす」(94.3%)で9割半ばとなっている。「足でける」(86.3%)、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(86.5%)は8割半ば、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(73.6%)、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」(72.1%)、「平手で打つ」(70.9%)などは7割台となっている。「なぐるふりをして、おどす」(63.8%)、「大声でどなる」(60.1%)などは6割台、「交友関係や電話を細かく監視する」(56.3%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(53.4%)などは5割半ばである。いずれも暴力であるが、認識には差がみられ、いずれの暴力にも「暴力の場合も、そうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」の割合がみられる。

性別でみると、「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」「刃物などを突きつけて、おどす」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「何を言っても長期間無視し続ける」などは「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男女とも同程度の割合となっている。その他暴力については女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」「刃物などを突きつけて、おどす」以外の暴力は、今回調査の方が男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。

年代別で「暴力の場合も、そうでない場合もあると思う」みると、「何を言っても長期間無視し続ける」は男女とも60代で4割台、「交友関係や電話を細かく監視する」「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」「大声でどなる」などは男女とも50代で約3割から4割半ばと高くなっている。また、「交友関係や電話を細かく監視する」は男性の20代でも41.7%ある。「なぐるふりをしておどす」や「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は男女とも70代以上での割合が高い。「平手で打つ」は男性50代と女性20代で3割半ば、「足でける」は女性20代で17.6%、また男性の30代以下で1割強と他の年代に比べて高くなっている。精神的暴力や性的暴力は年代の高い層で、身体的暴力は年代の低い層で暴力にあたらぬ場合もあるとの認識が高いようである。

図表5-8(1) 暴力の認知[全体、年代別]

(%)

	標本数	(ア)平手で打つ				(イ)足でける				(ウ)身体を傷つける可能性のある物でなぐる				
		力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は
全 体	1,109 100.0	786 70.9	287 25.9	8 0.7	28 2.5	957 86.3	117 10.6	6 0.5	29 2.6	1,059 95.5	23 2.1	1 0.1	26 2.3	
年 代 別	男性:20代	36	75.0	22.2	-	2.8	83.3	13.9	-	2.8	94.4	2.8	-	2.8
	男性:30代	81	76.5	22.2	-	1.2	84.0	13.6	1.2	1.2	93.8	3.7	1.2	1.2
	男性:40代	94	77.7	21.3	1.1	-	91.5	8.5	-	-	100.0	-	-	-
	男性:50代	68	60.3	36.8	-	2.9	86.8	10.3	-	2.9	95.6	2.9	-	1.5
	男性:60代	72	73.6	25.0	-	1.4	90.3	8.3	-	1.4	97.2	1.4	-	1.4
	男性:70代以上	69	65.2	26.1	1.4	7.2	82.6	8.7	1.4	7.2	95.7	-	-	4.3
	女性:20代	68	61.8	35.3	-	2.9	79.4	17.6	-	2.9	94.1	2.9	-	2.9
	女性:30代	155	71.6	26.5	-	1.9	85.2	12.9	-	1.9	96.1	1.9	-	1.9
	女性:40代	168	69.0	29.8	1.2	-	88.1	11.3	0.6	-	98.2	1.8	-	-
	女性:50代	94	75.5	23.4	-	1.1	91.5	7.4	-	1.1	97.9	1.1	-	1.1
	女性:60代	111	77.5	18.0	0.9	3.6	89.2	6.3	0.9	3.6	93.7	2.7	-	3.6
	女性:70代以上	83	65.1	21.7	3.6	9.6	77.1	9.6	2.4	10.8	85.5	3.6	-	10.8
	無回答	10	50.0	50.0	-	-	90.0	10.0	-	-	90.0	10.0	-	-
	標本数	(エ)なぐるふりをしておどす				(オ)刃物などを突きつけて、おどす				(カ)嫌がっているのに性的な行為を強要する				
		力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は	思 わ な い と は	無 回 答	力ど にん にあ なた る と 思 う 暴	合 も あ る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と は
全 体	1,109 100.0	708 63.8	319 28.8	44 4.0	38 3.4	1,046 94.3	26 2.3	4 0.4	33 3.0	959 86.5	111 10.0	10 0.9	29 2.6	
年 代 別	男性:20代	36	69.4	25.0	2.8	2.8	94.4	2.8	-	2.8	91.7	5.6	-	2.8
	男性:30代	81	69.1	24.7	4.9	1.2	92.6	4.9	1.2	1.2	88.9	8.6	1.2	1.2
	男性:40代	94	68.1	26.6	4.3	1.1	95.7	2.1	1.1	1.1	89.4	10.6	-	-
	男性:50代	68	57.4	33.8	5.9	2.9	94.1	2.9	-	2.9	85.3	10.3	1.5	2.9
	男性:60代	72	51.4	41.7	4.2	2.8	98.6	-	-	1.4	94.4	4.2	-	1.4
	男性:70代以上	69	39.1	44.9	8.7	7.2	91.3	2.9	-	5.8	68.1	23.2	2.9	5.8
	女性:20代	68	67.6	27.9	1.5	2.9	95.6	1.5	-	2.9	88.2	8.8	-	2.9
	女性:30代	155	72.3	22.6	2.6	2.6	95.5	1.9	0.6	1.9	87.1	11.0	-	1.9
	女性:40代	168	76.8	17.9	4.8	0.6	98.8	1.2	-	-	93.5	6.0	0.6	-
	女性:50代	94	71.3	24.5	2.1	2.1	97.9	1.1	-	1.1	89.4	8.5	1.1	1.1
	女性:60代	111	60.4	32.4	1.8	5.4	91.0	5.4	-	3.6	84.7	10.8	0.9	3.6
	女性:70代以上	83	41.0	39.8	6.0	13.3	80.7	2.4	1.2	15.7	69.9	14.5	3.6	12.0
	無回答	10	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	90.0	10.0	-	-

図表5-8(2) 暴力の認知 [全体、年代別]

(%)

	標本数	(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(ク)何を言っても長期間無視し続ける				(ケ)交友関係や電話を細かく監視する				
		力どにんなあたると思う暴	合もあうと思	暴、力にあたる場合	思われないあたる場合は	無回答	力どにんなあたると思う暴	合もあうと思	暴、力にあたる場合	思われないあたる場合は	無回答	力どにんなあたると思う暴	合もあうと思	暴、力にあたる場合
全体	1,109 100.0	816 73.6	210 18.9	50 4.5	33 3.0	592 53.4	394 35.5	96 8.7	27 2.4	624 56.3	374 33.7	77 6.9	34 3.1	
年代別	男性:20代	36	75.0	19.4	2.8	2.8	50.0	38.9	8.3	2.8	47.2	41.7	8.3	2.8
	男性:30代	81	77.8	16.0	4.9	1.2	59.3	34.6	4.9	1.2	54.3	38.3	4.9	2.5
	男性:40代	94	70.2	26.6	3.2	-	60.6	36.2	3.2	-	57.4	35.1	7.4	-
	男性:50代	68	70.6	23.5	2.9	2.9	52.9	36.8	8.8	1.5	42.6	45.6	8.8	2.9
	男性:60代	72	73.6	16.7	8.3	1.4	45.8	43.1	9.7	1.4	50.0	36.1	12.5	1.4
	男性:70代以上	69	59.4	27.5	7.2	5.8	47.8	36.2	10.1	5.8	55.1	27.5	10.1	7.2
	女性:20代	68	73.5	20.6	2.9	2.9	57.4	33.8	5.9	2.9	60.3	32.4	4.4	2.9
	女性:30代	155	77.4	14.8	5.8	1.9	52.9	34.8	10.3	1.9	58.7	32.9	5.2	3.2
	女性:40代	168	82.7	14.3	3.0	-	64.3	26.8	8.9	-	66.1	25.0	8.9	-
	女性:50代	94	69.1	27.7	2.1	1.1	52.1	36.2	10.6	1.1	53.2	41.5	4.3	1.1
	女性:60代	111	74.8	17.1	3.6	4.5	45.9	41.4	9.9	2.7	57.7	33.3	5.4	3.6
	女性:70代以上	83	62.7	14.5	7.2	15.7	41.0	34.9	12.0	12.0	50.6	30.1	6.0	13.3
	無回答	10	90.0	-	10.0	-	40.0	60.0	-	-	70.0	30.0	-	-
			(コ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う				(サ)大声でどなる							
	標本数	力どにんなあたると思う暴	合もあうと思	暴、力にあたる場合	思われないあたる場合は	無回答	力どにんなあたると思う暴	合もあうと思	暴、力にあたる場合	思われないあたる場合は	無回答			
全体	1,109 100.0	800 72.1	233 21.0	43 3.9	33 3.0	666 60.1	370 33.4	39 3.5	34 3.1					
年代別	男性:20代	36	66.7	27.8	2.8	2.8	61.1	30.6	5.6	2.8				
	男性:30代	81	69.1	25.9	3.7	1.2	55.6	37.0	6.2	1.2				
	男性:40代	94	64.9	29.8	5.3	-	54.3	42.6	3.2	-				
	男性:50代	68	60.3	32.4	4.4	2.9	47.1	47.1	2.9	2.9				
	男性:60代	72	66.7	26.4	5.6	1.4	47.2	48.6	2.8	1.4				
	男性:70代以上	69	62.3	26.1	2.9	8.7	50.7	37.7	2.9	8.7				
	女性:20代	68	83.8	11.8	1.5	2.9	67.6	26.5	2.9	2.9				
	女性:30代	155	81.9	12.9	3.2	1.9	64.5	31.6	1.9	1.9				
	女性:40代	168	79.2	17.3	3.6	-	75.0	20.8	4.2	-				
	女性:50代	94	67.0	28.7	3.2	1.1	56.4	39.4	2.1	2.1				
	女性:60代	111	74.8	17.1	4.5	3.6	64.9	27.0	4.5	3.6				
	女性:70代以上	83	66.3	13.3	6.0	14.5	54.2	26.5	4.8	14.5				
	無回答	10	90.0	10.0	-	-	50.0	50.0	-	-				

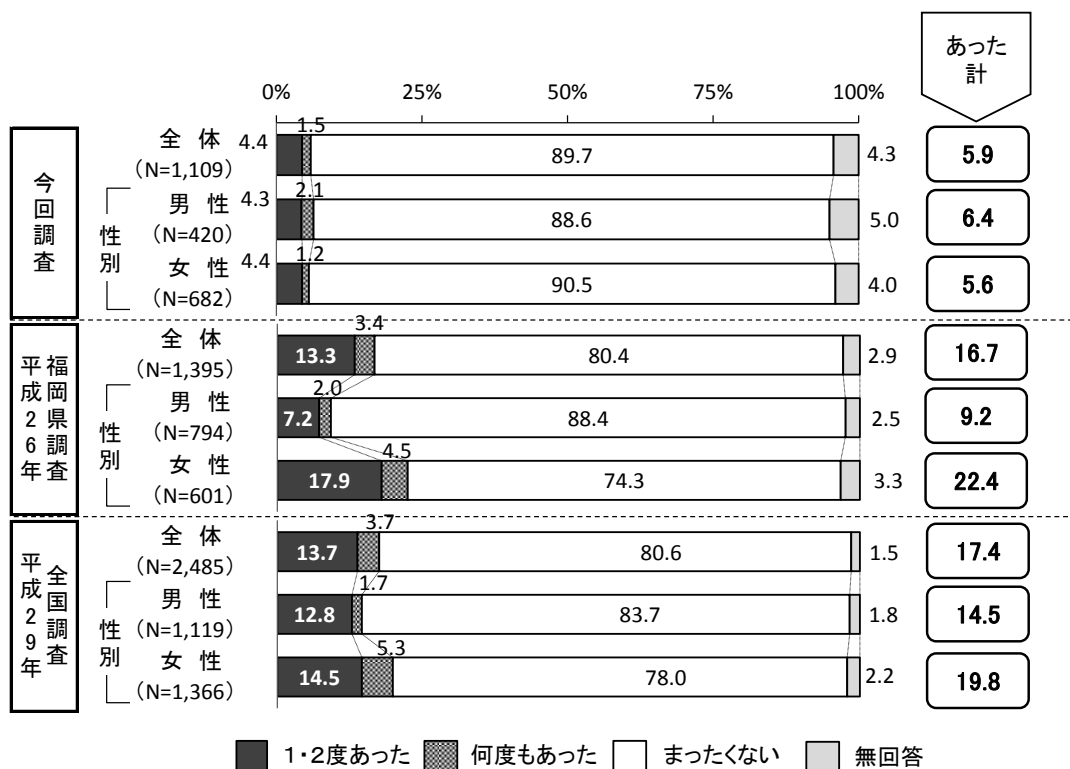
4. 配偶者・パートナーからの暴力について

(1) ここ3年間の配偶者・パートナーからの暴力の経験

問 19. この3年間くらいのうちに、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

（ア）なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

図表 5-9 身体的暴力を受けた経験 [全体、性別] (福岡県・全国調査比較)



配偶者・パートナー、恋人から「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるかどうかたずねた。「1・2度あった」が4.4%、「何度もあった」が1.5%でこれらをあわせた『あった』は5.9%である。

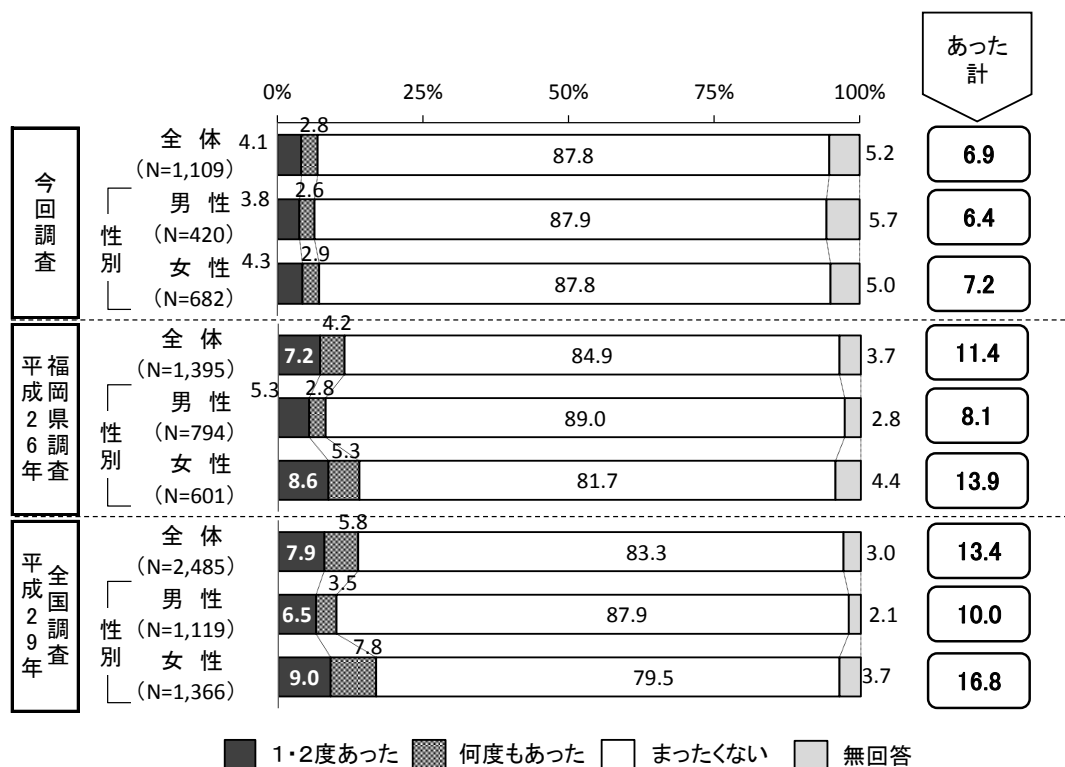
性別で見ると、『あった』は男性6.4%、女性5.6%となっている。

前回調査では「1・2度あった」が男性1.4%、女性は4.6%、「何度もあった」は男性0.5%、女性0.9%で、男性の被害経験は今回調査の方が高くなっている。

福岡県調査や内閣府で平成29年12月実施した「男女間における暴力に関する調査」（以下、全国調査という）と比べると、男女とも『あった』の割合は今回調査の方が低く、特に女性では約14~17ポイント低い。

(イ) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

図表 5-10 精神的暴力を受けた経験 [全体、年代別] (福岡県・全国調査比較)



「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」ことがあるかどうかについて、「1・2度あった」が4.1%、「何度もあった」が2.8%でこれらをあわせた『あった』は6.9%である。

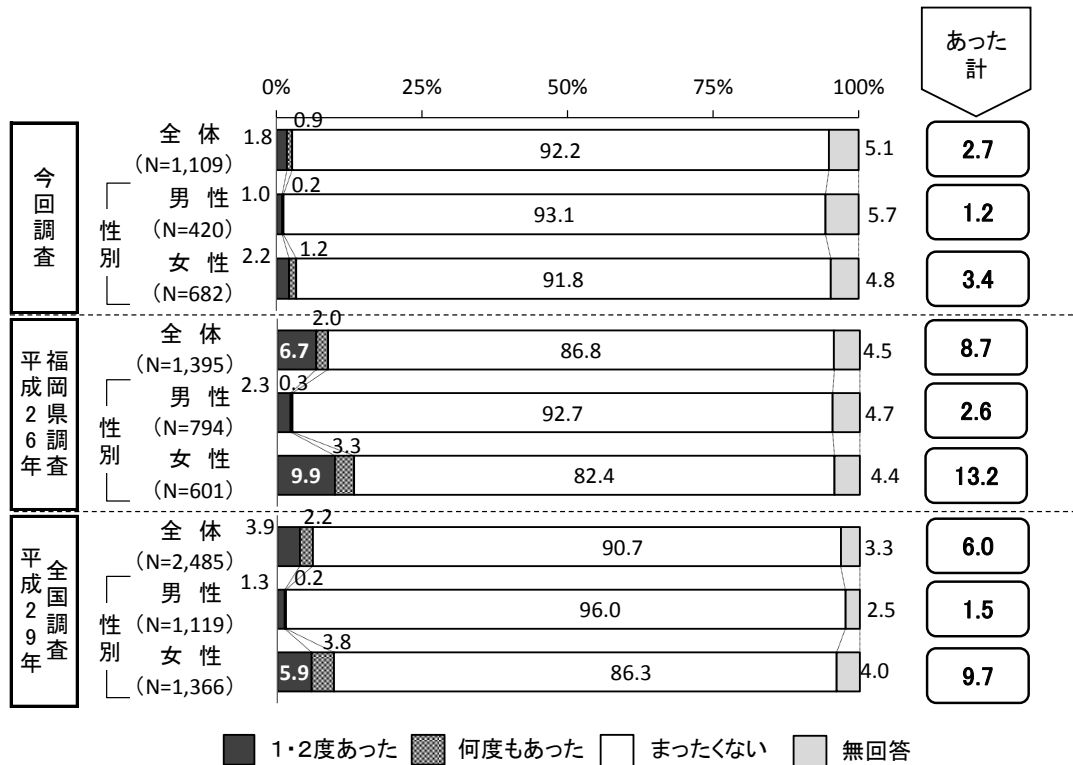
性別でみると、『あった』は男性6.4%、女性7.2%となっている。

前回調査では「1・2度あった」が男性1.0%、女性は4.0%、「何度もあった」は男性1.0%、女性2.0%で、男性の被害経験は今回調査の方が高くなっている。

福岡県調査や全国調査と比べると、男女とも『あった』の割合は今回調査の方が低く、特に女性では約7～10ポイント低い。

(ウ) いやがっているのに性的な行為を強要された

図表5-11 性的暴力を受けた経験〔全体、性別〕（福岡県・全国調査比較）



「いやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるかどうかについて、「1・2度あった」が1.8%、「何度もあった」が0.9%でこれらをあわせた『あった』は2.7%である。

性別で見ると、『あった』は男性1.2%、女性3.4%となっている。

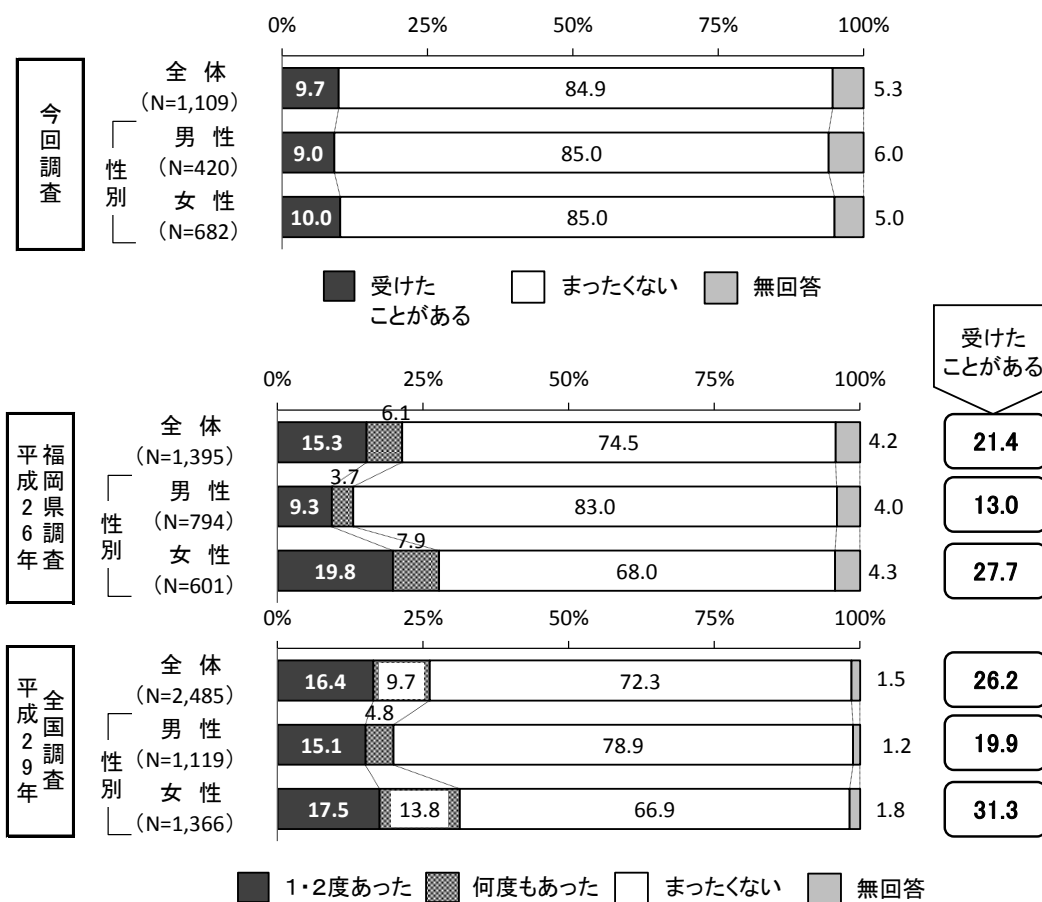
前回調査では「1・2度あった」が男性0.5%、女性は4.3%、「何度もあった」は男性0.5%、女性0.6%で、女性の被害経験は今回調査の方が低い。

福岡県調査や全国調査と比べると、女性の『あった』割合は今回調査の方が約6～10ポイント低い。

この3年ぐらいの間に配偶者・パートナー、恋人から身体的暴力、性的暴力、身体的暴力の経験についてたずねたが、「1、2度あった」と「何度もあった」のいずれか一つでも回答した人は、全体で9.7%、男性9.0%、女性で10.0%となっている。

福岡県調査や全国調査と比べると、項目に違いはあるが暴力の経験は今回調査の方が男女とも低くなっている。

図表5-12 暴力の経験 [全体、性別] (福岡県・全国調査比較)



第5章 セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について-----

年代別でみると、男性の30代と50代、女性の20代と50代、60代で「受けたことがある」の割合が1割を超えて高い。

配偶状況別でみると、男女とも共働きの既婚者、離別で「受けたことがある」が1割を超え、また女性の死別でも10.5%となっている。

図表5-13 暴力の経験 [全体、年代別、配偶状況別]

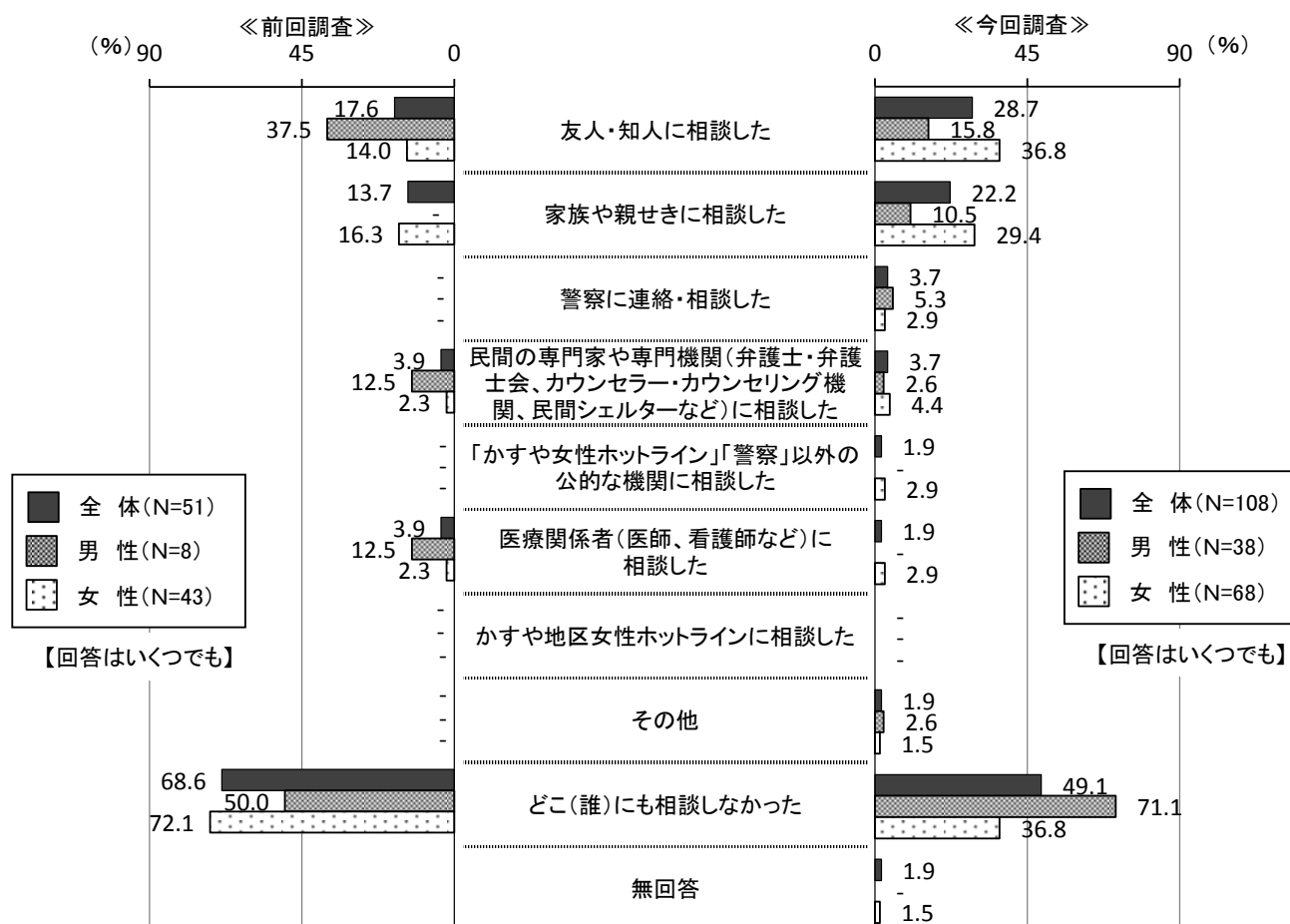
			(%)		
		標本数	受けたことがある	まったくくない	無回答
全 体		1,109	108	942	59
		100.0	9.7	84.9	5.3
年 代 別	男性:20代	36	2.8	94.4	2.8
	男性:30代	81	12.3	82.7	4.9
	男性:40代	94	6.4	92.6	1.1
	男性:50代	68	16.2	79.4	4.4
	男性:60代	72	9.7	79.2	11.1
	男性:70代以上	69	4.3	84.1	11.6
	女性:20代	68	10.3	86.8	2.9
	女性:30代	155	7.7	91.0	1.3
	女性:40代	168	12.5	86.3	1.2
	女性:50代	94	11.7	85.1	3.2
	女性:60代	111	7.2	83.8	9.0
	女性:70代以上	83	9.6	72.3	18.1
	無回答	10	30.0	70.0	-
配 偶 状 況 別	男性:未婚	84	6.0	88.1	6.0
	男性:既婚(共働きである)	165	12.1	87.3	0.6
	男性:既婚(共働きでない)	130	6.9	88.5	4.6
	男性:離別	28	10.7	53.6	35.7
	男性:死別	12	8.3	75.0	16.7
	女性:未婚	80	6.3	87.5	6.3
	女性:既婚(共働きである)	293	12.3	86.3	1.4
	女性:既婚(共働きでない)	229	7.9	88.6	3.5
	女性:離別	37	13.5	70.3	16.2
	女性:死別	38	10.5	65.8	23.7
	無回答	13	15.4	61.5	23.1

(2) 相談先

【問 19 で (ア) から (ウ) のうち、ひとつでも「1. 1・2度あった」「2. 何度もあった」と答えた方におたずねします。】

付問 19-1. あなたが受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

図表 5-14 相談先 [全体、性別] (前回調査比較)



配偶者・パートナー、恋人からの身体的暴力、性的暴力、身体的暴力が「1・2度あった」「何度もあった」と回答した人に、相談先をたずねた。「友人・知人に相談した」が28.7%、「家族や親せきに相談した」が22.2%でこの2つが主な相談先となっている。他方、「どこ(誰)にも相談しなかった」は49.1%と約半数となっている。

性別で見ると、女性は「友人・知人に相談した」(36.8%)や「家族や親せきに相談した」(29.4%)が約3割から3割半ばで男性よりも20ポイント前後高い。男性は「どこ(誰)にも相談しなかった」が71.1%と女性(36.8%)の約2倍となっている。

前回調査と比べると、女性で「どこ(誰)にも相談しなかった」の割合が減り、「友人・知人に相談した」や「家族や親せきに相談した」の割合が増え、また公的機関への相談も割合は低いがみられるようになっている。

第5章 セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について-----

年代別でみると、女性の30代では「どこ（誰）にも相談しなかった」が66.7%で女性の中では最も高い。女性の20代の相談先は「友人・知人に相談した」や「家族や親せきに相談した」で公的機関への相談がみられない。

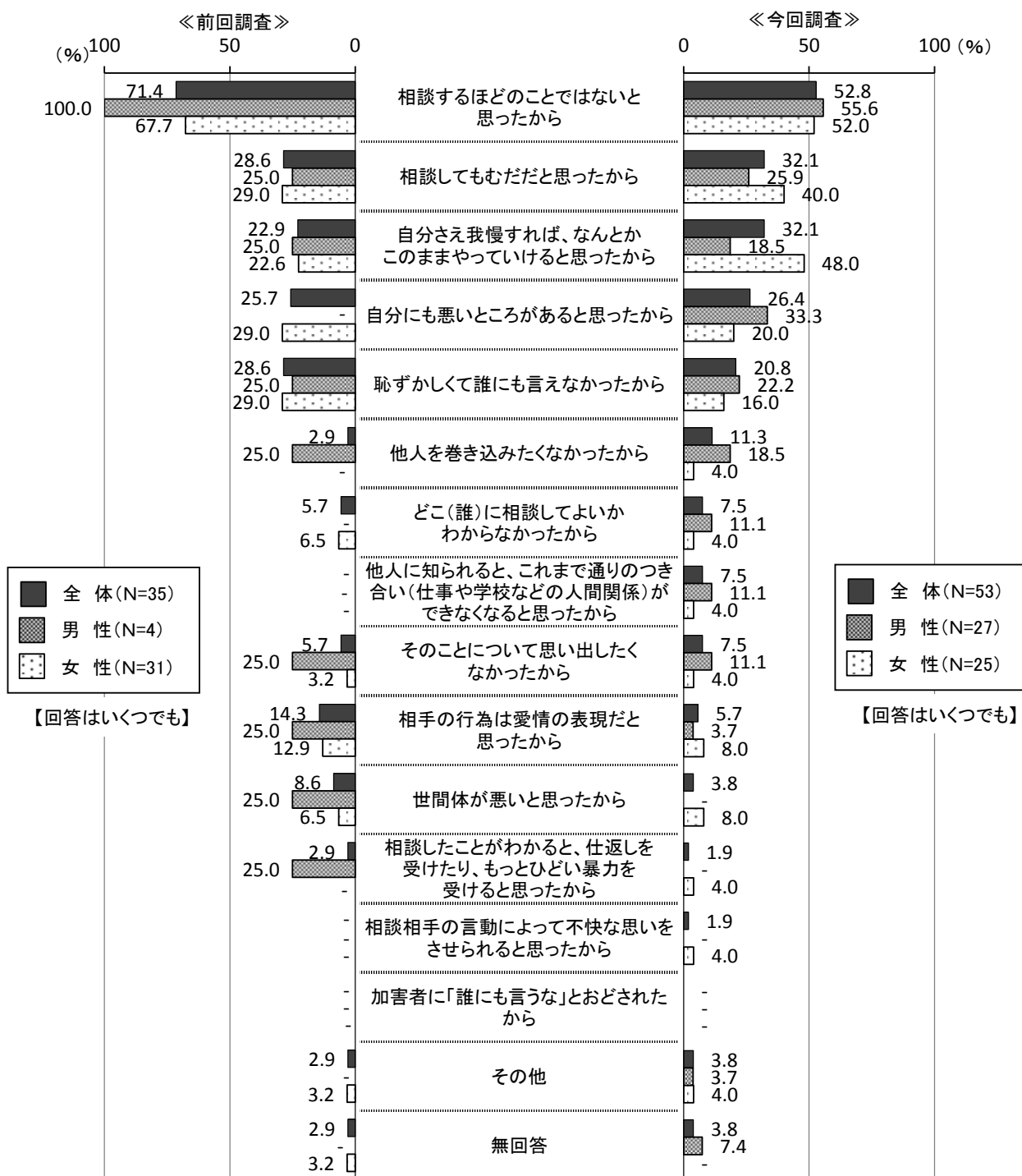
図表5-15 相談先 [全体、年代別]

		(%)											
		標本数	かすや地区女性ホットラインに相談した	警察に連絡・相談した	「かすや」以外の公的な機関に相談した	「かすや」以外の民間機関に相談した	市民間の専門家や専門機関（弁護士・カウンセラー・民間シエ）	医療関係者（医師、看護師など）に相談した	家族や親せきに相談した	友人・知人に相談した	その他	どこ（誰）にも相談しなかった	無回答
全体		108 100.0	- -	4 3.7	2 1.9	4 3.7	2 1.9	24 22.2	31 28.7	2 1.9	53 49.1	2 1.9	
年代別	男性:20代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	男性:30代	10	-	-	-	-	-	-	20.0	-	80.0	-	
	男性:40代	6	-	-	-	-	-	-	16.7	-	83.3	-	
	男性:50代	11	-	-	-	9.1	-	9.1	18.2	-	72.7	-	
	男性:60代	7	-	14.3	-	-	-	14.3	-	-	71.4	-	
	男性:70代以上	3	-	33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	33.3	-	
	女性:20代	7	-	-	-	-	-	42.9	57.1	-	28.6	-	
	女性:30代	12	-	8.3	-	-	-	16.7	8.3	-	66.7	-	
	女性:40代	21	-	-	-	4.8	4.8	14.3	47.6	4.8	38.1	-	
	女性:50代	11	-	9.1	-	9.1	-	54.5	36.4	-	18.2	-	
女性:60代	8	-	-	12.5	-	-	37.5	25.0	-	37.5	12.5		
女性:70代以上	8	-	-	12.5	12.5	12.5	37.5	37.5	-	25.0	-		
無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3	33.3	

(3) 相談しなかった理由

【付問 19-1 で「9. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。】
 付問 19-2. どこ（誰）にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。
 (〇はいくつでも)

図表 5-16 相談しなかった理由 [全体、性別] (前回調査比較)



自分が受けた暴力の被害について「どこ（誰に）相談しなかった」と答えた人にその理由をたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」が52.8%で最も高い。次いで「相談してもむだだと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が同率の32.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が26.4%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が20.8%となっている。

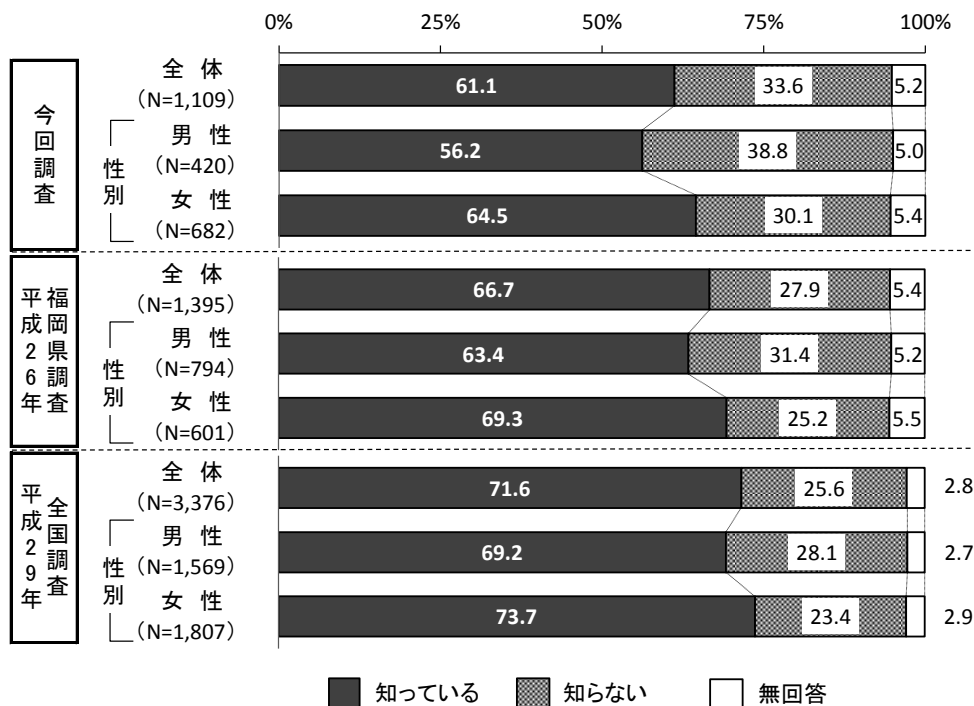
性別で見ると、女性は「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が48.0%で男性(18.5%)を29.5ポイント、また「相談してもむだだと思ったから」(男性25.9%、女性40.0%)が14.1ポイント上回っている。「どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから」は男性が11.1%、女性が4.0%となっている。

5. 暴力相談窓口の認知

【全員におたずねします。】

問 20. あなたはDV（配偶者からの暴力）について相談できる窓口があることを知っていますか。（○は1つだけ）

図表5-17 暴力相談窓口の認知 [全体、性別] (福岡県・全国調査比較)



DV（配偶者からの暴力）について、相談できる窓口があることを知っているかどうかたずねた。「知っている」は61.1%、「知らない」は33.6%となっている。

性別で見ると、女性の「知っている」は64.5%で男性(56.2%)を8.3ポイント上回っている。

福岡県や全国調査と比較すると、「知っている」は今回調査の男性の割合が最も低く、女性も福岡県調査より4.8ポイント、全国調査より9.2ポイント認知度が低い。

年代別でみると、「知っている」は女性の40代で74.4%と最も高く、その前後の年代でも7割前後の認知となっている。男性は年代が低い層で「知っている」の割合が高い傾向がある。

配偶状況別でみると、男女とも既婚の共働きでの認知が高く、女性の未婚でも7割近くの認知となっている。

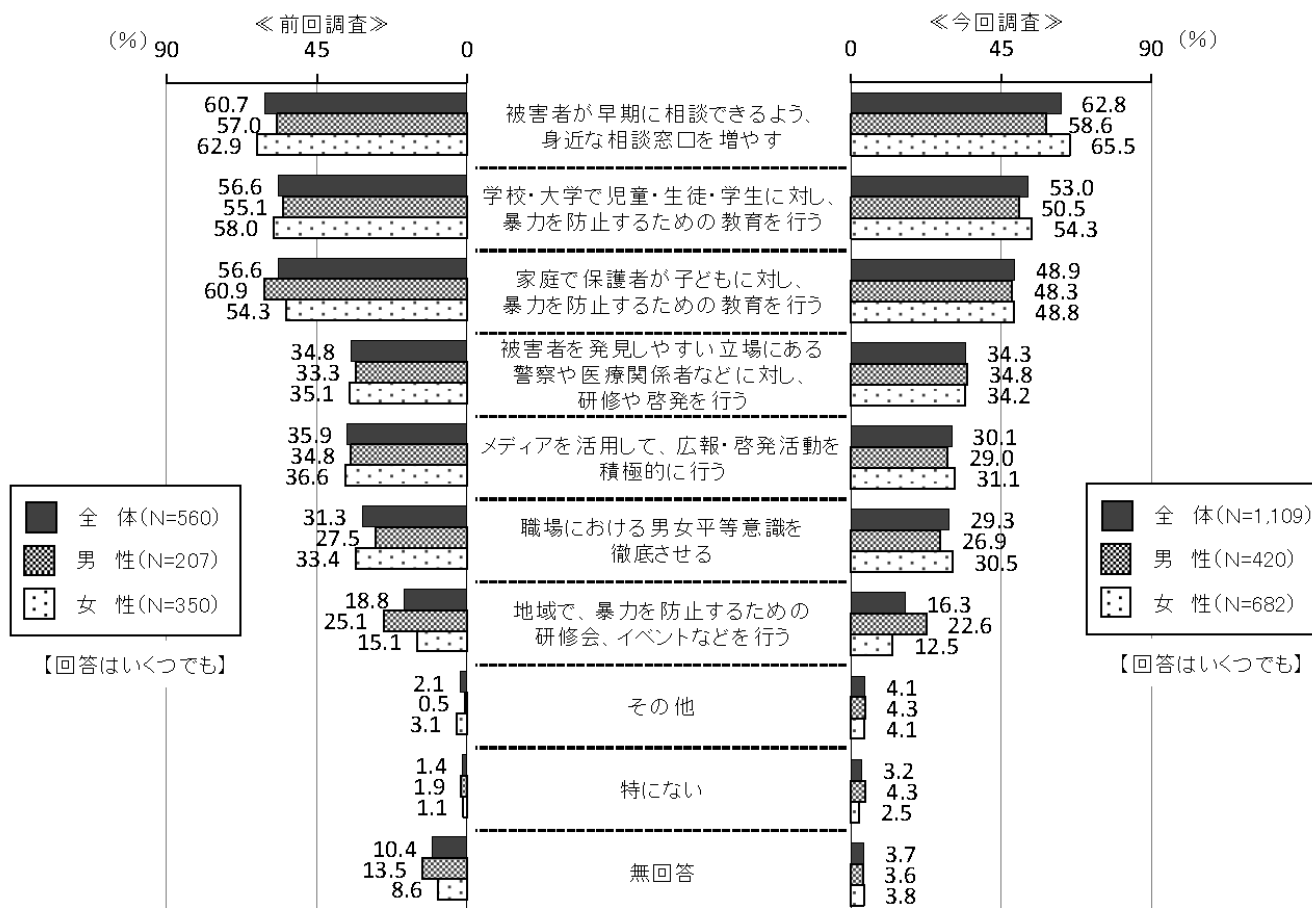
図表5-18 暴力相談窓口の認知 [全体、年代別、配偶状況別]

		(%)			
		標本数	知っている	知らない	無回答
全 体		1,109 100.0	678 61.1	373 33.6	58 5.2
年 代 別	男性:20代	36	61.1	38.9	-
	男性:30代	81	65.4	32.1	2.5
	男性:40代	94	59.6	39.4	1.1
	男性:50代	68	52.9	39.7	7.4
	男性:60代	72	47.2	47.2	5.6
	男性:70代以上	69	50.7	36.2	13.0
	女性:20代	68	67.6	30.9	1.5
	女性:30代	155	72.3	27.7	-
	女性:40代	168	74.4	24.4	1.2
	女性:50代	94	69.1	28.7	2.1
	女性:60代	111	50.5	39.6	9.9
	女性:70代以上	83	43.4	31.3	25.3
	無回答	10	20.0	80.0	-
配 偶 状 況 別	男性:未婚	84	50.0	48.8	1.2
	男性:既婚(共働きである)	165	63.0	34.5	2.4
	男性:既婚(共働きでない)	130	56.9	36.2	6.9
	男性:離別	28	46.4	35.7	17.9
	男性:死別	12	25.0	66.7	8.3
	女性:未婚	80	68.8	27.5	3.8
	女性:既婚(共働きである)	293	71.0	27.6	1.4
	女性:既婚(共働きでない)	229	58.5	31.4	10.0
	女性:離別	37	51.4	45.9	2.7
	女性:死別	38	55.3	31.6	13.2
無回答	13	38.5	46.2	15.4	

6. セクハラや暴力をなくすために必要なこと

問 21. セクシュアル・ハラスメントやDVなどへの関心が高まっていますが、このようなことをなくすためには、あなたはもししたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

図表 5-19 セクハラや暴力をなくすために必要なこと [全体、性別] (前回調査比較)



セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすためにどうしたらよいと思うかたずねた。「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が62.8%で最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が53.0%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が48.9%となっている。

性別で見ると、女性は「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(男性58.6%、女性65.5%)が男性よりも6.9ポイント高く、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(同50.5%、54.3%)や「職場における男女平等意識を徹底させる」(同26.9%、30.5%)などが男性よりもやや高い。男性は「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」(同22.6%、12.5%)が女性よりも10.1ポイント高い。

前回調査と比べると、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が男性で12.6ポイント、女性で5.5ポイント今回調査の方が低く、また「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」も男女とも約4～5ポイント低くなっている。

男性の20代と40代、女性は各年代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が6割半ばと高率である。また、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」は男性の20代、女性の30代で6割半ば、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は男性の70代以上で60.9%と高い。男性の20代では「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係機関などに対し、研修や啓発を行う」や「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」などの対策も4割台と他の年代比べて高くなっている。

図表5-20 セクハラや暴力をなくするために必要なこと [全体、年代別]

(%)

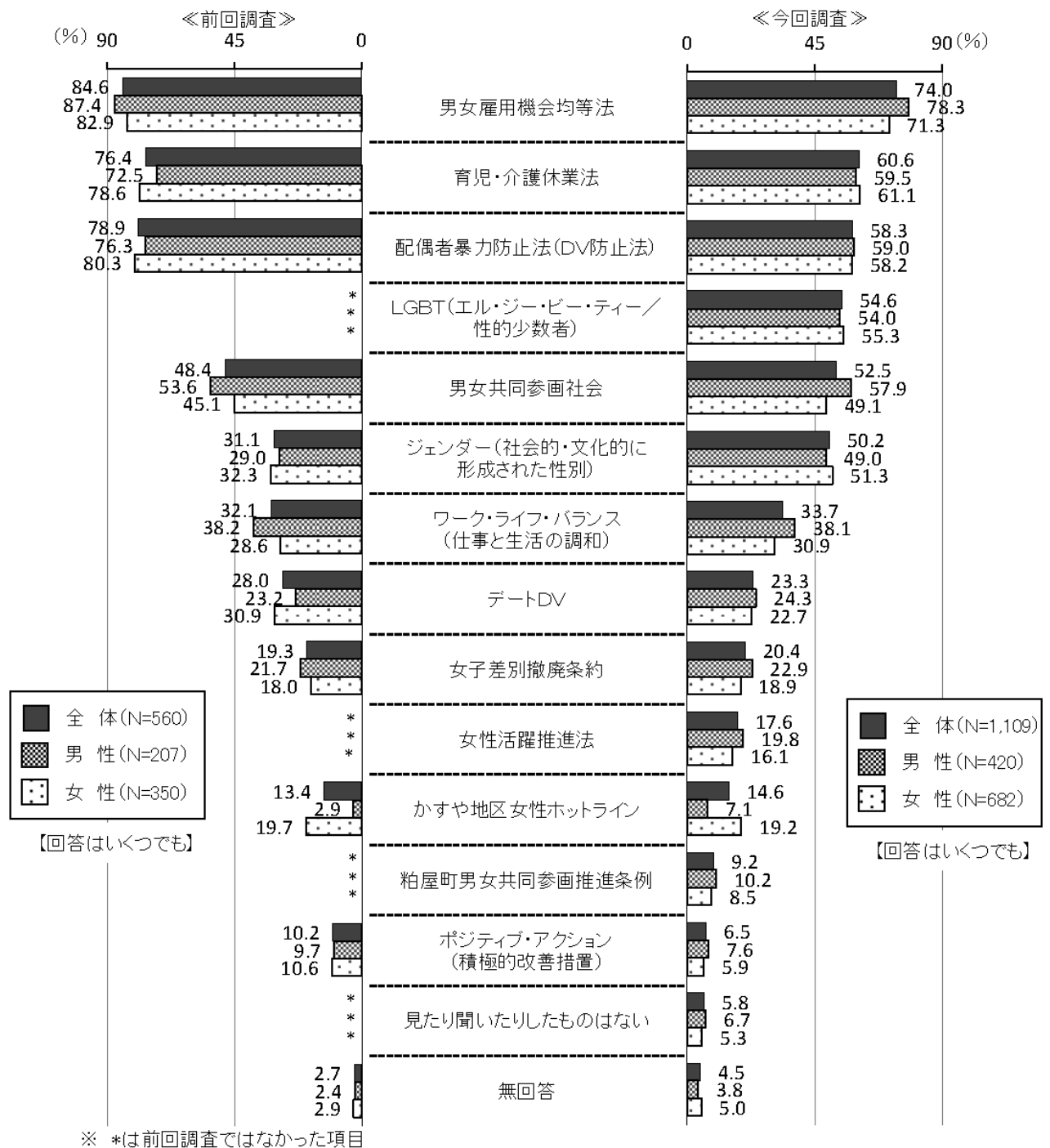
	標本数	う暴力を防止するた 家庭で保護者が子 の教育を行う	に学校・大学で 児童・生徒・学 生の教育を行う	地域で、暴力を 防止するための 研修会、イベント などを行う	職場における男 女平等意識を徹 底させる	メディアを積極 的に活用して、 広報・啓	う被害者が早期 に相談できるよ うな相談窓口を 増やす	る警察や医療 関係者などに対 し、研修や啓 発を行う	その他	特 に ない	無 回 答
全体	1,109 100.0	542 48.9	588 53.0	181 16.3	325 29.3	334 30.1	697 62.8	380 34.3	46 4.1	35 3.2	41 3.7
年代別	男性:20代	36	47.2	63.9	22.2	41.7	66.7	47.2	-	2.8	-
	男性:30代	81	49.4	51.9	28.4	30.9	33.3	51.9	8.6	4.9	3.7
	男性:40代	94	47.9	51.1	11.7	26.6	24.5	66.0	8.5	3.2	4.3
	男性:50代	68	41.2	45.6	20.6	25.0	26.5	51.5	-	5.9	2.9
	男性:60代	72	43.1	50.0	26.4	19.4	29.2	59.7	4.2	6.9	8.3
	男性:70代以上	69	60.9	46.4	29.0	34.8	26.1	58.0	-	1.4	1.4
	女性:20代	68	47.1	41.2	5.9	30.9	26.5	66.2	2.9	4.4	-
	女性:30代	155	52.3	64.5	11.6	28.4	31.6	65.2	7.7	2.6	-
	女性:40代	168	47.0	58.3	8.9	30.4	32.7	64.3	6.0	1.8	1.8
	女性:50代	94	50.0	55.3	21.3	33.0	35.1	69.1	3.2	1.1	1.1
	女性:60代	111	48.6	52.3	11.7	29.7	33.3	64.0	0.9	1.8	9.0
	女性:70代以上	83	48.2	39.8	18.1	33.7	24.1	65.1	-	4.8	13.3
無回答	10	60.0	70.0	10.0	40.0	-	70.0	20.0	-	-	

第6章 男女共同参画社会の実現について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 22. 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

図表 6-1 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知をたずねた。「男女雇用機会均等法」が74.0%で最も高く、次いで「育児・介護休業法」(60.6%)、「配偶者暴力防止法(DV防止法)」(58.3%)が約6割、「LGBT(性的少数者)」(54.6%)が5割半ば、「男女共同参画社会」(52.5%)、「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」(50.2%)などが約5割の認知となっている。「かすや地区女性ホットライン」は14.6%、「粕屋町男女共同参画推進条例」は9.2%である。他方、「見たり聞いたりしたものはない」は5.8%となっている。

性別でみると、男性は「男女雇用機会均等法」や「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「女子差別撤廃条約」「女性活躍推進法」などの法令や言葉の認知が女性よりも高く、女性は「粕屋地区女性ホットライン」の事業の認知が男性よりも高くなっている。

前回調査と比べると、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「配偶者暴力防止法(DV防止法)」など上位3位にあげられた法律の認知は、今回調査の方が男女とも低くなっている。「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」は男女とも20ポイント前後認知が高くなっている。

年代別でみると、男性の20代と40・50代、女性の30代で「男女雇用機会均等法」が8割を超えて高い。また男女とも20代で「男女共同参画社会」が7割半ばから約8割と高く、その他「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」や「育児・介護休業法」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「LGBT(エル・ジー・ビー・ティー/性的少数者)」「デートDV」「女子差別撤廃条約」などは男女とも年代の低い層での割合が比較的高くなっている。「配偶者暴力防止法(DV防止法)」は男女の40代と50代、「かすや地区女性ホットライン」は女性の30代から50代、「粕屋町男女共同参画推進条例」は女性の70代以上での認知が他の年代に比べて高くなっている。

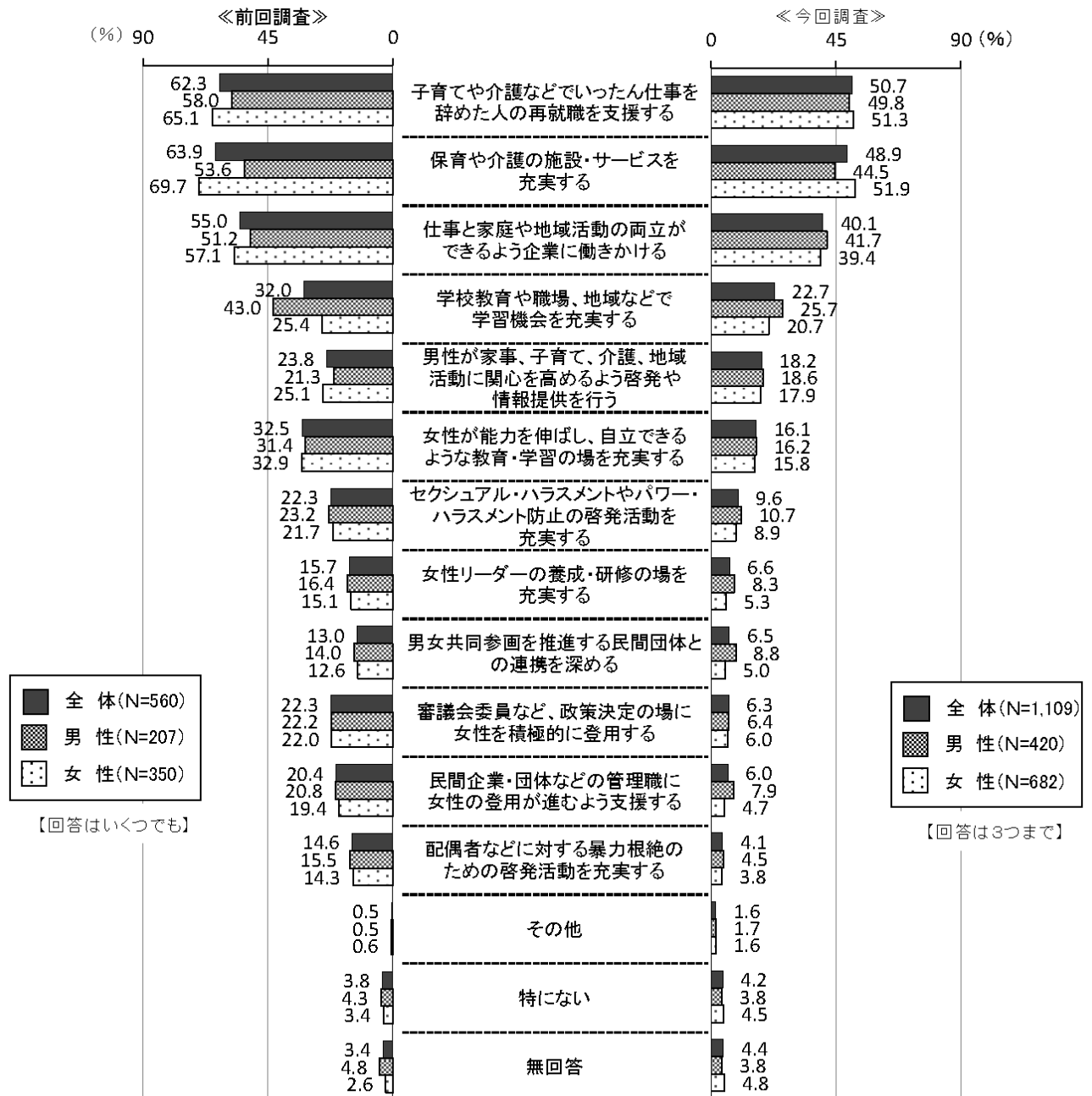
図表6-2 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知[全体、年代別]

		標本数	男女共同参画社会	男女雇用機会均等法	女子差別撤廃条約	配偶者暴力防止法(DV防止法)	育児・介護休業法	女性活躍推進法	積極的改善措置(ポジティブ・アクション)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	デートDV	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	LGBT(性的少数者)	かすや地区女性ホットライン	粕屋町男女共同参画推進条例	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全体		1,109 100.0	582 52.5	821 74.0	226 20.4	647 58.3	672 60.6	195 17.6	72 6.5	557 50.2	258 23.3	374 33.7	606 54.6	162 14.6	102 9.2	64 5.8	50 4.5
年代別	男性:20代	36	83.3	83.3	38.9	41.7	63.9	27.8	13.9	83.3	33.3	69.4	75.0	-	2.8	2.8	-
	男性:30代	81	53.1	76.5	27.2	55.6	60.5	23.5	11.1	58.0	33.3	58.0	60.5	7.4	11.1	12.3	3.7
	男性:40代	94	56.4	83.0	17.0	68.1	62.8	21.3	5.3	53.2	30.9	44.7	68.1	12.8	8.5	6.4	3.2
	男性:50代	68	70.6	82.4	19.1	69.1	61.8	22.1	10.3	58.8	29.4	36.8	58.8	8.8	13.2	1.5	5.9
	男性:60代	72	44.4	75.0	19.4	48.6	51.4	9.7	1.4	36.1	11.1	16.7	43.1	5.6	6.9	6.9	8.3
	男性:70代以上	69	53.6	71.0	24.6	60.9	58.0	17.4	7.2	18.8	8.7	13.0	23.2	2.9	15.9	7.2	1.4
	女性:20代	68	76.5	67.6	27.9	47.1	54.4	11.8	4.4	60.3	44.1	44.1	67.6	11.8	4.4	4.4	-
	女性:30代	155	46.5	82.6	26.5	59.4	72.3	18.7	5.8	69.0	26.5	42.6	77.4	20.0	7.1	1.9	-
	女性:40代	168	46.4	75.6	21.4	64.9	56.5	16.7	6.0	55.4	30.4	35.7	61.3	25.6	6.5	3.6	2.4
	女性:50代	94	41.5	71.3	14.9	69.1	64.9	17.0	5.3	52.1	19.1	25.5	43.6	24.5	5.3	4.3	4.3
	女性:60代	111	48.6	64.9	7.2	53.2	59.5	16.2	5.4	36.0	6.3	17.1	40.5	12.6	9.9	11.7	9.9
女性:70代以上	83	47.0	54.2	12.0	47.0	53.0	13.3	8.4	24.1	8.4	13.3	24.1	14.5	20.5	8.4	16.9	
無回答		10	50.0	70.0	20.0	30.0	70.0	20.0	-	10.0	20.0	40.0	40.0	10.0	10.0	-	-

2. 男女共同参画社会を実現するために行政が今後力を入れること

問 23. 粕屋町では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図表 6-3 男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れること [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画社会を実現するために行政に力を入れていくべきことは「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 50.7%、「保育や介護の施設・サービスを充実する」が 48.9%、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」が 40.1%で上位3位となっている。

性別でみると、女性は「保育や介護の施設・サービスを充実する」が51.9%と、男性(44.5%)より7.4ポイント高く、全体で第1位の「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(51.3%)と同程度となっている。男性は「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」が25.7%で女性(20.7%)よりも5ポイント高い。

前回調査ではいくつでも、今回調査は3つまでの選択となっているため、割合は全体に今回調査の方が低くなっているが、上位3位にあげられた項目は変わらない。

年代別でみると、男性の40代と女性の20代、30代、50代で「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が5割半ばから6割近くと高率である。男女の40代以下では「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」が5割前後、男性の20代では「学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する」が41.7%、女性の30代では「保育や介護の施設・サービスを充実する」が65.8%と他の年代に比べて割合が高くなっている。

図表6-4 男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れること〔全体、年代別〕

(%)

	標本数	学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する	仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける	子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	保育や介護の施設・サービスを充実する	審議会委員などに登用する	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する	セクシュアル・ハラスメント防止の啓発活動を充実する	女性リーダーの養成・研修の場を充実する	男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める	その他	特になし	無回答	
全体	1,109 100.0	252 22.7	179 16.1	445 40.1	562 50.7	202 18.2	542 48.9	70 6.3	66 6.0	45 4.1	106 9.6	73 6.6	72 6.5	18 1.6	47 4.2	49 4.4	
年代別	男性:20代	36	41.7	19.4	47.2	47.2	25.0	52.8	5.6	8.3	8.3	8.3	5.6	-	2.8	-	
	男性:30代	81	23.5	14.8	53.1	46.9	21.0	49.4	2.5	3.7	3.7	12.3	6.2	7.4	3.7	3.7	
	男性:40代	94	24.5	18.1	47.9	58.5	10.6	51.1	5.3	7.4	5.3	7.4	9.6	5.3	3.2	2.1	1.1
	男性:50代	68	26.5	11.8	39.7	45.6	17.6	38.2	10.3	5.9	-	11.8	8.8	10.3	-	5.9	4.4
	男性:60代	72	22.2	18.1	33.3	43.1	26.4	40.3	9.7	8.3	1.4	16.7	9.7	11.1	-	4.2	4.2
	男性:70代以上	69	24.6	15.9	27.5	53.6	15.9	36.2	5.8	14.5	10.1	7.2	8.7	15.9	1.4	4.3	8.7
	女性:20代	68	19.1	16.2	50.0	58.8	23.5	52.9	4.4	-	2.9	8.8	5.9	1.5	-	1.5	1.5
	女性:30代	155	22.6	16.8	47.1	56.8	19.4	65.8	3.9	3.2	3.9	5.2	3.9	1.9	3.2	3.2	0.6
	女性:40代	168	20.2	14.3	47.0	47.6	16.7	51.2	6.0	6.5	3.6	11.9	3.6	3.6	3.0	2.4	3.0
	女性:50代	94	21.3	13.8	36.2	56.4	17.0	41.5	8.5	9.6	1.1	11.7	6.4	5.3	1.1	6.4	2.1
	女性:60代	111	21.6	18.9	28.8	48.6	19.8	47.7	7.2	4.5	5.4	8.1	5.4	5.4	-	5.4	9.0
	女性:70代以上	83	16.9	15.7	20.5	39.8	12.0	43.4	7.2	2.4	6.0	8.4	9.6	15.7	-	9.6	16.9
無回答	10	40.0	30.0	10.0	50.0	20.0	30.0	20.0	10.0	-	-	20.0	10.0	-	10.0	-	

調査結果のまとめ

はじめに

男女共同参画社会基本法には、男女共同参画の取組における国民・自治体の責務が明記されており、粕屋町では2019年度に「粕屋町男女共同参画計画（後期計画）」を策定する予定である。

本調査は、この5年間の本町の男女共同参画に関わる事業の成果を検証するとともに、今後の男女共同参画を進める上での課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。本調査結果から本当の男女共同参画に関する町民意識の現状と動向および今後の課題について考察したい。

1. 男女平等に関する意識について

男女の地位の平等感について8つの項目でたずねたところ、『男性優遇』が高いのは「社会通念、慣習、しきたりなど」「政治の場」で7割半ばに達し、「社会全体」も約7割となっていた。「地域活動・社会活動の場」「家庭生活」「法律や制度のうえ」「職場」はいずれも4割台で、「学校教育の場」が最も低かった。

女性の「平等である」の割合は全ての項目で男性を下回り、男女の地位については、女性の方が男性よりも不平等感が強い。特に、「法律や制度」については、男性は「平等である」と認識している割合が約4割で女性を約19ポイント上回り、男女の認識の差が最も大きい。「女性活躍推進法」が2016年に施行されるなど、法律や制度が多方面に整備されてきたが、女性にはそれらが現実の男女平等に結びついた認識にはなっていないことが推測される。「地域活動・社会活動の場」も平等の認識が女性は男性を約17ポイント下回り認識の差が大きい項目であり、年代でみると女性の40代と50代、男性の50代と60代では他の年代より男性優遇が高く、実際に地域活動に関わる年代ではより不平等を感じているといえる。

前回調査と比べると、「家庭」「職場」では「平等である」が10ポイント以上高まっており、「政治の場」「社会通念、慣習、しきたりなど」「社会全体」もやや高くなっており、全体に平等という認識が高まっているが、「法律や制度のうえ」の平等感は低くなっており、課題のある分野といえる。

全国調査と比べると、『男性優遇』が「地域活動・社会活動の場」で約14ポイント上回り、また、「学校教育の場」の「平等である」は約15ポイント下回るなど、組織的に活動する場においては本町での不平等感は強い。

「男は仕事、女は家庭」という考え方、固定的性別役割分担意識については、『同感する』が約4割で『同感しない』が5割半ばで、『同感しない』が約14ポイント上回っている。性別役割分担については、一般的に女性の方が男性よりも『同感しない』が高くなる傾向があり、本調査結果においても『同感しない』は女性が男性を約7ポイント上回っている。ただし、年齢別にみると、女性の20代と70代で『同感する』が他の年代よりやや高く、男性では年齢が高くなるほど高くなっており、年代による意識の違いがみられる。未婚者でみると、女性の『同感する』は男性を約10ポイント上回り、一般的傾向と逆転している。前回調査と比べると、男女とも『同感しない』は今回調査の方が約6ポイント増えており、固定的性別役割分担意識は解消される傾向にあるといえる。

子どもの育て方について、「女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ」は、ともに9割以上の人賛成している。子どもの性別に関わらず、経済自立志向と生活自立志向を必要と考えている人は多い。また、固定的役割分担を容認しない人は、性別に関わらない子どもの育て方を肯定する割合が高いという相関関係がみられる。経済自立志向の積極的賛成をみると女性では20代が低くなっており、先述の固定的役割分担を容認する割合が他の年代に比べてやや高かった結果が反映されている。生活自立志向の積極的賛成の割合は、女性の30代、40代で8割前後と高く、反対に男女とも50代以上で低くなるなど、男の子が家事能力を身につけることについて親世代と祖父母世代とのギャップがあることがうかがえる。

「男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい」とする、性別で異なる子どもの進路についてたずねたところ、支持しない人は約9割と高くなっているが、積極的な反対は男性の方が女性より約10ポイント低く、性別役割分担を容認しない人ほど割合が高くなっていた。

男女共同参画を進めていくために学校教育の場に求められることについては、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が最も高く、女性では約7割となっている。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」が男女とも5割を超えている。「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は男性の割合が女性よりやや高い。「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は女性の40代以下、男性の30代以下の年齢の低い層で高くなっていた。

今回調査では、前回調査より平等感が高くなっているが、全国調査より平等感が低い地域や学校への男女共同参画を推進するような働きかけが求められる。また、啓発を進めるうえで、性別、年齢別、配偶関係別などの違いをふまえていくことが必要である。子どもの育て方は、基本的には性別役割分担を解消する方向に概ね進んでおり、女性は男性より積極的な傾向がある。しかし、女性の年齢の低い層では経済的自立に対して消極的である。家庭や学校で、ジェンダーにとらわれない教育を進めるような施策が求められる。

2. 家庭生活について

現在、配偶者・パートナーがいる人に対し、家庭内の8つの役割の分担状況についてたずねた。「主に夫」は「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で約7割、一方、「主に妻」は「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」が約8割、日々の「家計の管理」が約6割で、夫が稼ぎ妻は家事という性別役割分担が家庭内で行われている実態がうかがえる。共働きの場合をみると「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は、「主に夫」が男性は5割半ば、女性は6割半ばで、妻が就労しても家計を支えるのは夫中心となっている。とはいえ、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」の共働きの場合では、女性は「主に妻」の割合は8割半ばにのぼり、男性の「家計を支える」よりも割合は高く、就労している女性でも家事は妻の役割となっている様子がうかがえる。また、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」「育児、子どものしつけ」の項目では、女性は妻が行っているという認識が男性より高いが、男性では「夫・妻同程度」に担っているという認識が女性より高く、性別で認識が異なる。「町内会・自治会などの地域活動」は、女性の40代と50代で「主に妻」、男性の60代で「主に夫」が高く、地域活動は年代で男女の認識が異なる。

家庭内の重要な決定について、「子どもの教育方針・進学目標の決定」では「夫・妻同程度」は、男女とも5割強で前回よりも上回っている。「高額の商品や土地、家屋の購入決定」では「主

に夫」が男女とも約3割で前回調査よりやや低くなり、「主に妻」が男性ではやや増えている。家庭内の重要な決定については、女性の参画が少しずつ進んでいる傾向がうかがえる。

ワーク・ライフ・バランスについて、生活で何を優先するかを希望と現実に分けてたずねた。希望では、男女とも「仕事と家庭生活をともに優先」が3割前後で高く、特に男性の30代では半数近くと高くなっていて、女性では30代と40代で「家庭生活優先」が他の年代より高くなっている。一方現実では、男性は「仕事優先」が最も高く、50代以下では4割前後に上り、希望との差は大きく、女性も「仕事優先」が希望より高いが、男性よりもその差は小さい。女性の「家庭生活優先」は30代で高く、この年代は希望との差は小さく、子育て期の女性は家庭生活優先を望み実現していることが伺える。

男性が育児休業を取得することについては、男女とも約7割が賛成しており肯定的である。子育て期の30代では、女性の賛成は8割にのぼるが、男性は約8ポイント低く、当事者の年代で男性はやや消極的である。未婚の場合には、男女とも無回答が高くなっており関心が低い傾向がうかがえるが、男性では積極的な賛成が最も高くなっており、関心のある男性では育児休業の取得に積極的といえる。

介護休業についても、男性が取得することに約8割が賛成しており、育児休業よりさらに肯定的にとらえられている。

男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこととしては、男女とも上位4位は4割前後と高く、それ以外の項目は2割未満にとどまった。「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は男性の第1位で、特に40代以下の年齢の低い層では高く、女性では子育て期の30代と40代、また男女とも共働きの場合に高くなっていて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性が家事育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性が高く、女性の50代や60代、男女とも共働きでない場合に高くなっている。「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」は、男女とも共働きの場合に高い。

全国的に共働き家庭は増えており粕屋町も同様の傾向にあるが、今回の調査結果から、共働きでも家事は妻中心であり、女性が仕事との二重負担を抱えている状況がうかがえる。前章でみたように若い女性の経済的自立への意識が低い原因の一つに、この二重負担があるともいえよう。男性が家庭責任を担えるように職場環境を整備していく必要がある。時短や休暇制度の普及の希望も共働きで高かったことから、職場で男性の家庭参画の価値を認める意識改革が求められ、事業所や管理職への意識啓発を進めていかなければならない。夫婦のコミュニケーションや男性の抵抗感などの私的な領域での項目は、専業主婦家庭で夫が退職を迎える年代の女性により必要性を認識していることがうかがえ、定年後の夫婦関係の再構築などをテーマとする学習や男性を対象とした家事や介護の教室などが施策として求められる。

3. 地域活動について

地域づくりに関わる活動への参加状況については、「自治会や町内会での活動」が高く、男性では特に60代と70代が高くなっており、先述の家庭内の役割で地域活動は「主に夫」となっていた年代であり、男性は定年後に町内会活動への参加が高くなる状況がうかがえる。一方、女性では40代以上の男性より年齢の低い層が中心となっている。「特に参加していない」が男女とも5割を超えて高く、20代では男性は7割半ば、女性は8割半ばにのぼる。

「特に参加していない」人の参加していない理由については、「忙しくて時間がないから」は

男女とも第1位であるが、男性は約6割で女性を11ポイント上回っており、男性の40代以下、女性では30代の子育て期で高くなっている。「きっかけがないから」は男女とも第2位で、20代では男性は半数を超え女性も4割半ばと高い。「一緒に参加する仲間がいない」「地域活動に関する情報が少ないから」は男性がやや高く、男性には地域のネットワークが不足している状況がうかがえる。

地域など5つの役職に立候補を依頼された場合の対応をたずねたところ、「職場の管理職」以外の4つでは『断る』が『引き受ける』を大きく上回る。『引き受ける』と回答した人は、男性が女性を上回っており役職につくことに対しては、女性よりも肯定的である。「職場の管理職」の『引き受ける』は、女性では約3割で約24ポイント男性を下回るが、20代と30代の年齢の低い層では4割を超えて他の年代より高い。その他『引き受ける』が高いのは「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」で、女性の50代では約2割と他の年代よりやや高い。全体的に男性の20代と30代では、『引き受ける』が他の年代よりも高く、男性の年齢の低い層では役職への抵抗感が低いといえる。

役職を断る理由については、女性は「知識や経験の面で不安があるから」が6割半ばで高く、男性を約16ポイント上回っていた。「責任が重いから」も女性は6割で男性を約23ポイント上回っていた。「時間的な余裕がないから」は男女とも30代と40代で他の年代より高く、子育て期の年代では地域の役職に時間が取れない状況がうかがえる。

地域の現状については、「会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」は男女とも4割前後、「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」は2割半ばで、「自治会役員（組合）は男性で登録しているが、会合には女性が行く」が1割半ばで続いた。これらの男性優位な状況については、いずれの項目も女性の割合は男性をやや上回り、一方「男女の役割に大きな差はない」は女性の割合が男性を約7ポイント下回るなど、女性の方に不平等感が高い。

地域活動で女性の積極的な参画を進めるために必要なこととして、「家族が家事・育児の分担をする」「育児や介護を支援するための施設を充実させる」が上位2項目で、男女とも子育て期の年齢の低い層で高くなっていた。「女性の参画は必要と思わない」は低く、女性の地域活動への参加は求められている状況がうかがえる。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なことについて、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも約4割で高く、特に女性の60代と70代以上の年齢の高い層で高い。「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は、女性は男性を上回り、特に40代以下や60代の子育てや介護に関わる年代で高くなっている。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も女性が高い。男性では、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」などが女性より高く、男性は女性の主体的な参画を求めている。

第1章でみたように、「地域活動・社会活動の場」での平等感や女性は男性を大きく下回っていた。地域に参画するのは、男性では60代、70代以上で女性より年齢が高い層が中心である。決断の場に女性の参画が求められても、自分は知識も経験もないと気後れする女性が多い状況が推察される。地域でのコミュニケーションは災害時に重要となるという認識は高いので、日頃から、性別や年齢に関わらず、対等に意見が言えるような関係を築けるよう地域への啓発が求められる。また、家庭責任を抱えている女性がさらに役職の責任を担うことは難しい。地域活動における託児などの子育て支援を充実するとともに、夫などの家族が家庭責任を分担できるように、

また、定年前から地域でのネットワークが築けるように、男性のワーク・ライフ・バランスの実現が重要となる。若い年齢層は地域活動への参画が少ない新住民が多いことも推測され、きっかけづくりとなるよう情報をソーシャルメディアなどを使って発信することも必要である。

4. 女性が職業をもつことについて

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が半数を超えており、「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方よい」という中断・再就職が3割半ばで、性別による違いはあまりなく、女性が職業をもつことは肯定的にとらえられている。年代別では、就労継続は男女とも20代では6割を超えて高いが、60代以上では半数を下回っており、年齢による意識の違いは大きい。また、就労継続は、共働きの場合、固定的性別役割分担を容認しない人で高い。前回調査と比較すると、就労継続が増加しており、特に男性でその傾向が顕著である。全国調査と比べると、専業主婦志向は低く、中断・再就職が高くなっており、本町では女性の就労を肯定する意識は高い。

また、「ずっと職業をもっている方がよい」以外の回答をした人にその理由をたずねると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」の2項目が高いが、特に男性では制度の不備が第1位となっている。「保育や介護などの施設が整っていないから」は女性の20代、30代高く、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」は男性の50代、60代で高くなっていった。女性が就労を継続しない方がよいと考える人では、職場の理解不足や制度や施設の不備など環境に原因をみており、特に、子育てに手のかかる年代では施設不足を課題としている。男性の管理職の多い年代では固定的性別役割分担を理由としており、そのために制度を利用できる雰囲気が醸成されないことも推測される。

女性が職業をもち、働き続けるために必要なこととしては、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が男女ともに6割を超え圧倒的に高い。順に「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」「男性の家事参加への理解・意識改革」「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が続く。性別で見ると、ほとんどの項目で女性の割合が男性を上回る。中でも「男性の家事参加への理解・意識改革」は女性の方が7.2ポイント高く、特に女性の共働きと離別で高く、男性の20代でも高くなっていった。「仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」は、女性の共働きの場合に高い。男性の割合が女性を上回るのは「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」で男性の20代、30代で高く、女性の未婚者でも高くなっている。

女性が結婚や出産を経ても仕事と家庭を両立しながら働き続けるためには、子どもを預けられる施設の充実が重視されており、今後も、施策として進める必要があるが、職場の意識の醸成や、男性自身の家事参画の意識改革が求められる。男女双方の働き方改革は若い年代で重視されており、今後は男性が定時で家に帰って家事参画できるような職場環境があつてこそ、女性の就労継続が可能になることを、事業所へ啓発していく必要がある。

5. セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

女性が、妊娠するかどうか、いつ産むかなど性と生殖に関して自ら決定する権利は、国際的に認められた女性の人権である。今回調査で、妊娠や性に対する考え方をたずねた。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分に話し合うべきである」については、『思う』

は男女とも約9割だが、積極的に肯定する「そう思う」は女性が男性をやや上回る。男女とも年代の低い層で積極的な肯定が高い。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で合意できない場合は、女性の意思が尊重されるべきある」については、『思う』は男女とも6割前後で、『思わない』は2割を超え、判断を保留する「わからない」が1割半ばある。積極的な肯定は女性の方が男性よりやや高く、男女とも年齢の低い層や未婚者で肯定する割合が低い。妊娠や性に関してのカップル間で話し合うことは支持されているが、女性の性的自己決定権への支持は低いことがわかる。

セクシュアル・ハラスメントの被害経験については、「自分が直接受けたことがある」が女性は約15%で男性の約2%を大きく上回る。女性で最も高いのは30代で2割を超え、40代と50代も平均を超え、一方、男性では20代が最も高くなっている。被害が発生した場所では、「職場」が男女とも8割半ばで圧倒的に高く、「地域」は女性では13%で男性はなく、「学校」は男性では約14%で女性を上回る。男性は、「その他」が約3割で高くなっている。セクハラが起きる場所は「職場」以外では、男女でやや傾向が異なる。セクシュアル・ハラスメントを受けた時に、「特に何もしなかった」は女性では半数を超え男性より約23ポイントも高い。男女とも「相手に直接抗議した」が2割を超え、男性では身近な人に相談した人も同率となっているが、「公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した」は女性にややあるものの割合は低い。

「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」「セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている」という見聞きについては、男性の方が女性より高く、特に30代で他の年代より高くなっていた。見聞きについては、男性は前回調査よりも高く、男性のセクシュアル・ハラスメントへの認識が高まっていることが背景にあるかと推察される。

ドメスティック・バイオレンス(DV)にあたる行為について、暴力と思うかどうかをたずねた。「身体を傷つける可能性のある物で殴る」「刃物などを突きつけておどす」は9割半ば、「足でける」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は8割半ばと高いが、「何を言っても長期間無視し続ける」「大声でどなる」の精神的暴力、「交友関係や電話を細かく監視する」の社会的暴力は、DVであるという認識が低い。男性が女性と比べてDVと認識していない行為は「大声でどなる」で、特に50代と60代の男性で認識が低い。また、経済暴力と社会的暴力も男性の認識は女性より低くなっていた。とはいえ、前回調査と比較すると、男女とも「どんな場合も暴力にあたる」と回答する人の割合が増えており、DVについて正しく認識している男性は増えている。

この3年間でDVを受けた経験については、身体暴力は男女とも5%前後で、男性が女性を上回っている。精神的暴力、性的暴力は女性の方が男性を上回っている。これらの暴力をいずれか1つでも受けた人は男女とも約1割で、共働きの場合や離別の場合に高い。DVを受けた人が相談した相手は身近な「家族や親せき」と「友人・知人」が多く、女性ではどちらも3割から3割半ばで、男性は1割から1割半ばと女性より低い。一方で公的機関や専門機関に相談した人は少ない。「どこ(誰)にも相談しなかった」人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも半数を超える。女性で高いのは「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が約半数あり、「相談してもむだだと思ったから」も高い。DV相談窓口の認知は男女とも6割前後だが、男性の方が低く特に年齢が高い層で認知は低い。

セクシュアル・ハラスメントやDVをなくすために求められることとしては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が男女とも最も高く、女性の割合は男性をやや上回っている。「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」などの教育に関する項目が男女とも約5割と高くなっていた。但し、前回調査と比べると、これらの教育に関する項目は今回の方が低くなっている。

女性の性的自己決定権を尊重しない人は、セクシュアル・ハラスメントやDVの性的暴力の加害者になりやすい。今回調査では、女性のセクシュアル・ハラスメントの被害者もDVの性的暴力被害者も一定数あり、女性の性的被害を防止するためには性的自己決定権についての学習は重要である。男性のセクシュアル・ハラスメントについて年齢の低い層で被害者が多く、年代によって暴力の認識が異なることも推察される。何がセクハラに当たるか、男性も被害を受けること、また、DVの精神的暴力や社会的暴力についての認識を高めることなど、今後の啓発に求められる。また、相談しやすい窓口の整備および窓口に関する情報の周知とともに、相談された被害者の身近な人が二次加害をしないよう、DVに関しての一般的な啓発を行うことが重要である。

6. 男女共同参画社会を実現するために行政が今後力を入れること

男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知では、男女とも最も高いのは「男女雇用機会均等法」で7割を超え、「育児・介護休業法」「配偶者暴力防止法（DV防止法）」も約6割で高いが、前回調査よりは認知は低くなっていた。一方で、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」は前回より20ポイント高く、男女とも年齢の低い層で高くなっている。今回、新たにたずねた「LGBT（性的少数者）」は5割を超えて高く、特に年齢の低い層で高くなっていた。「かすや地区女性ホットライン」「粕屋町男女共同参画推進条例」の町に関わる項目の認知は1割前後にとどまるが、前者は女性の30代から50代、後者は70代以上の年齢での認知はやや高い。

男女共同参画社会を実現するために行政に力を入れていくべきことについては、「保育や介護の施設・サービスを充実する」は女性で最も高く、特に子育て期の30代では6割半ばと高くなっていた。「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は男性の第1位で、妻が再就職する年代にあたる40代では約6割と他の年代より高くなっていた。「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」という就労環境の整備については男女の40代以下で高くなっている。

子育てや介護と就労との両立支援が行政に求められており、就労状況や年代など個々の実情に応じた取組を進めていくことが必要である。

参考資料
使用した調査票

粕屋町男女共同参画に関する意識調査

平成31年4月

各位

粕屋町長 箱田 彰

アンケート調査ご協力をお願い

町民の皆さまには、日頃から町政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

粕屋町では、「女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある粕屋町を構築する」を基本理念とした「粕屋町男女共同参画基本計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けてさまざまな施策に取り組んでいるところです。この計画の期間は平成27年度から平成36年度までとなっており、計画の中間年にあたる平成31年度に見直しを行います。

つきましては、皆さまのご意見をおうかがいし、町政に反映させたいと思っております。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

<回答についてのお願い>

【調査票の記入について】

この調査は、粕屋町にお住いの20歳以上の方3,000人を無作為に抽出し、ご協力をお願いするものです。また、この調査は無記名の調査であり、統計的に処理しますので、回答により個人が特定されることはありません。ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には一切使用いたしません。

1. この調査は、封筒の宛名の方がご記入ください。
2. ご回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。選択する○印の数は「1つだけ」、「いくつでも」などありますので、質問文にご注意ください。
3. 「問」で始まる質問は、おおむね全員の方におたずねする質問です。「付問」は、前問で一定の条件にあてはまる方だけにおたずねするものです。その方のみご回答ください。
4. 記入は、鉛筆、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
5. 「その他」にお答えいただいた方は、その内容をできるだけ具体的にご記入ください。

【調査票の回収について】

ご記入いただきました調査票は同封の返信用封筒に入れ、5月15日(水)までに投函してくださいませよう願います。(切手は不要です。)

協働のまちづくり課窓口にご持参いただいてもかまいません。

【調査についてのお問い合わせ】

粕屋町役場 協働のまちづくり課

〒811-2392 粕屋町駕与丁一丁目1番1号

TEL: 092-938-0173 (直通) FAX: 092-938-3150

男女平等に関する意識について

問1. あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

次の（ア）から（ク）のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（ア） 家庭生活で ⇒	1	2	3	4	5	6
（イ） 職場で ⇒	1	2	3	4	5	6
（ウ） 学校教育の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
（エ） 政治の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
（オ） 法律や制度のうえで ⇒	1	2	3	4	5	6
（カ） 社会通念、慣習、しきたりなどで ⇒	1	2	3	4	5	6
（キ） 地域活動・社会活動の場で ⇒	1	2	3	4	5	6
（ク） 社会全体で ⇒	1	2	3	4	5	6

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。（○は1つだけ）

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問3. あなたは、子どもの教育についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
（ア）女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ ⇒	1	2	3	4	5
（イ）男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ ⇒	1	2	3	4	5
（ウ）男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい ⇒	1	2	3	4	5

問4. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は3つまで）

1. 一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
2. 発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
3. 家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
4. 生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること
5. PTAなどと連携して、男女平等教育の理解と協力を深めること
6. 働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
7. 管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
8. 教職員に対する男女平等などの研修を行うこと
9. その他（具体的に _____)



家庭生活について

【現在「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」におたずねします。】

問5. あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。次の（ア）から（ク）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	主に夫	主に妻	夫・妻同程度	その他の家族	該当しない・わからない
（ア）家計を支える（生活費を稼ぐ） ⇒	1	2	3	4	5
（イ）掃除、洗濯、食事の支度などの家事 ⇒	1	2	3	4	5
（ウ）育児、子どものしつけ ⇒	1	2	3	4	5
（エ）子どもの教育方針・進路目標の決定 ⇒	1	2	3	4	5
（オ）家計の管理 ⇒	1	2	3	4	5
（カ）高額の商品や土地、家屋の購入決定 ⇒	1	2	3	4	5
（キ）親の世話（介護） ⇒	1	2	3	4	5
（ク）町内会・自治会などの地域活動 ⇒	1	2	3	4	5

問6. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先
（ア）あなたの希望 ⇒	1	2	3	4	5	6	7
（イ）あなたの現実（現状） ⇒	1	2	3	4	5	6	7

問7. あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の(ア)、(イ)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つだけ)

※項目ごとに横に見てお答えください	とる方がよい	どちらかといえは とる方がよい	どちらかといえは とらない方がよい	とらない方がよい	わからない
(ア) 男性の育児休業 (*1) ⇒	1	2	3	4	5
(イ) 男性の介護休業 (*2) ⇒	1	2	3	4	5

(*1) 育児休業・原則1歳未満の子を養育する労働者が法律に基づいて取得できる休業のことです。両親がともに育児休業を取得するなど一定の要件を満たす場合、取得可能期間を1歳2か月まで延長できます。(パパ・ママ育休プラス)

(*2) 介護休業・家族が病気や怪我、精神的な疾患などによって介護が必要な状態になった時、介護を行う労働者が比較的長く取得できる休業のことです。

問8. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男性が家事などに 参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
7. 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 国や地方自治体などの研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める
9. 男性が子育てや介護を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめる
10. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
11. その他(具体的に)
12. 特に必要はない

地域活動について

問9. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動を何かしていますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会や町内会での活動
2. 子ども会育成会、老人クラブ、婦人会、青年団などの活動
3. PTA活動、青少年健全育成に関する活動
4. 趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動
5. 社会奉仕やボランティア活動（児童文庫、子育て、福祉、環境、国際交流など）
6. 特に参加していない
7. その他（具体的に)

→【問9で「6. 特に参加していない」と答えた方におたずねします。】

付問9-1. あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1. 活動するための施設が近くにないから
2. 社会的活動に関心がないから
3. 地域で興味や関心の持てる活動が行われていないから
4. 地域活動に関する情報が少ないから
5. きっかけがないから
6. 忙しくて時間がないから
7. 自分が高齢・病弱だから
8. 経済的に余裕がないから
9. 家族の理解や協力が得られないから
10. 一緒に参加する仲間がないから
11. 他人と一緒に活動するのがわずらわしいから
12. その他（具体的に)



問 10. 仮にあなたが、次の（ア）から（オ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		積極的に引き受ける	なるべく引き受ける	なるべく断る	絶対に断る
（ア）	PTA会長・子ども会育成会長 ⇒	1	2	3	4
（イ）	自治会長 ⇒	1	2	3	4
（ウ）	職場の管理職 ⇒	1	2	3	4
（エ）	県や市町村の審議会や委員会のメンバー ⇒	1	2	3	4
（オ）	市町村長や地方自治体議員 ⇒	1	2	3	4



【問10で（ア）から（オ）のうち、ひとつでも「3. なるべく断る」、「4. 絶対に断る」と答えた方におたずねします。】

付問10-1. 引き受けないのはどのような理由からですか。（〇はいくつでも）

1. 責任が重いから
2. 知識や経験の面で不安があるから
3. 時間的な余裕がないから
4. 経済的な余裕がないから
5. 家族の同意が得られないから
6. 人間関係がわずらわしいから
7. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
8. こうした役職に興味がないから
9. その他（具体的に

)

問 11. あなたが住んでいる地域において、以下のようなことがありますか。（〇はいくつでも）

1. 町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある
2. 会議などで女性が意見を言いにくい、または意見が取り上げられにくい雰囲気がある
3. 会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い
4. 男性が上座に、女性が下座に座る会合がある
5. 男女の役割に大きな差はない
6. 積極的に活動している女性グループや女性のリーダーがいる
7. 自治会役員（組合）は男性で登録しているが、会合には女性が行く
8. その他（具体的に
9. わからない
10. 特にない

)

問 12. 地域活動において、女性の積極的な参画を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。(○は1つだけ)

1. 家族が家事・育児の分担をする
2. 男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する
3. 女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する
4. 育児や介護を支援するための施設を充実させる
5. さまざまな立場の人が参画しやすいよう、活動時間帯を工夫する
6. 女性自身が積極的に参画する意識を持つ
7. 女性の参画は必要と思わない
8. その他（具体的に

)

問 13. 東日本大震災では、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が生かされていないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。

(○は2つまで)

1. 町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
5. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7. 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8. 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
9. その他（具体的に
10. 特にない

)



職業について

問 14. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。(〇は1つだけ)

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他 (具体的に)

→【問 14 で「2.」～「5.」のいずれかに答えた方におたずねします。】

付問 14-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正當に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整ってないから
8. その他 (具体的に)

問 15. 女性が職業をもち、働きつづけるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援サービスの充実
3. 家事・育児支援サービスの充実
4. 男性の家事参加への理解・意識改革
5. 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
6. 働き続けることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
8. 女性の能力の正當な評価や管理職への積極的な登用
9. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
10. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
11. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
12. 仕事と家庭を両立できる制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり
13. 職業生活を続けていく上での相談窓口の充実
14. その他 (具体的に)
15. 特にない
16. わからない

セクシュアル・ハラスメントやDV（配偶者や恋人間の暴力）について

問 16. 次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 （○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
（ア）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである ⇒	1	2	3	4	5
（イ）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである ⇒	1	2	3	4	5

問 17. あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

- 1. 自分が直接受けたことがある
- 2. セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている
- 3. セクシュアル・ハラスメントを受けた男性を知っている
- 4. 自分のまわりではそのようなことがない

→ 【問 17 で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方におたずねします。】

付問 17-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた場所はどこですか。（○はいくつでも）

- 1. 職場
- 2. 学校
- 3. 地域
- 4. その他（具体的に)

→ 【問 17 で「1. 自分が直接受けたことがある」と答えた方におたずねします。】

付問 17-2. その後、あなたはどのような行動をとりましたか。（○はいくつでも）

- 1. 相手に直接抗議した
- 2. 職場の上司や学校の先生などに相談した
- 3. 家族や友人に相談した
- 4. 公的な相談機関や警察、弁護士などに相談した
- 5. その他（具体的に)
- 6. 特に何もしなかった

問 18. あなたは、次にあげるようなことが夫婦・パートナー、恋人間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。次の（ア）から（サ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		どんな場合でも 暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、 そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
（ア）平手で打つ	⇒	1	2	3
（イ）足でける	⇒	1	2	3
（ウ）身体を傷つける可能性のある物でなぐる	⇒	1	2	3
（エ）なぐるふりをして、おどす	⇒	1	2	3
（オ）刃物などを突きつけて、おどす	⇒	1	2	3
（カ）嫌がっているのに性的な行為を強要する	⇒	1	2	3
（キ）見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	⇒	1	2	3
（ク）何を言っても長期間無視し続ける	⇒	1	2	3
（ケ）交友関係や電話を細かく監視する	⇒	1	2	3
（コ）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う	⇒	1	2	3
（サ）大声でどなる	⇒	1	2	3

問 19. この3年間くらいのうちに、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
 （○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		1・2度あった	何度もあった	まったくない
（ア）	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた ⇒	1	2	3
（イ）	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた ⇒	1	2	3
（ウ）	いやがっているのに性的な行為を強要された ⇒	1	2	3



【問 19 で（ア）から（ウ）のうち、ひとつでも「1. 1・2度あった」「2. 何度もあった」と答えた方におたずねします。】

付問 19-1. あなたが受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

1. かすや地区女性ホットラインに相談した
2. 警察に連絡・相談した
3. 1～2以外の公的な機関に相談した
4. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
5. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
6. 家族や親せきに相談した
7. 友人・知人に相談した
8. その他（具体的に _____）
9. どこ（誰）にも相談しなかった

→ 付問 19-1 で「9. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方は、次ページの付問 19-2 へお進みください。



【付問 19-1 で「9. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。】

付問 19-2. どこ（誰）にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

1. どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いと思ったから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（具体的に

【全員におたずねします。】

問 20. あなたはDV（配偶者からの暴力）について相談できる窓口があることを知っていますか。

（〇は1つだけ）

1. 知っている
2. 知らない

問 21. セクシュアル・ハラスメントやDVなどへの関心が高まっていますが、このようなことをなくすためには、あなたはどうしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. 職場における男女平等意識を徹底させる
5. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
6. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
7. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
8. その他（具体的に
9. 特にない

男女共同参画社会の実現について

問 22. 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

1. 男女共同参画社会
2. 男女雇用機会均等法
3. 女子差別撤廃条約
4. 配偶者暴力防止法 (DV防止法)
5. 育児・介護休業法
6. 女性活躍推進法
7. ポジティブ・アクション (積極的改善措置)
8. ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)
9. デートDV
10. ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)
11. LGBT (エル・ジー・ビー・ティー/性的少数者)
12. かすや地区女性ホットライン
13. 粕屋町男女共同参画推進条例
14. 見たり聞いたりしたものはない

問 23. 粕屋町では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。
この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(○は3つまで)

1. 学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する
2. 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する
3. 仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける
4. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
5. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
6. 保育や介護の施設・サービスを充実する
7. 審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
8. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
9. 配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
10. セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の啓発活動を充実する
11. 女性リーダーの養成・研修の場を充実する
12. 男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める
13. その他 (具体的に)
14. 特にない

次ページへ ⇒

使用した調査票 -----

問 24. 男女共同参画に関して、女性の意見を町政により反映させていくために必要なことなど、粕屋町へのご意見・ご希望などありましたら、自由にご記入ください。

調査は以上で終了す。

お忙しい中、長時間にわたりご協力ありがとうございました。

記入もれなどがないか再度ご確認ください、5月15日(水)までに同封の返信用封筒(切手不要)にてご返送ください。

協働のまちづくり課窓口にご持参いただいてもかまいません。

粕屋町男女共同参画に関する意識調査報告書

令和元年 12 月

発 行 粕屋町 協働のまちづくり課

〒811-2392

福岡県糟屋郡粕屋町駕与丁一丁目 1 番 1 号

TEL (092) 938-0173